



HIC-SF1200A

取扱説明書

HYTEC INTER Co., Ltd.

第 1.4 版

ご注意

- 本書の中に含まれる情報は、当社（ハイテクインター株式会社）の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部を複製または転載することは禁止されています。
- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一、ご不審な点や誤り、記載漏れなどのお気づきの点がありましたらご連絡ください。

改版履歴

第 1 版	2024 年 8 月 1 日	新規作成
第 1.1 版	2024 年 9 月 26 日	ご使用上の注意事項 見直し
第 1.2 版	2024 年 10 月 21 日	ユーザ名とパスワード設定 注意事項追記
第 1.3 版	2025 年 7 月 15 日	基本情報の見直し
第 1.4 版	2026 年 4 月 27 日	バージョン 5.3.0 対応

ご使用上の注意事項

- 本製品及び付属品をご使用の際は、取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品は、一般事務用、通常の産業等の一般的用途を想定した製品であり、ハイセイフティ用途*での設備や機器としての使用またはこれらに組込んだ使用は意図されておりません。これらの設備や機器、システムなどに本製品を使用され、本製品の故障等により、人身事故、火災事故、社会的な損害が生じても当社はいかなる責任も負いかねます。お客様が、本製品をハイセイフティ用途に使用される場合は、必要な安全性を確保する措置を施す等十分な配慮をお願いします。

*：極めて高度な信頼性や安全性が要求され、機器の故障、誤動作により、信頼性や安全性が確保されない場合、生命、身体や財産等に損害を及ぼす恐れがある用途
- 本製品及び付属品を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。
- 本製品及び付属品の故障、誤動作、不具合、あるいは天災、停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粹経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品及び付属品は、改良のため予告なしに仕様が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。
- 本製品を掃除する時は、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤をご使用ください。
- 太陽光などの非常に明るい被写体にカメラを向けるのは避けてください。イメージセンサが損傷する可能性があります。
- 本製品を使用する場合、Microsoft、Apple、Googleの関連コンテンツが含まれます。本ユーザーマニュアルの写真とスクリーンショットは、当社製品の使用方法を説明するためだけに使用しています。Microsoft、Apple、Googleに関連する商標、ロゴおよびその他知的財産の所有権は、上記の企業に帰属するものとします。

免責事項

- インターネットにアクセスできる製品に関しては、製品の使用は完全にお客様自身の責任で行われるものとします。当社は、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス検査、その他のインターネットセキュリティリスクにより生じた異常動作、プライバシー漏えいその他の損害について、一切責任を負わないものとしますが、必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
- 監視法は国によって異なります。監視目的で本製品を使用する前に、お住まいの地域のすべての法律を確認してください。私たちは、違法な操作によって生じるいかなる結果についても責任を負いません。

サイバーセキュリティに関する推奨事項

- 強力なパスワードを使用します。パスワードには、少なくとも 8 文字、または文字、数字、大文字と小文字の組み合わせを使用する必要があります。
- デバイスのパスワードを定期的に変更して、承認されたユーザのみが system にアクセスできるようにします（推奨時間は 90 日です）。
- サービスのデフォルトポート(HTTP-80、HTTPS-443など)を変更して、部外者がアクセスできるリスクを軽減することをお勧めします。
- ルータのファイアウォールを設定することをお勧めします。しかし、いくつかの重要ポート(HTTPポート、HTTPSポート、データポートなど)は閉じることができません。
- デバイスを直接公衆ネットワークに接続することはお勧めしません。公衆ネットワークに接続する必要がある場合は、ルータを介しそれに対応するファイアウォールポリシーを設定してください。
- SNMP の v1 および v2 機能を使用することは推奨されません。
- WEBクライアントアクセスのセキュリティを強化するために、HTTPSを有効にするTLS証明書を作成してください。
- ブラックリストとホワイトリストを使用してIPアドレスをフィルタリングします。これにより、指定された IP アドレスを除くすべての人がシステムにアクセスできなくなります。
- 複数のユーザを追加する場合は、ゲストアカウントの機能を制限してください。
- UPnP (Universal Plug and Play) 機能を有効にすると、ルータまたはモデムのポートの転送が自動的に試行されます。ユーザにとっては便利な機能ですが、システムが自動的にポートを転送するためデータ漏洩のリスクが高まります。UPnP (Universal Plug and Play) 機能を必要としない場合は、無効に設定することをお勧めします。
- ログを確認してください。権限のないユーザによってデバイスがアクセスされたかどうかを知りたい場合は、ログで確認できます。システムログには、システムのログインに使用された IP アドレスとアクセスされた IP アドレスが表示されます。

規制情報

電波障害自主規制について

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A



RoHS

製品は、電気および電子機器における特定の有害物質の使用の制限に関する指令 EU RoHS 指令 2011/65/EU および修正指令 EU 2015/863 に従って設計され、製造されています。

2012/19/EU(WEEE 指令): 廃電・電子機器に関する指令(WEEE 指令)。WEEE の環境管理を改善するためには、寿命の末に電子機器の回収、処理、リサイクルの改善が不可欠です。したがって、この記号でマークされた製品は、責任ある方法で廃棄する必要があります。

指令 94/62/EC: この指令は、包装および包装廃棄物および環境保護の管理を目的としています。本書に記載されている製品の包装・包装廃棄物は、適切なリサイクルと環境保護のために、指定された収集ポイントで廃棄する必要があります。

REACH(EC1907/2006): REACH は化学物質の固有特性をより適切かつ早期に同定することで、人の健康と環境の高いレベルの保護を確保することを目的とした化学物質の登録、評価、認可、制限に関するものです。本書の製品は、REACH の規則および規則に準拠しています。REACH の詳細については、**DG GROWTH** または **ECHA** のウェブサイトをご覧ください。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになった後はいつでも見られる所に保管してください。

**尚、本書のメニュー画面は Microsoft Edge でアクセスした HIC-SF1200A の画面を採用し
ファームウェアバージョンは、5.3.0 (31132) で作成しています。**

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

お買い上げになった機器に当てはまらない注意事項もありますが、ご了承ください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

使用上の注意



警告



- **本機に乗らない！**
倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。



- **本機の上に重いものを置かない！**
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因になることがあります。



- **移動させる場合は、必ず電源スイッチを切り、プラグを抜き、機器間の接続ケーブルをはずす！**
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



- **長期間使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く！**
火災の原因となることがあります。



- **専用 AC アダプタ以外は使用しない！**
定格外の AC アダプタを使用すると、火災・感電の原因になることがあります。



- **電源コードを傷つけない！ 加工しない！ 無理に曲げない！ ねじらない！
引っ張らない！ 加熱しない！**
コードが破損して火災・感電の原因となります。




- **雷が鳴り出したら、同軸コネクタ/ケーブルや電源プラグに触れない！**
感電の原因になります。





- **指定された消費電力 (W) を越える装置は接続しない！**
火災の原因となります。本機の AC アウトレットが供給できる電力 (W) は AC アウトレット付近または取扱説明書に表示してあります。





- **レンズで太陽・照明などをのぞかない！**
強い光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。


 ● **本機のケース・裏パネル等はずさない!**
内部には高圧の部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店または営業マンにご依頼ください。





 ● **本機の上に水などの入った容器を置かない!**
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因になります。

 ● **風呂、シャワー室などの水場では使用しない!**
火災・感電の原因となります。

 ● **本機の上に小さな金属物を置かない!**
中に入ると、火災・感電の原因となります。

 ● **表示された電源電圧以外は使用しない!**
火災・感電の原因となります。

 ● **本機に水を入れたり、濡らしたりしない!**
火災・感電の原因になります。
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。


 ● **本機の開口部から金属物や燃えやすいものなどの異物を差し込まない! 落とし込まない!**
火災・感電の原因となります。


 ● **本機を改造しない!**
火災・感電の原因となります。

設置について



警告

 ● **不安定な場所に置かない!**
落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。

 ● **電源コードの上に重いものを置かない! 本機の下敷きにしない!**
コードが傷ついて、火災・感電の原因になります。コードの上を敷物などで覆うと、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



- **水場に設置しない！**
火災・感電の原因となります。



- **指定された機器以外とは接続しない！**
火災・感電の原因となります。



- **本機の固定は工事専門業者に依頼を！**
本機を固定する場合は、指定された方法できちんと固定しないと、落ちたり、倒れたりして、火災・感電・けがの原因になります。特に、壁や天井に固定する場合は、必ず工事専門業者にご依頼ください。なお、取付け費用については、販売店または営業マンにご相談ください。



- **湿気やほこりの多い場所に置かない！**
火災・感電の原因となることがあります。



- **調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気が当たる場所に置かない！**
火災・感電の原因となることがあります。



- **本機の通風孔をふさがない！**
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。
 - ・本機を仰向けや横倒し、逆さまにする。風通しの悪い狭い所に押し込む。
 - ・じゅうたんや布団の上に置く。テーブルやクロスなどを掛ける。



- **電源コードを熱器具に近づけない！**
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



- **電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない！**
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない！**
感電の原因となることがあります。

異常時の処理について



警告



- 煙が出ている、変なおいや音をするなどの異常状態の場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認して、販売店または営業マンに修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



- 本機の内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



- 本機の内部に異物が入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



- 本機が故障した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンに修理をご依頼ください。



- 本機を落としたり、ケースが破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



- 電源コードが傷んだ（芯線の露出・断線など）場合は、交換を依頼する！

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンに交換をご依頼ください。

お手入れについて



注意



- **お手入れの際は安全のため、スイッチを切り電源プラグを抜く！**
感電の原因となることがあります。



- **一年に一度くらいは、販売店または営業マンに内部の掃除の相談を！**
本機の内部にほこりがたまったまま使用し続けると、火災・故障の原因になることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。
なお、掃除費用については販売店または営業マンにご相談ください。



注意

本パッケージに含まれる内容に損傷、不足、不適當なものがあつた場合、お住まいの地域の販売店までご連絡ください。本製品の不正改造を行うと保証の対象外となります。

その他



通知

- 本書に記載された情報は予告なしに変更される場合があります。
- 本書に含まれる情報は、あくまで参考用とみなされます。



通知

- インターネットを経由する機能については、お客様のインターネット環境に合わせた設定が必要です。
- お客様のインターネット環境の変更が必要となる場合もあります。

目次

1. はじめに	15
1.1 製品概要	15
1.2 特徴	15
1.3 監視アプリケーション	16
1.4 梱包物一覧	16
1.5 製品外観	17
1.6 カメラの設置例	18
2. ネットワーク接続	19
2.1 LAN	19
2.1.1 IP-Tool によるアクセス	19
2.1.2 ブラウザから直接アクセス	22
2.2 WAN	23
3. ライブ画面	25
4. 設定ホーム	31
4.1 システム設定	32
4.1.1 基本情報	32
4.1.2 日付と時間	33
4.1.3 ローカル設定	35
4.1.4 ストレージ	36
4.1.5 シリアルポート (未サポート)	43
4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)	44
4.2 画像設定	45
4.2.1 画質調整	45
4.2.2 映像/音声	50
4.2.3 OSD	53
4.2.4 プライバシーマスク	55
4.2.5 ROI 設定	56
4.3 アラーム設定	57
4.3.1 モーション検出	57
4.3.2 異常	64

4.3.3	アラーム入力	68
4.3.4	アラーム接点出力	69
4.3.5	アラームサーバ	73
4.3.6	音声アラーム	74
4.3.7	音声例外	77
4.3.8	アラーム解除	79
4.4	イベント設定	80
4.4.1	ラインクロス (ライン越え検知)	81
4.4.2	領域に入る (エリア侵入検知)	85
4.4.3	領域を出る (エリア退出検知)	89
4.4.4	ターゲットカウント (ライン通過カウント)	93
4.4.5	エリア侵入検知 (エリア内活動検知)	98
4.4.6	ヒートマップ	102
4.5	ネットワーク	104
4.5.1	TCP/IP	105
4.5.2	ポート	108
4.5.3	サーバ	109
4.5.4	ONVIF	111
4.5.5	DDNS	112
4.5.6	SNMP (未サポート)	115
4.5.7	802.1X	118
4.5.8	RTSP	119
4.5.9	RTMP	121
4.5.10	UPnP	124
4.5.11	Email	125
4.5.12	FTP	127
4.5.13	HTTP POST	129
4.5.14	HTTPS	132
4.5.15	NAT	135
4.5.16	QoS	136
4.6	セキュリティ設定	137
4.6.1	ユーザ	137
4.6.2	オンラインユーザ	141
4.6.3	ブロックと許可リスト	142
4.6.4	セキュリティ管理	143
4.7	メンテナンス	146

4.7.1	バックアップと復元.....	146
4.7.2	再起動	148
4.7.3	アップグレード.....	149
4.7.4	操作ログ	151
4.7.5	シリアル出力（工場メンテナンス用）	152
4.7.6	メンテナンス情報.....	152
5.	チャート	153
5.1	ターゲットカウント（ライン通過カウント）	153
5.2	ヒートマップ	155
6.	検索.....	156
6.1	録画検索	157
6.1.1	SD カード録画（動画）	157
6.2	画像検索	159
6.2.1	SD カード画像（静止画）	159
7.	製品仕様.....	160
8.	困ったときには	166
◆	パスワードを忘れたときの対処方法	166
●	リセットボタンを操作して初期化する。.....	166
●	IP Tool で初期化する。.....	167
◆	本機から YouTube Live 配信設定手順.....	168
◆	本体の電源が入らない.....	175
◆	RJ-45 ポートでリンクが確立しない	175
◆	ブラウザ経由でデバイスを接続できない	175
◆	IP-Tool でデバイスを見つけられない	176
◆	プラグインをインストールしたが Edge の IE 互換モードで映像を表示できない。.....	176
◆	プラグインをアンインストールしたい.....	176
◆	音が聞こえない	177
9.	製品保証.....	178

1. はじめに

1.1 製品概要

本モデルは、1/1.7"12メガピクセル CMOS センサーを使用し、最大 9 メガピクセルの 360 度魚眼モード撮影と 12 メガピクセルのパノラマ撮影が可能な全方位ネットワークカメラです。360 度の魚眼画像と 180 度パノラマ画像、90°画像を同時に出力することができ、1 台であらゆる視点からの監視に対応しています。

ディープラーニング推論エンジンによる「人間」「車両」「オートバイ/自転車」の認識機能を搭載し、人物や車両の不正な侵入をリアルタイムで検知し迅速に通知します。進化したアルゴリズムにより、誤検知を最小限に抑え、高い信頼性を実現しています。※「車両」「オートバイ/自転車」の検出は壁面モードのみ

オートホワイトバランス機能、逆光補正、自動絞り機能、自動電子シャッター機能など、豊富な機能を装備し、屋外にも設置可能なネットワークカメラです。

H.264/H.265 の画像圧縮方式に対応しており、高画質および高データ圧縮率を実現しています。

PoE 機能も搭載しており、PoE ポート内蔵の NVR と組み合わせることで、プラグ & プレイの接続が可能です。

1.2 特徴

- 1/1.7" 12 メガピクセル CMOS センサーを搭載し、高解像度・高画質を実現
- PoE 給電対応
- 赤外線 LED を装備し、夜間の照明のない環境でも撮影可能
- H.264/H.265/MJPEG 対応 (H.264 よりも更に圧縮率を高めた H.265/H.265+ にも対応)
- 360 度魚眼、180 度パノラマ、120 度/90 度 (デジタル PTZ 対応) の異なる画角の映像を 9 系統のストリーミングで同時配信可能
- WDR 機能、BLC 機能により、逆光等の明暗差が大きな被写体でも、最適な画質に調整
- ディープラーニング推論エンジンによる「人間」「車両」の検出
- 多彩なスマート検知機能やカウント機能に対応
- Youtube Live に配信可能な、RTMP プロトコルに対応
- ブラウザ接続は、Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla FireFox などに対応
- Micro SD カードへの録画が可能です。録画スケジュールの設定も可能
- モーション検知、妨害検知、プライバシーマスク、メール送信、DDNS 等豊富な機能を装備
- 多彩な外部 I/F を装備 (アラーム入出力、音声入出力 (本体にマイク内蔵))
- 専用 NVR や VMS での、多彩な映像表示パターンとデジタル PTZ 制御に対応
- IP67 規格対応の防塵・防水構造

1.3 監視アプリケーション

カメラとコンピュータを LAN で接続



カメラと NVR を録画装置で接続



カメラと CMS（監視ソフトウェア）を接続



1.4 梱包物一覧

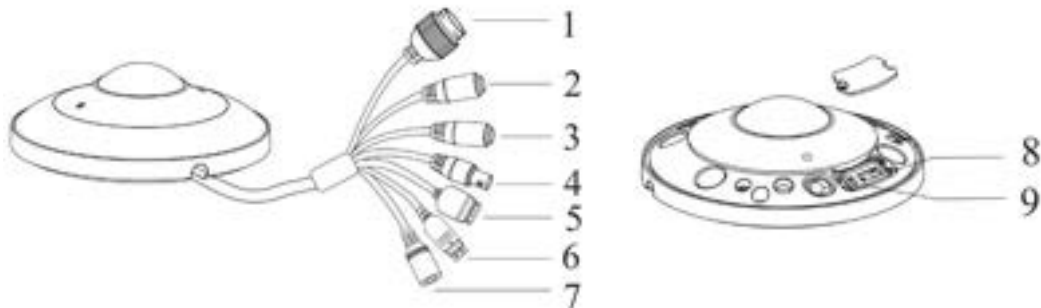
ご使用いただく前に本体と付属品を確認してください。万一、不足の品がありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店までご連絡ください。

● HIC-SF1200A

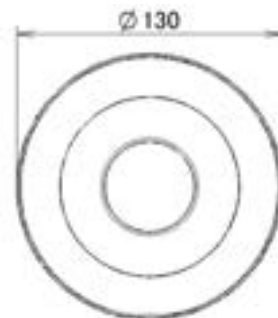
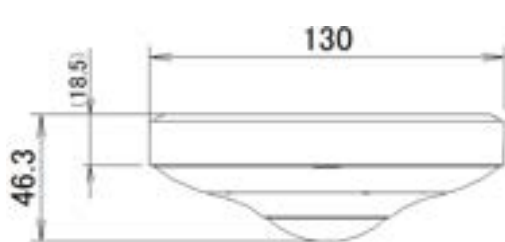
名 称	数 量
本体	1 台
ネジ、アンカー（各 3 本）	1 式
レンチ	1 本
ドリルプレート	1 枚
クイックマニュアル	1 枚

1.5 製品外観

● スマート PTZ カメラ HIC-SF1200A



#	表示	説明
1	Ethernet	LAN ケーブル接続(10Mbps/100Mbps) ※PoE 対応
2	MIC	オーディオ入力 (LINE) (3.5mm)
3	HP	オーディオ出力 (3.5mm)
4	VIDEO	アナログ映像出力 (CVBS)
5	ALARM	アラームの入力/出力 1 : ALARM COM、2 : ALARM OPEN 3 : ALARM INA、4 : ALARM GND
6	RS485	RS485 制御コントローラに接続
7	POWER	DC12V 入力
8	SD カードスロット	レンズ横の蓋 (ネジ 2 本) を外してメモリカード (Micro SD/SDHC/SDXC) をスロットに挿入します。SD カードに録画、スナップショットの保存を行います。 (※Edge/Chrome/FireFox では SD カード録画のダウンロードはできません。)
9	リセット	カメラの電源を入れた後、リセットボタンを 10 秒以上押し続けて、工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。



単位 : mm

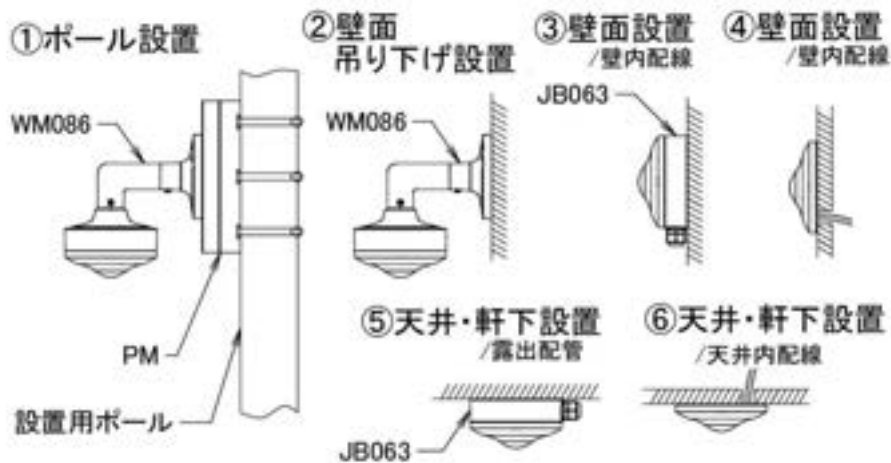
1.6 カメラの設置例

本製品の設置方法について説明します。以下の注意点をご確認の上、設置してください。

- 注 1** 壁または天井がカメラの 3 倍の重量に耐えられる強度であることを確認してください。
- 注 2** カメラは乾燥した場所に設置してください。下部ドームまたはカバーを取り外す場合、4 時間以内に元に戻してください。
- 注 3** 取り付けが完了するまで保護フィルムを剥がさないでください。

● 全方位カメラ HIC-SF1200A

- ① 天井面に直接設置する場合は、付属のドリルテンプレートなどを使い、ネジ穴 3 つと、ケーブル穴 1 つ（壁面にケーブルを通す場合）を開けます。付属の取付けねじで固定します
- ② 壁面などに設置する場合は、オプションの壁面取付けアームを使用します。



2. ネットワーク接続

LAN または WAN 経由で IP カメラを接続します。詳細は次のとおりです。

2.1 LAN

LAN では、IP カメラへのアクセス方法は 2 つあります。

2.1.1 IP-Tool によるアクセス


ネットワーク接続：

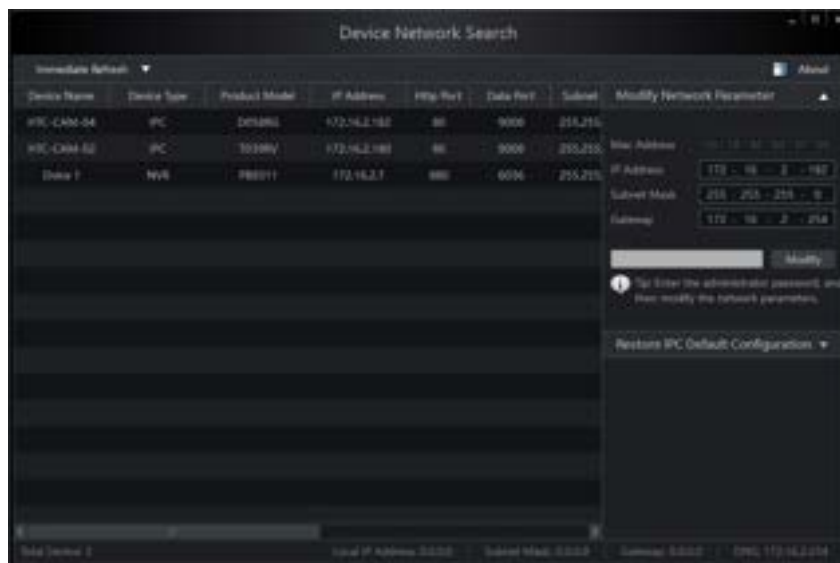


- ① IP-Tool を CD から PC(コンピュータ)にインストールしておきます。

IP-Tool のダウンロードは以下 URL からお願いします。(他のカメラのリンク先の IP-Tool でも使用できます。)

<https://hytec.co.jp/products/camera/video20/hic-sf1200a.html>

- ② PC と IP カメラが LAN で接続されていることを確認します。
- ③ デスクトップ上にある IP-Tool アイコン  をダブルクリックすると、IP-Tool が起動し、ネットワークに接続されたカメラを自動的にサーチしてリストアップします。



- ④ IP アドレスを変更します。本機のデフォルト IP アドレスは 192.168.226.201 です。リストのカメラをクリックすると、右手にネットワーク情報を表示します。ネットワークアドレスがコンピュータのローカルネットワークセグメントと同じであることを確認します。同じでない場合は、カメラの IP アドレスとゲートウェイを変更する必要があります。

例：コンピュータの IP アドレスが 172.16.2.4 である場合、カメラの IP アドレスを 172.16.2.X に設定します。変更後、管理者のパスワードを入力し、[Modify]ボタンをクリックして変更します。

管理者のデフォルトパスワードは“**123456**”です。（カメラの管理者パスワードです。）

- ⑤ リスト内のカメラをダブルクリックすると、ブラウザ（Microsoft Edge）がポップアップして IP カメラに接続します。

- 1) プラグインのインストールを行います。

プラグインのインストールを促すメッセージが表示されたら、[Here](#) をクリックしてダウンロードします。



『保存』をクリックしてダウンロードフォルダにダウンロードします。



-2)ダウンロードが完了したら、一度ブラウザを閉じて、ダウンロードしたプラグインをインストールします。インストールが完了したら、IP-Tool からカメラを選択（ダブルクリック）して、Microsoft Edge を起動してカメラに接続します。

ブラウザの下端にアドオンの実行に関するメッセージが表示されるので『許可』をクリックします。



⑥ 名前とパスワードを入力します。言語は日本語を選択し、ログインします。



デフォルトの名前は “admin” 、デフォルトパスワードは “123456” です。

パスワードを忘れたときは「パスワードをお忘れですか？」をクリックすると、秘密の質問の回答を入力することでパスワードを再設定できます。

- 秘密の質問を利用する場合は、事前に、セキュリティ設定→ユーザの[安全質問（秘密の質問）](#)で秘密の質問と回答を設定します。安全質問（秘密の質問）



- ⑦ デフォルトのパスワード変更を要求されます。セキュリティのために、パスワードの変更をお勧めします。パスワードを変更する場合は、[旧パスワード（現在のパスワード）] [新しいパスワード] [パスワード確認（新しいパスワード）] を入力して [OK] をクリックします。パスワードを変更しない場合は[キャンセル]をクリックします。[Onvif パスワードと一致する]のチェックを有効にすると、Onvif 接続時のパスワードがここで設定したパスワードと同じになります。

パスワードはアルファベット大文字、小文字、数字、記号を組み合わせて、最大 16 文字で設定できます。

正常にプラグインがインストールされた状態でログインに成功すると、ブラウザのライブタブで、ライブ画像を表示することができます。

2.1.2 ブラウザから直接アクセス

カメラのデフォルトネットワーク設定は次の通りです。カメラに初めてログインするときは、下記のデフォルト設定を使用してください。

IP アドレス : 192.168.226.201	サブネットマスク : 255.255.255.0
ゲートウェイ : 192.168.226.1	HTTP ポート : 80
データポート : 9008	

LAN ケーブルを使用して、カメラとコンピュータを直接接続します。



- ① PC の IP アドレスを手動で設定し、IP カメラのデフォルト設定と同じネットワークセグメントにする必要があります。コントロールパネルを開き、ネットワークとインターネット ⇒ ネットワークと共有センター ⇒ アダプタの設定の変更 ⇒ イーサネットを開きます。（例：Windows10/11）
- ② イーサネットのプロパティから[インターネット プロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)]を開きます。PC の IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバを入力し、[OK]をクリックします。
- ③ ブラウザを開き、IP カメラのデフォルト IP アドレスを入力します。
- ④ カメラに接続したら、前節「2.1.1 IP-Tool によるアクセス」の⑤以降と同操作を行います。

2.2 WAN

WAN からルータを介してカメラにアクセスできるようにします。

ネットワーク接続：



- ① カメラがローカルネットワークで接続されていることを確認し、LAN 経由でカメラにログインします。
- ② 設定>ネットワーク>ポートメニュー「4.5.2 ポート」に移動して、ポート番号を設定します。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート	サーバー	ONVIF	DDNS	SNMP	802.1X	RTSP	RTMP
HTTPポート							
HTTPSポート							
データポート							
RTSPポート							
RTSP over TLS							
リスニングポートをサブスクライブ							

8080 有効

保存

- ③ 設定>ネットワーク>TCP/IP メニュー「4.5.1 TCP/IP」に移動して、IP アドレスを設定します。
[以下の IP アドレスを使う]を選択し、IP アドレスなどのパラメータを入力します。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ TCP/IP

IPv4 IPv6 PPPoE設定 IP変更通知設定

自動的にIPアドレスを取得する

以下のIPアドレスを使う

IPアドレス テスト

サブネットマスク

ゲートウェイ

優先DNSサーバ

代替DNSサーバ

保存

- ④ ルータでポートフォワーディングを設定します。

ポートフォワーディングの手順はお使いのルータのマニュアルでご確認ください。

クライアントからの接続方法によって、フォワーディングするポートが異なります。

接続方法	フォワーディングポート		
	HTTP	DATA	RTSP
ブラウザ	○	○	—
専用スマホアプリ	○	○	—
専用 CMS/VMS	—	○	—
Onvif	○	—	○
RTSP	—	—	○

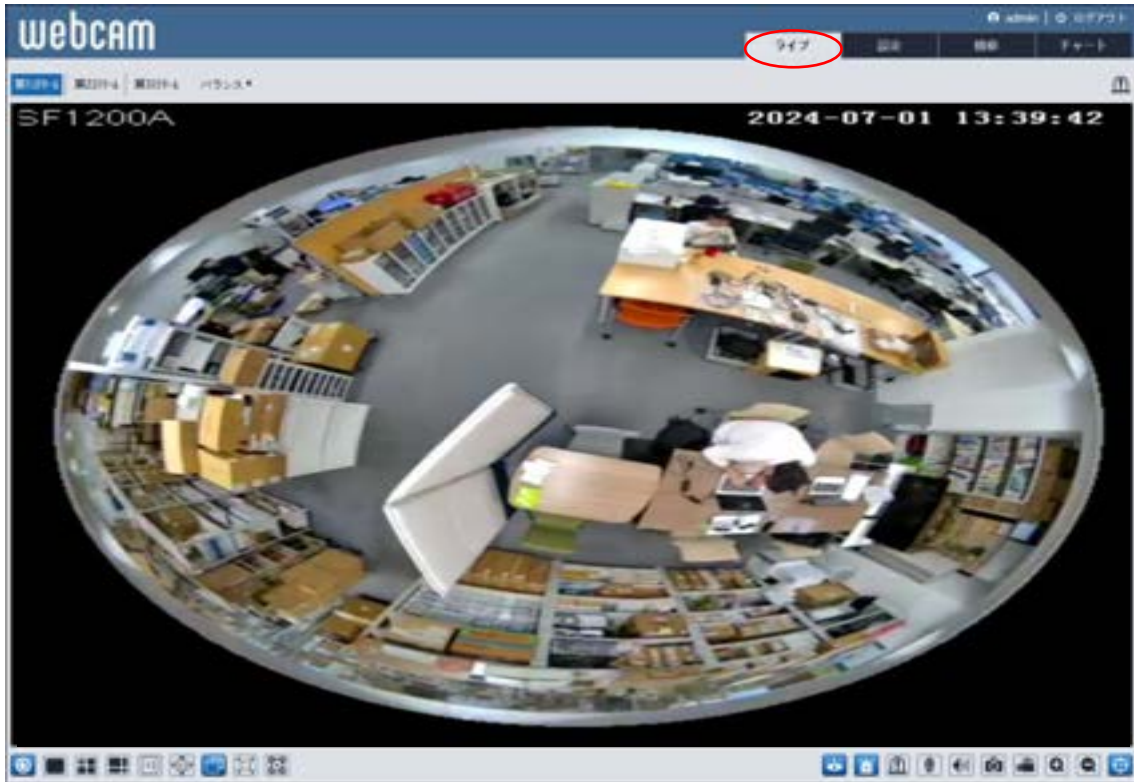
※P2P 機能を利用する場合は、ポートフォワーディングは不要です。

- ⑤ ブラウザを開き、アクセスする WAN IP と HTTP ポートを入力します。

例 : <http://192.168.226.180:880>

3. ライブ画面

右上の[ライブ]タブを開きます。



ライブ画面(左上)の説明

ライブ画面の画質を、第 1 ストリーム / 第 2 ストリーム / 第 3 ストリームから選択することができます。各ストリームの設定は、「4.2.2 映像/音声」で行います。

ライブ画面(左下)のアイコン説明


アイコン	説明	アイコン	説明
	フィッシュアイ		パノラマビュー
	フィッシュアイ+3PTZ		パノラマビュー+3PTZ
	4PTZ または 4PTZ フュージョン ※1		ピクセル等倍表示 (1 : 1)
	オリジナルアスペクト比		ウインドウに合わせる
	フルスクリーン (全画面表示) ※2		計測ツール ※3

※1 4PTZ フュージョンは PTZ 操作できません。

※2 フルスクリーンモードの終了方法は、マウスでダブルクリックするか、キーボードの Esc キーを押します。

※3 計測ツールを有効にして画面をクリック→ドラッグして□でエリアを描くと、そのエリアの画素数が表示されます。(第 1 ストリームのみ有効です)

ライブ画面(右上)のアイコン説明 ※3

アイコン	説明	アイコン	説明
	モーション検出のアラーム表示		アラーム入力のアラーム表示
	音声アラームのアラーム表示		ラインクロスのアラーム表示
	領域に入るのアラーム表示		領域を出るのアラーム表示
	ターゲットカウントのアラーム表示		エリア侵入検知のアラーム表示
	ヒートマップ		アラーム接点出力
	SD カードの有無を表示※4		

※3 各検出アラームが有効になっている場合のみアイコンを表示し、無効時は表示されません。検出された場合、アイコンが赤く点滅します。

※4 SD カードは挿入されるとアイコンが表示され、録画・画像保存時に赤く点灯します。

ライブ画面(右下)のアイコン説明

アイコン	説明	アイコン	説明
 	ライブビューのオン/オフ	 	アラームステータス表示のオン/オフ
 	アラーム接点出力のオン/オフ	 	双方向音声のオン/オフ
 	スピーカーのオン/オフ		スナップショット※5
 	手動録画のオン/オフ※6	 	ズームイン/ズームアウト
 	PTZ 制御のオン/オフ※7	 	ルール情報のオン/オフ※8

※5 スナップショットは、「4.1.3 ローカル設定」の「静止画保存のパス」のフォルダに保存されます。

《 静止画保存のパス > IP アドレス 》



※6 録画は、「4.1.3 ローカル設定」の「録画保存のパス」のフォルダに保存されます。

《 録画保存のパス > IP アドレス 》



※7 PTZ をオンにすると、以下のアイコンが画面の右側に表示されます。



アイコン	説明	アイコン	説明
	カメラの向きを左上へ移動		カメラの向きを右上へ移動
	カメラの向きを上へ移動		カメラの向きを下へ移動
	カメラの向きを左へ移動		カメラの向きを右へ移動
	カメラの向きを左下へ移動		カメラの向きを右下へ移動
	カメラの移動を停止		移動速度調整
	ズームアウト（広角）		ズームイン（望遠）
	クルーズ		プリセット

プリセット、クルーズをクリックすると、それぞれの登録したリストが表示されます。登録については 32 ページを参照してください。

プリセットの場合は、リストの各行の横のアイコンをクリックすると動作します。

アイコン	説明
	現在の位置を保存します。
	保存されている方向にカメラを移動します。
	設定を削除します

クルーズの場合は、リストをクリックして選択後、リストの上部にあるアイコンをクリックすると動作します。

アイコン	説明
	動作を開始します。
	動作を停止します。

※8 イベント設定で設定した検出ラインやエリアの表示、非表示を切り替えることができます。

各種ライブ映像表示モードについて

●フィッシュアイモード



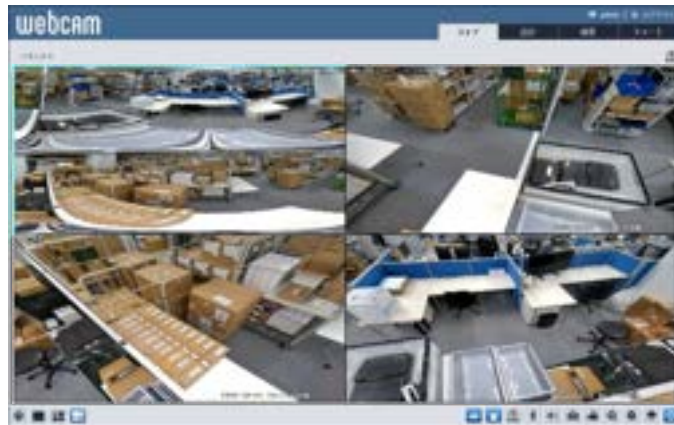
●パノラマモード



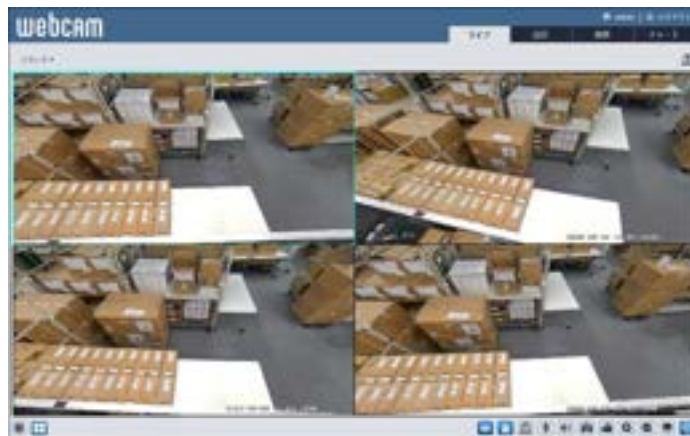
●フィッシュアイ+ 3 PTZ モード



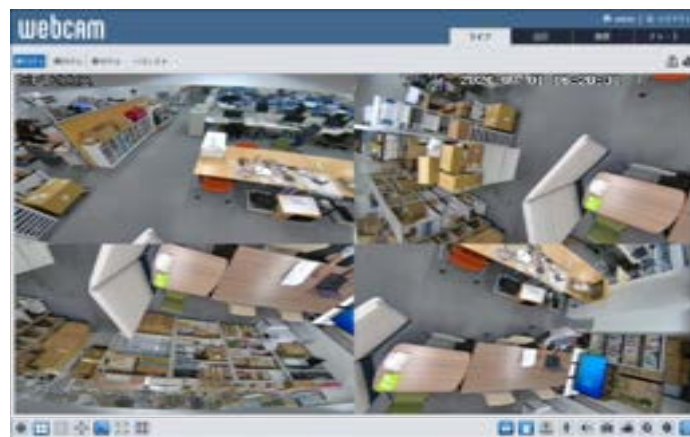
● パノラマ+ 3 PTZ モード



● 4 PTZ モード



● 4 PTZ フュージョンモード (分割モード) (PTZ 操作はできません)



「フィッシュアイ+ 3PTZ モード」または「パノラマ+ 3PTZ モード」または「4PTZ モード」では、PTZ 操作したいウィンドウを選択し、PTZ パネルから制御することにより、さまざまな方向の映像を表示できます。

注意：「4PTZ フュージョン (4 分割モード)」では PTZ 操作はできません。



をクリックしてコントロール パネルを表示します。コントロール・パネルの説明は以下のとおりです。

アイコン	説明	アイコン	説明
	カメラの向きを左上へ移動		カメラの向きを右上へ移動
	カメラの向きを上へ移動		カメラの向きを下へ移動
	カメラの向きを左へ移動		カメラの向きを右へ移動
	カメラの向きを左下へ移動		カメラの向きを右下へ移動
	カメラの移動を停止		移動速度調整
	ズームアウト（広角）		ズームイン（望遠）
	クルーズ（自動巡回）		プリセット

●プリセット

プリセットを登録したいときは、プリセット番号を選択し、をクリックして保存します。

プリセットを呼び出したいときは、プリセット番号を選択し、をクリックして呼び出します。

プリセットを削除したいときは、プリセット番号を選択し、をクリックして削除します。

●クルーズ（※事前にプリセットを登録する必要があります。）

クルーズを登録したいときは、クルーズ番号を選択し、をクリックします。クルーズ名を入力し、プリセットを追加していきます。最後に OK をクリックしてクルーズを保存します。

クルーズを再生したいときは、クルーズ番号を選択し、をクリックしてクルーズを開始します。

をクリックしてクルーズを停止します。

クルーズを削除したいときは、クルーズ番号を選択し、をクリックして削除します。

4. 設定ホーム

右上の[設定]タブを開きます。



または



- ※ Fisheye パラメータの設定をパノラマビューに設定したときイベント設定は表示しません。
- ※ イベント設定メニューは Fisheye パラメータの設定により異なります。

4.1 システム設定

基本情報、日付と時間、ローカル設定、ストレージ、シリアルポート、魚眼パラメータなどのサブメニューがあります。



4.1.1 基本情報

デバイス名や製品モデル、ソフトウェアバージョン、MAC アドレスなど、基本的な情報を表示します。

設定ホーム ▶ システム設定 ▶ 基本情報	
デバイス名	IPC
モデル名	HIC-SF1200A
ブランド	Customer
ファームウェアのバージョン	5.3.0.31132B251017.F1.U1(13A11)
ソフトウェア作成日	2025/10/17
Onvifバージョン	25.06
OCXバージョン	5.3.0.202509261405
MAC	00:0f:3aa9:1f:6f
デバイスID	11F6F095T2B1
チャンネル数	5
このマシンについて	表示
プライバシーに関する声明	表示
オープンソース宣言	表示

※ デバイス名の変更は、「4.2.3 OSD」の[デバイス名]にて変更できます。

[このマシンについて]項がある場合、[表示]をクリックすると、マシンの詳細バージョンが確認できます。

このマシンについて	
ハードウェアバージョン	1.5
ハードウェアID	3161963FB8411630F24239921C956C39
機能ID	5.3.0.31132B251017JF1.U1(13A11)
画像バージョン	209.414.0005
ドライバーバージョン	4978
ウェブ版	bdb8edbcf
ビデオ構造化バージョン	1.1.105.936
HTTP POST Version	2.0.0
APIバージョン	2.0.0

OK

「プライバシーに関する声明」項がある場合、「表示」をクリックすると、プライバシーの取扱いに関する記述を確認できます。

4.1.2 日付と時間

デバイスの日付と時間の設定を行います。

設定ホーム > システム設定 > 日付と時間

日時合わせ: サマータイム

タイムゾーン: GMT+09 (東京、大阪、名古屋、札幌、福岡、沖縄)

日時調整モード

NTPサーバーに同期

NTPサーバ: time.windows.com 更新間隔: 1440 分

手動で設定

時間設定: 2026/3/25 15:01:55 コンピューターの現地時間と同期する

保存

➤ 日時合わせ

◆ タイムゾーン

右のプルダウンから、GMT+09 を選択します。

◆ 日時調整

[NTP サーバに同期]または[手動で設定]が選択できます。

[NTP サーバに同期]では、NTP サーバのアドレスを入力し、日時の更新間隔（分）を設定します。

注：インターネットの NTP サーバに接続する場合は、事前にインターネット接続確認をしてください。

[手動で設定]では、日時設定 B O X をクリックしてカレンダーを表示し、日時を設定します。



[コンピュータの現地時間と同期する]を有効にすると、日時を手動で入力することなく、パソコンの日時と自動的に同期します。

※重要※ SD カードに録画している場合、時計の時間を遅らせると、遅らせた時間分の録画は消去されます。

➤ サマータイム

サマータイムを設定するには、[サマータイム]にチェックを入れ、自動サマータイムまたは手動サマータイムを選択します。手動サマータイムを選択した場合、開始時間と終了時間、オフセット時間を設定します。

4.1.3 ローカル設定

ローカル（パソコン）へのファイル保存などの設定を行います。

表示	説明
静止画保存のパス	ブラウザのライブ画面で、写真撮影（スナップショット画像）を操作した時の、画像の保存先を設定します。[保存先変更]をクリックしてパソコンの保存先フォルダを指定します。
録画保存のパス	ブラウザのライブ画面で、手動録画を操作した時の、動画の保存先を設定します。[保存先変更]をクリックしてパソコンの保存先フォルダを指定します。
録画音声の設定	録画ビデオに同時に音声を録画するのか設定します。
ビットレートを表示	ライブ画面にビットレートを表示することができます。 有効(ON)または無効(OFF)を選択します。
ローカルスマート静止画保存ストレージ	スマート検知で撮影したスナップショット画像を、静止画保存のパスで指定したフォルダに保存します。
保存	設定を保存します。

※注意：録画映像や静止画像をローカル PC に保存するためには、プラグインをインストールする必要があります。プラグインのインストールについては、「2.1.1 IP-Tool によるアクセス」を参照してください。

4.1.4 ストレージ



SD カードのフォーマットや、写真・録画ファイルの保存に関する項目などを設定します。

SD カードを取付けてないときは「カードがありません」と表示します。

設定するときは、SD カードをカメラに取付ける必要があります。（最大 256GB）

➤ 管理

[管理]タブを開き、SD カードの容量を表示・設定します。

SD カードをカメラに取付けると、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。SD カードに録画や画像が保存されると、アイコン  は赤く点灯します。（動画を保存するときは録画タブでスケジュール記録有効にチェックを入れる必要があります。）



表示	説明
写真保存領域のサイズ	SD カード内の写真を保存できる容量を表示します。
残りの写真保存容量	写真を保存できる、残りの空き容量を表示します。
録画保存領域のサイズ	SD カード内の録画を保存できる容量を表示します。
残りの録画容量	録画できる、残りの空き容量を表示します。
状態	SD カードの状態を表示します。
写真保存領域 ※	SD カードの全容量に対して、写真を保存できる割合を設定します。
録画保存領域 ※	SD カードの全容量に対して、録画を保存できる割合を設定します。
カードの取り出し	カメラから SD カードを取り出すときにクリックしてください。 取り出しをクリックする前に SD カードを取り出すとファイル破損の原因となる可能性があります。 注意：カードの取り出しをクリックすると「取り出し成功」と表示します。 SD カードを再認識させるには物理的に SD カードを抜き差しする必要があります。

フォーマット	SD カードを初期化します。フォーマットを行うと、SD カード内のデータはすべて削除されます。
--------	-------------------------------------------------

※写真と録画の保存割合を適用するには、フォーマットする必要があります。フォーマットを行うと、SD カード内のデータはすべて削除されます。

➤ **録画パラメータ**

[録画パラメータ]タブを開き、SD カードの空き容量が無くなったとき、上書き録画を行うか選択します。

「はい」を選択すると、古い録画データを消去しながら新しい録画データを保存していきます。



➤ **スケジュール録画**

[スケジュール録画]タブを開き、SD カードへの録画に関する設定を行います。



●チャンネル「4.2.2 映像/音声」で設定するチャンネル ID ごとに録画パラメータの設定ができます。

●パラメータ設定

表示	説明
録画ストリーム	録画を行うストリームを選択します。 解像度や画質などの設定は「4.2.2 映像/音声」で設定します。
プリ録画時間	“プリ録画なし”を選択した場合、「イベント発生中の時間+アラーム持続期間」の映像を録画します。 “3 秒”または“6 秒”を選択した場合、イベント発生の 3 秒または 6 秒前の映像から録画を行います。

※ イベントによる録画は、「4.3 アラーム設定」や「4.4 イベント設定」の連携するアラーム出力で、[SD カード録画]が有効(チェックあり)のときに実行されます。

●設定された時間で実行

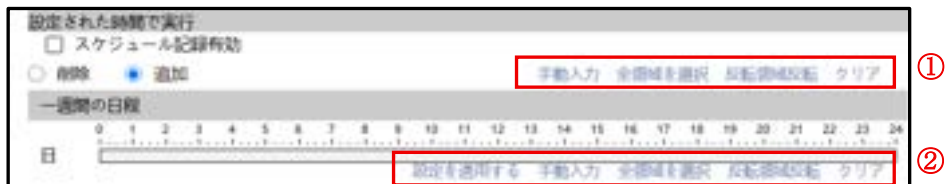
表示	説明
スケジュール記録有効	チェックを入れると、スケジュールによる録画を行います。

●スケジュールの設定方法

◆ 一週間の日程

日曜日～土曜日の一週間のスケジュールを設定します。

①では、全ての曜日を同時に設定することができます。②では曜日ごとに設定します。



- 削除 : 録画を無効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(白)
- 追加 : 録画を有効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(緑)
- 設定を適用する : 選択した曜日のスケジュールを他の曜日に適用します。
- 手動入力 : [削除]または[追加]を選択してから、タイムライン右下の[手動入力]をクリックし、時間帯を設定します。
- 全領域を選択 : 24 時間全てを選択します。(緑)
- 領域反転 : 24 時間全てを未選択にします。(白)
- クリア : 直前の操作を無効にします。

◆ 休日設定とスケジュール

日付を指定してスケジュールを設定します。(例えば国民の祝日など)

日付を指定し、[+]をクリックします。その後、タイムラインでスケジュールを設定して保存します。

削除するときは、日付を選択してから[-]をクリックします。

➤ 写真撮影

[写真撮影]タブを開き、SDカードに保存する静止画に関する設定を行います。

●チャンネル「4.2.2 映像/音声」で設定するチャンネル ID ごとに写真撮影パラメータの設定ができます。

●写真撮影パラメータ

表示	説明
画像フォーマット	フォーマットを選択します。
解像度	スナップショットの解像度を選択します。

※スナップショット解像度の設定は、「4.2.2 映像/音声」で行います。

●イベント発生に連動

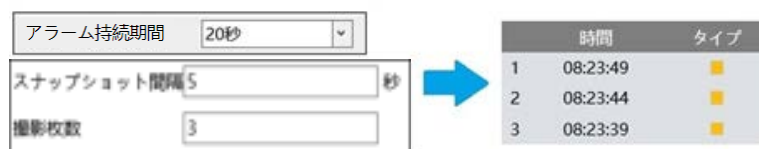
表示	説明
スナップショット間隔	「イベント発生中の時間+アラーム持続期間」の時間内で、何秒間隔でスナップショットを撮影し、SD カードに保存するか設定します。
撮影枚数	スナップショット間隔で、最大何枚のスナップショットを撮影するか設定します。

※「4.3 アラーム設定」や「4.4 イベント設定」の連携するアラーム出力で、[写真をSDカードに保存]が有効(チェックあり)のときに実行されます。

SD カードへのスナップショット保存例

[例 1] アラーム持続期間：20 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：3 枚の場合

→ イベント発生時に 1 枚、その後 5 秒間隔で 1 枚ずつ撮影され、計 3 枚(最大)のスナップショットが保存されます。



※ここでは、イベント発生時、発生から 5 秒後、10 秒後のスナップショットを保存しています。

[例 2] アラーム持続期間：3 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：2 枚の場合

→ イベント発生時に 1 枚、3 秒でアラーム持続期間が終了したため、5 秒後のスナップショットは撮影されず、発生時の 1 枚のみ保存されます。



※アラーム持続期間が終了した時点で、それ以降のスナップショットは保存されません。

● 設定された時間で実行

表示	説明
有効にする	チェックを入れると、スケジュールによる写真の保存を行います。
スナップショット間隔	有効の時間帯で何秒間隔の写真を保存するのか設定します。

● スケジュールの設定方法

◆ **一週間の日程**

設定手順は、ストレージ → 録画の[一週間の日程](#)をご参照ください。

◆ **休日設定とスケジュール**

設定手順は、ストレージ → 録画の[休日設定とスケジュール](#)をご参照ください。

➤ **FTP スナップショット**

「スナップショット間隔」で指定した時間間隔で、FTP サーバに静止画を転送します

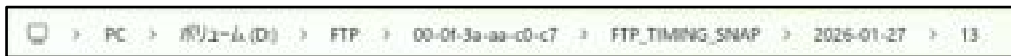


● **チャンネル「4.2.2 映像/音声」**で設定するチャンネル ID ごとに写真撮影パラメータの設定ができます。

表示	説明
有効にする	チェックを入れると、静止画の FTP 転送が有効になります。
サーバアドレス	転送先の FTP サーバを選択します。 ※FTP サーバに関する設定は、「4.5.12 FTP」で事前に行う必要があります。
スナップショット間隔	静止画を撮影して転送する間隔を設定します。1 秒～604,800 秒（7 日）の時間間隔が設定できます。

	設定を保存した時分秒でスタートし、その後は指定した間隔で撮影して転送します。したがって、1 時間に 1 回、毎時 00 分 00 秒で撮影して転送したい場合は、設定の保存を 00 分 00 秒の時に実行します。
サブパスと名前を保存	画像を保存するフォルダと、保存する画像のファイル名を設定します。 デフォルトの構成は次の通りです→①/②/③/④/⑤ ①パス：Mac アドレス ②パス：FTP_TIMING_SNAP ③日付フォルダ：%4y-%2m-%2d（年-月-日） ④時間フォルダ：%h（時） ⑤画像ファイル名： FTP_TIMING_SNAP_%4y%2m%2d%2h%2n%2s_%r. （FTP_TIMING_SNAP_年月日時分秒_乱数）
保存	設定を保存します。

テキストファイルとスナップショットは、《 指定フォルダ > MAC アドレス > イベント名 > 日付 > 時間 》に保存されます。



パスやファイル名を変更したい場合は [サブパスと名前を保存] 欄を修正することで変更することができます。パスとファイル名の構成は以下の通りです。

%a/FTP_TIMING_SNAP/%4y-%2m-%2d/%h/FTP_TIMING_SNAP_%4y%2m%2d%2h%2n%2s_%r.*

└──────────────────────────────────┘
└──────────────────────────────────┘

パスの指定
ファイル名

シンボル	コンテンツ	パス	ファイル名	補足
%y	年	○	○	4y は年を 4 桁とする。4y は変更不可。
%m	月	○	○	2m は月を 2 桁とする。2m は変更不可。
%d	日	○	○	2d は日を 2 桁とする。2d は変更不可。
%h	時	○	○	24 時間 (0~24)
%n	分	X	○	保存パスには使用不可
%s	秒	X	○	保存パスには使用不可
%u	ミリ秒	X	○	保存パスには使用不可
%p	車番	X	○	認識した車番情報。保存パスには使用不可
%c	カウント数	X	○	カウント数。保存パスには使用不可
%v	チャンネル ID	○	○	「1」
%a	MAC	○	○	MAC アドレス

%e	デバイス名	○	○	OSD で設定したデバイス名
%r	乱数	X	○	保存パスには使用不可
%i	イベント番号	X	○	000～999 の通し番号
MOTION	—	○	○	任意の名称に変更が可能

上記のシンボルを組み合わせて、オリジナルのパスやファイル名でイベントファイルを保存することができます。一部のシンボルを削除することもできます。例えば、パスを

「%a/FTP_TIMING_SNAP/%4y-%2m-%2d/」とすれば、ファイルは時間ごとのフォルダではなく、日ごとのフォルダに全て保存されます。

4.1.5 シリアルポート（未サポート）

シリアルポートはサポートしていません。

4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）

ライブ画像をどのように表示するか設定します。

設定ホーム ▶ システム設定 ▶ Fisheyeパラメータ

ストリームモード Fisheye+パノラマビュー+3画面PTZ

設置状態 天井/下向き

注意：設置方式を変更するとライブプレビュー、画像エフェクト、PTZモード、プリセットなどに影響します。

保存

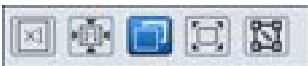
表示	説明
ストリームモード	5種類の表示方法から選択します。 ・Fisheye ・パノラマビュー ・Fisheye+パノラマビュー+3画面PTZ ・Fisheyeまたは4画面PTZ ・Fisheye+4PTZフュージョン
設置状態	カメラを設置する場所を選択します。 壁（垂直） 机（上向き） 天井（下向き）

※注意：ストリームモードまたは設置状態を変更するとカメラは再起動します。

実際のライブ映像表示は[各種ライブ映像表示モードについて](#)（28ページ）を参照してください。

選択したストリームモードによってライブ画像の左下のアイコンが変わります。

- Fisheye またはパノラマビュー選択時



- Fisheye + パノラマビュー + 3画面 PTZ を選択時



- Fisheye + 4画面 PTZ または Fisheye + 4PTZ フュージョンを選択時



4.2 画像設定

画質調整、映像/音声、OSD、プライバシーマスク、ROI 構成などのサブメニューがあります。

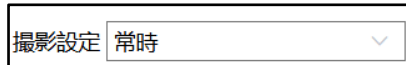


4.2.1 画質調整

カメラの画質(輝度、コントラスト、彩度など)に関するパラメータを設定します。

➤ 撮影パラメータとプロフィール管理

[撮影設定] で「常時」「昼」「夜」の3通りの設定ができます。

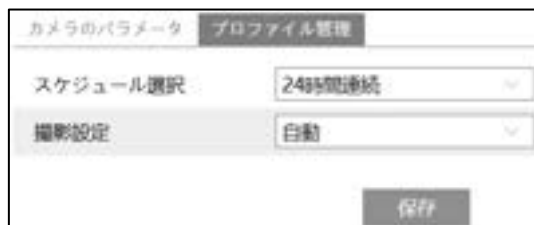


「常時」：昼夜を問わず、設定されたパラメータで動作します。

「昼」：日中撮影モードの設定パラメータです。

「夜」：夜間撮影モードの設定パラメータです。

3通りの撮影設定はプロフィール管理に従って動作します。



[スケジュール選択] と [撮影設定] の組み合わせで下表の通りに動作します。

スケジュール選択	撮影設定	動作
24 時間連続	常時	「常時」の設定パラメータで動作。 パラメータの昼夜モードの設定が「自動」の場合は、昼/夜モードは自動切換え、「昼」または「夜」を選択すると常時「昼」「夜」に固定することも可能です。 また、「昼」「夜」をスケジュール設定で切り替えることも可能です。 昼夜の明るさの変化が大きい場合、特に、夜間に照明が無く暗い場合は「常時」設定での運用を推奨します。
	自動	日中は「昼」、夜間は「夜」のパラメータで動作。昼/夜は自動で切り替わります。
設定された時間で実行	—	スケジュールに従って、「昼」「夜」のパラメータ設定に切り替えて撮影します。

➤ カメラのパラメータ設定

設置環境に最適なパラメータを設定します。



表示	説明
撮影設定	3 パターンの撮影設定（常時、昼、夜）パラメータを登録します。 それぞれに適したパラメータを以下より設定します。
輝度	カメラ画像の明るさ調整します。 日中（昼）モードでは輝度を 50 前後とし、夜間（夜）モードでは 50 より低い値に設定することを推奨します。設定値は設置現場の状況に合わせて、実際の映像を見ながら調整します。
コントラスト	コントラストを調整します。
色相	色味を調整します。
彩度	色の濃さを調整します。0 に調整すると白黒画像になります。
WDR	ハイライト部と暗部の両方を自動調整し、鮮明な画像に調整します。
シャープネス	シャープネスにチェックを入れ、有効にします。 画像の輪郭強調レベルを調整します。
ノイズ除去	ノイズ除去にチェックを入れ、有効にします。 映像に発生しているランダムノイズの除去レベルを調整します。値を大きくするとノイズは減りますが、画像の解像度は低下します。
曇り鮮明化	曇り鮮明化にチェックを入れ、有効にします。 雨、霧、霏、煙、ほこり等でぼやけた映像を補正します。必要に応じて適切な値を設定し、鮮明な画像を表示することができます。
BLC	逆光補正機能(BLC)の設定を、以下から選択します。選択項目に応じた追加の設定項目がある場合があります。 オフ : 逆光補正機能を無効にします。(デフォルト) HLC : ハイライト部分のオーバー露出を補正します。 HLC を有効にする時間帯を設定できます。 BLC : 逆光補正。逆光で陰になった部分を明るく補正します。補正するエリアを自動、画面の上下左右中央、から選択します。
フリッカレス	オフ : フリッカ除去機能をオフにします。 50Hz/60Hz : 50Hz または 60Hz の照明条件でちらつきを低減します。
IR 照明自動調光	オフ : 赤外線照明をフル発光します。 オン : 赤外線照明を被写体に応じて自動的に調光します。調光レベルを高い・中・低いから選択します。
ホワイトバランス	自動、屋内、屋外 : 環境に応じて自動的に色温度を調整します。

	マニュアル : 赤レベルと青レベルを使用し、手動で色温度を設定します。
IR 輝度	赤外線照明の明るさを調整します。
昼/夜モード	自動 : 昼モードと夜モードをカメラの周囲の明るさに応じて自動で切替えます (デフォルト) 切り替えの感度 (明るさ) と、切り替え遅延時間を設定できます。 昼 : カラー撮影固定 夜 : 白黒撮影固定 設定された時間で実行 : 昼モード/夜モードの切り替え時間を設定できます。
感度	昼/夜モードを切替える感度を設定します。 高い・中・低いから選択します。
切替遅延時間 (秒)	カメラが内蔵する明るさセンサーが昼/夜を検出したとき、カメラの昼/夜を切替えるタイミングを調整します。すぐに切り替わらないようにするときは遅延時間を長く設定します。(2 秒~6000 秒)
シャッター	シャッタースピードの下限値 (最も低速な値) を設定します。 シャッタースピードは最適な露出になるように自動で調整されますが、例えば、1/500 秒に設定すると、1/500 秒より遅いシャッタースピードに調整されることはありません。 車両の移動速度が速くシャッター速度が遅いと車がブレてしまうため、シャッタースピードをできるだけ高速に設定しなければなりません。一方で、高速に設定しすぎると画像が暗くなってしまいます。設置環境に応じて適切な値に設定してください。
ゲイン制限	ゲインは最適な露出になるように自動で調整されますが、ここで設定した値が上限値になります。ゲイン値が高いほど、画像が明るくなり、画像のノイズが多くなります。
映像周波数	周波数 50Hz(PAL)と 60Hz(NTSC)が設定できます。 50Hz では最大 fps = 25、60Hz では最大 fps = 30 です。 ※注意 : 周波数を変更するとカメラは再起動が必要です。
IR 照明	自動 : 昼/夜モードと連動して赤外線照明を点灯/消灯します。 オン : 赤外線照明を常時点灯します。 オフ : 赤外線照明を常時消灯します。
画像左右反転	カメラ画像を左右反転させます。
画像反転	カメラ画像を上下反転させます。
初期値	初期設定に戻ります。

➤ プロファイル管理

[プロファイル管理]タブを開き、昼間と夜の時間帯を指定します。



スケジュールの設定方法

[24 時間連続] と [設定された時間で実行]が選択できます。

- ◆ **設定された時間で実行**：[設定された時間で実行] では昼/夜切り替えのスケジュールを設定して運用します。

スケジュールの設定方法は次の通りです。



タイムライン上の“■”をドラッグして昼間と夜の時間帯を設定します。緑が昼間時間、グレーが夜時間を表します。

設定が完了したら保存します。

- ◆ **24 時間連続**：撮影設定で「常時」または「自動」を選択します。

「常時」：カメラのパラメータ設定の「撮影設定：常時」で設定したパラメータで撮影します。

「自動」：カメラのパラメータ設定「撮影設定：昼または夜」で設定した昼と夜を自動で切り替えて撮影します。また、カメラのパラメータ設定「撮影設定：昼または夜」は、カメラのパラメータ設定の昼/夜モード切り替えと連動します。

4.2.2 映像/音声

映像、音声の IP ストリーム(圧縮方式や解像度、フレーム数、ビットレートなど)を設定します。

➤ チャンネル ID

表示	説明
IP チャンネル 1	フィッシュアイ画像のストリームを設定します。
IP チャンネル 2	PTZ 操作できる画像またはパノラマ画像のストリームを設定します。※ 1
IP チャンネル 3	PTZ 操作できる画像のストリームを設定します。
IP チャンネル 4	PTZ 操作できる画像のストリームを設定します。
IP チャンネル 5	PTZ 操作できる画像のストリームを設定します。

※1 ストリームモードに連動して変わります。ストリームモードは、「4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)」で設定します。

➤ 映像

[映像]タブを開き、第 1/第 2/第 3 ストリームの解像度やフレームレートなどをそれぞれ設定します。

表示	説明
解像度	カメラ画像の表示解像度を設定します。
フレームレート	フレームレートを設定します。(範囲 1 ~ 30 フレーム : 映像周波数 60Hz の場合) フレームレートが高いほど、映像は滑らかになります。
ビットレートタイプ	VBR または CBR から選択します。 VBR : 可変ビットレート / CBR : 固定ビットレート
ビットレート (Kbps)	CBR を選択した場合、ビットレート設定ができます。 ビットレートが高いほど画質が向上しますが、データサイズは大きくなります。
ビデオ品質	VBR を選択した場合、ビデオ品質設定ができます。 品質が高いほど、ビットレートは高くなり、データサイズも大きくなります。 CBR の適切なビットレート値が分からないときは VBR を選択します。

I-フレーム間隔	I-フレームの送信間隔を設定します。I フレーム間隔の時間は、I フレーム間隔 ÷ fps です。
ビデオ圧縮	H.264 / H.265 / H.264+ / H.265+ / MJPG からビデオ圧縮方式を選択します。
プロファイル	H.264 / H.264+を選択した場合、プロファイルを選択します。
写真のストリーム	イベント発生時に静止画を撮影するストリームを選択します。
ビデオエンコードスライス分割	ビデオエンコードスライス分割にチェックを入れ、有効にします。 この機能を有効にすると、低性能の PC を使用しても滑らかな画像を得ることができます。
ウォーターマーク	ウォーターマークにチェックを入れ、有効にします。 ウォーターマーク符号に透かしテキストを入力します。検索画面で、ローカルに記録されたビデオを再生する時にウォーターマークを表示できます。
保存	設定を保存します。

➤ 音声

[音声]タブを開き、音声圧縮方式や音声入出力レベルを設定します。



表示	説明
有効	音声を有効にする場合はチェックを入れます。
音声形式	音声圧縮方式を選択します。(G.711A または G.711U)
音声タイプ	カメラ内蔵マイクと外部 LINE 入力を選択します。
音声出力 (外部出力 : HP)	外部音声出力から出力する音の種類を選択します。 自動を選択したときは警告音と双方向音声を自動で切り換えます。※1

MIC ボリューム	マイク入力の入力レベルを調整します。
音声出力音量	外部音声出力の出力レベルを調整します。
保存	設定を保存します。

※1：双方向音声を使用しているときは警告音に切り換わりません。

★お知らせ★

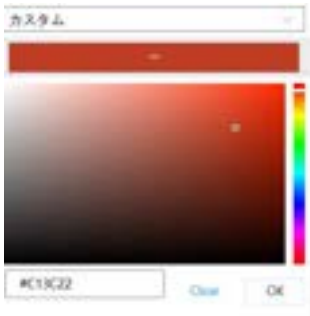
RTMP で YouTube Live へ配信する場合は、必ず音声を有効にする必要があります。

また、無音で配信する場合は、MIC ボリュームを 0 に設定してください。0 に設定してもノイズが聞こえる場合は、一度有効のチェックを外して保存し、再び有効をチェックして保存すると反映されます。

4.2.3 OSD

OSD (On Screen Display) に関する設定を行います。



表示	説明
OSD 時間フォーマット	12 時間表示 (AM/PM) と 24 時間表示が設定できます。
OSD 日付フォーマット	[日付時刻を画面表示する]にチェックを入れ、OSD を有効にします。 日付時刻の表示形式をプルダウンから選択します。 《 Y : 年、M : 月、D : 日 を表します 》 ディスプレイ上に赤枠で日付時刻が表示されます。赤枠をドラッグして表示位置を変更できます。
文字透過率 (Font Transparency)	OSD 文字の透過率を 0~10 のレベルで調整します。
OSD フォントサイズ	文字のサイズを調整できます。 16x16 ドット、32x32 ドット、48x48 ドット、64x64 ドット、自動調整
OSD フォントの色	文字の色を設定します。初期値 = 白、カスタム : カラーパレットで任意の色を設定できます。 

チャンネル	「4.2.2 映像/音声」で設定するチャンネル ID ごとにチャンネル名を設定できます。
日付時刻を画面表示	有効にすると、日付時刻を画面に表示します。 左の画像に赤で表示された日時表をドラッグして、表示位置を設定します。
チャンネル名表示	有効にすると、チャンネル名を画面に表示します。 左の画像に赤で表示された日時表をドラッグして、表示位置を設定します。 ※「4.1.1 基本情報」で設定するデバイス名とは異なります。ただし、NVR に接続すると、デバイス名はここで設定するチャンネル名と同じになります。 ※英数字のみサポートします。日本語入力は文字化け、欠落が発生します。
追加 OSD	チェックを入れ、追加 OSD または写真オーバーレイを有効にします。 ・追加 OSD を選択した場合、文字列を入力するとディスプレイ上に表示されるので、ドラッグして位置を変更します。 [1 行追加]にチェックを入れると、文字列をもう 1 行追加できます。 ・「写真オーバーレイ」を選択した場合、ロゴや文字などの画像を表示することができます。保存先変更から画像を指定し、アップロードをクリックします。ファイル形式は JPEG 形式のみで、表示できる画像のサイズは縦 X 横が 200 ピクセル以下です。

4.2.4 プライバシーマスク

プライバシーマスクに関する設定を行います。プライバシーマスクは最大 4 か所に設定できます。



プライバシーマスクの設定

- ① [有効]にチェックを入れ、プライバシーマスクを有効にします。
- ② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でマウスを左クリックしながらドラッグしてプライバシーマスクを作図します。最大 4 か所まで設定できます。
- ③ [作図終了]をクリックすると、プライバシーマスクの作図を終了します。
- ④ [クリア]をクリックすると選択したプライバシーマスクを削除します。
- ⑤ [保存]をクリックして、設定したプライバシーマスクを保存します。


4.2.5 ROI 設定

ROI (Region of Interest) に関する設定を行います。

監視対象の重要な領域を高画質で、重要でない箇所は画質を落とすことで、限られた伝送帯域や HDD 保存領域を効率良く利用するための技術です。



ROI の設定

- ① チャンネルが選択できる場合、チャンネル ID を選択します。チャンネル ID ごとに ROI を設定できます。
[有効]にチェックを入れ、ROI を有効にします。※「4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)」の設定によってチャンネルを表示しない場合があります。
- ② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でマウスを左クリックしながらドラッグして ROI 領域を描画します。ROI 領域は 8 か所まで設定できます。
- ③ [作図終了]をクリックすると、ROI 領域の描画を終了します。
- ④ [クリア]をクリックすると ROI 領域を消去します。
- ⑤ スライドの  をドラッグして ROI レベルを調整します。
- ⑥ [保存]をクリックして、設定した ROI 領域を保存します。

4.3 アラーム設定

モーション検出、異常、アラーム入力、アラーム接点出力、アラームサーバ、音声アラーム、音声例外、アラーム解除 などのサブメニューがあります。







4.3.1 モーション検出

モーション検出は、画像の中の動きを検出して通知する機能です。検出設定や感度、スケジュール設定、アラーム連動を設定します。

➤ 検出設定

[検出設定]タブを開き、検出エリアと感度を設定します。



表示	説明
チャンネル	チャンネルごとにモーション検出のエリアを設定することができます。 設定できるチャンネルは、「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」の設定により変化します。
有効	モーション検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効である場合、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。 モーションを検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
アラーム持続期間	モーションアラームの持続時間を設定します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコン  が赤く点滅しています。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
感度	数値が大きいくほど感度は高くなります。 感度 低い  高い 4
追加	検出エリアを追加します。
削除	検出エリアを削除します。
エリアを描く	追加するエリア、削除するエリアを、マウスでドラッグして描画します。
全領域を選択	画面の全ての領域を選択します。
全てクリア	選択された領域を全てクリアし未選択にします。
領域反転	検出エリアと未検出エリアが反転します。
保存	設定を保存します。

モーション検出エリアの設定

- ① [エリアを描く]をクリックし、[追加]を選択してディスプレイ上でマウスをドラッグすると検出エリアを描画できます。[削除]を選択して検出エリア上でマウスをドラッグすると、検出エリアを一部分削除できます。
- ② [作図終了]をクリックすると、検出エリアの描画を終了します。
- ③ [全領域を選択]、[すべてクリア]、[反転領域反転]でも検出エリアを設定できます。
- ⑦ 感度を設定します。数値が大きいくほど感度は高くなります。



- ⑧ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。

➤ **スケジュール選択**

[スケジュール選択]タブを開き、モーション検出のスケジュールを設定します。



● スケジュールの設定方法

◆ **一週間の日程**

日曜日～土曜日の一週間のスケジュールを設定します。

①では、全ての曜日を同時に設定することができます。②では曜日ごとに設定します。



- 削除 : 録画を無効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(白)
- 追加 : 録画を有効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(緑)

- 設定を適用する : 選択した曜日のスケジュールを他の曜日に適用します。
- 手動入力 : [削除]または[追加]を選択してから、タイムライン右下の[手動入力]をクリックし、時間帯を設定します。
- 全領域を選択 : 24 時間全てを選択します。(緑)
- 領域反転 : 24 時間全てを未選択にします。(白)
- クリア : 直前の操作を無効にします。

◆ 休日設定とスケジュール

日付を指定してスケジュールを設定します。(例えば国民の祝日など)

日付を指定し、[+]をクリックします。その後、タイムラインでスケジュールを設定して保存します。

削除するときは、日付を選択してから[−]をクリックします。

➤ 連動

モーション検出と連動して、さまざまな通知機能を動作させることができます。

連携する連動は、「4.3.3 **アラーム入力**」と「4.4 **イベント設定**」の各種検知機能との共通設定項目です。



◆ 音声アラームを鳴らす

チェックを入れると、検出時にカメラのオーディオ出力から音声アラームを出力します。

鳴らす音声はリストよりプルダウンで選択できます。(音声は英語です。)

音声アラームは「4.3.6 **音声アラーム**」で設定してください。

◆ 写真をSDカードに保存

チェックを入れると、検出時に画像をキャプチャしSDカードに保存します。

キャプチャ画像の解像度は、「4.2.2 映像/音声」の写真のストリームで設定します。


SDカードへの画像保存に関する設定は、「4.1.4 ストレージ」の [写真撮影](#)を参照してください。

SDカードへのスナップショット保存例

[例 1] アラーム持続期間：20秒、スナップショット間隔：5秒、撮影枚数：3枚の場合

→ イベント発生時に1枚、その後5秒間隔で1枚ずつ撮影され、計3枚(最大)のスナップショットが保存されます。

アラーム持続期間	20秒	▼
スナップショット間隔	5	秒
撮影枚数	3	




	時間	タイプ
1	08:23:49	■
2	08:23:44	■
3	08:23:39	■

※ここでは、イベント発生時、発生から5秒後、10秒後のスナップショットを保存。

[例 2] アラーム持続期間：3秒、スナップショット間隔：5秒、撮影枚数：2枚の場合

→ イベント発生時に1枚、アラーム持続期間が3秒で終了したため、5秒後のスナップショットは撮影されず、発生時の1枚のみ保存されます。

アラーム持続期間	3秒	▼
スナップショット間隔	5	秒
撮影枚数	2	



	時間	タイプ
1	08:31:47	■

※アラーム持続期間が終了した時点で、それ以降のスナップショットは保存されません。

◆ SDカード録画

チェックを入れると、検出時のビデオがSDカードに保存されます。

SDカードへの録画に関する設定は、「4.1.4 ストレージ」の [スケジュール録画](#)を参照してください。

◆ メールを送信

[メールを送信]にチェックを入れると、Eメールによる通知が有効になります。

通知メールの送信先をリストから選択し、メールの件名と内容を入力します。検出時の写真を添付する場合は[写真添付]にチェックを入れます。



E メール通知の送信に関する設定は、「4.5.11 **Email**」で事前に行う必要があります。

◆ FTP ファイル転送

[FTP ファイル転送]にチェックを入れると、FTP サーバへのファイル転送が有効になります。

FTP サーバをリストから選択し、検出時の写真を添付する場合は[写真添付]にチェックを入れます。



FTP サーバに関する設定は、「4.5.12 **FTP**」で事前に行う必要があります。

テキストファイルとスナップショットは、《 指定フォルダ > MAC アドレス > イベント名 > 日付 > 時間 》に保存されます。



パスやファイル名を変更したい場合は [サブパスと名前を保存] 欄を修正することで変更することができます。パスとファイル名の構成は以下の通りです。

`%a/MOTION/%4y-%2m-%2d/%h/MOTION_%4y-%2m-%2d-%2h-%2n-%2s-%3u.*`

パスの指定			ファイル名	
シンボル	コンテンツ	パス	ファイル名	補足
%y	年	○	○	4y は年を 4 桁とする。4y は変更不可。
%m	月	○	○	2m は月を 2 桁とする。2m は変更不可。
%d	日	○	○	2d は日を 2 桁とする。2d は変更不可。
%h	時	○	○	24 時間 (0~24)
%n	分	X	○	保存パスには使用不可
%s	秒	X	○	保存パスには使用不可
%u	ミリ秒	X	○	保存パスには使用不可
%p	車番	X	○	認識した車番情報。保存パスには使用不可

%c	カウント数	X	○	カウント数。保存パスには使用不可
%v	チャンネル ID	○	○	「1」
%a	MAC	○	○	MAC アドレス
%e	デバイス名	○	○	OSD で設定したデバイス名
%r	乱数	X	○	保存パスには使用不可
%i	イベント番号	X	○	000～999 の通し番号
MOTION	—	○	○	任意の名称に変更が可能

上記のシンボルを組み合わせて、オリジナルのパスやファイル名でイベントファイルを保存することができます。一部のシンボルを削除することもできます。例えば、パスを「%a/MOTION/%4y-%2m-%2d」とすれば、ファイルは時間ごとのフォルダではなく、日ごとのフォルダに全て保存されます。

(1) 写真添付なしの場合

イベント発生時に、イベントの内容がテキストファイルで転送されます。

(2) 写真添付ありの場合

イベント発生時に、テキストファイルとスナップショット 1 枚が転送されます。アラーム持続期間(5 秒)が経過後、スナップショット 1 枚が転送されます。

名前	日付時刻	種類	サイズ
MOTION_20200221103150.txt	2020/04/23 9:33	テキストドキュメント	1 KB
MOTION_20200221103150_163.jpg	2020/04/23 9:33	JPG ファイル	47 KB
MOTION_20200221103155_97.jpg	2020/04/23 9:33	JPG ファイル	48 KB

(3) イベント発生時間がアラーム持続期間を超える場合

イベント発生時に、テキストファイルとスナップショット 1 枚が転送されます。アラーム持続期間を経過するごとにスナップショット 1 枚が転送されます。

[例] イベント発生時間：25 秒、アラーム持続期間：10 秒の場合

イベント発生時に「テキストファイル」と「スナップショット 1 枚」、1・2 回目のアラーム持続期間経過後に「スナップショット 1 枚ずつ(計 2 枚)」、3 回目のアラームの途中でイベントが終了し、アラーム持続期間経過後に「最後のスナップショット 1 枚」

名前	日付時刻	種類	サイズ
SENSOR1_20200221111800.txt	2020/04/23 10:20	テキストドキュメント	1 KB
SENSOR1_20200221111800_127.jpg	2020/04/23 10:20	JPG ファイル	34 KB
SENSOR1_20200221111810_195.jpg	2020/04/23 10:20	JPG ファイル	30 KB
SENSOR1_20200221111820_120.jpg	2020/04/23 10:20	JPG ファイル	26 KB
SENSOR1_20200221111830_140.jpg	2020/04/23 10:20	JPG ファイル	29 KB

◆ アラーム接点出力

[アラーム接点出力]にチェックを入れると、カメラのリレー出力がトリガーされます。アラーム出力に関する設定は、「4.3.4 アラーム接点出力」を参照してください。

4.3.2 異常

異常アラーム関連のパラメータ、連動アラームを設定します。

➤ SD カードフル

[SD カードフル]タブを開き、SD カードの容量が一杯になったときのアラームを設定します。

設定ホーム ▶ アラーム設定 ▶ 異常

SDカードフル SDカードエラー IPアドレスの競合 LANケーブル接続不良

有効

アラーム持続期間

連携するアラーム出力

アラーム接点出力

メールを送信

FTPファイル転送

表示	説明
有効	SD カードの容量が一杯になったときに通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	SD カードフルでは、以下の 3 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の 連動 を参照してください。
保存	設定を保存します。

➤ SD カードエラー

[SD カードエラー]タブを開き、SD カードへの書き込みにエラーが生じたときのアラームを設定します。

設定ホーム ▶ アラーム設定 ▶ 異常

SDカードフル **SDカードエラー** IPアドレスの競合 LANケーブル接続不良

有効

アラーム持続期間

連携するアラーム出力

アラーム接点出力

メールを送信

FTPファイル転送

表示	説明
有効	SD カードへの書き込みにエラーがあることを通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
アラーム出力トリガー (連携するアラーム出力)	SD カードエラーでは、以下の 3 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の 連動 を参照してください。
保存	設定を保存します。

➤ IPアドレスの競合

[IPアドレスの競合]タブを開き、IPアドレスが競合したときのアラームを設定します。

表示	説明
有効	IPアドレスの競合を検出されたとき通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1秒、3秒、5秒、10秒、20秒、30秒、60秒、2分から選択します。
連携するアラーム出力	IPアドレスの競合エラーでは、以下のアラームを設定できます。 アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の 連動 を参照してください。
保存	設定を保存します。

➤ LAN ケーブル接続不良

[LAN ケーブル接続不良]タブを開き、ネットワーク接続にエラーが生じたときのアラームを設定します。

表示	説明
有効	LAN ケーブル接続不良を通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
アラーム出力トリガー (連携するアラーム出力)	LAN ケーブルの接続不良では、以下のアラームを設定できます。 アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の 連動 を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.3.3 アラーム入力

センサーアラームの関連パラメータ、連動アラームを設定します。

表示	説明
有効	アラームの入力を有効にする場合はチェックを入れます。
接点形式	接点形式を選択します。 N.O. : A 接点。通常 = OFF N.C. : B 接点。通常 = ON
センサー名	表示するセンサー名を設定します。 <>などの文字は使用できません。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
保存	設定を保存します。

➤ スケジュール選択

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。

「4.3.1 モーション検出」の[スケジュール選択](#)を参照してください。

➤ 連動

「連動」はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 モーション検出」の[連動](#)を参照してください。

4.3.4 アラーム接点出力

センサーアラームの出力についての関連パラメータを設定します。次の4つのアラーム出力モードから選択します。アラーム連動、手動操作、昼/夜の切替えとの連動、設定された時間で実行。

➤ アラーム連動

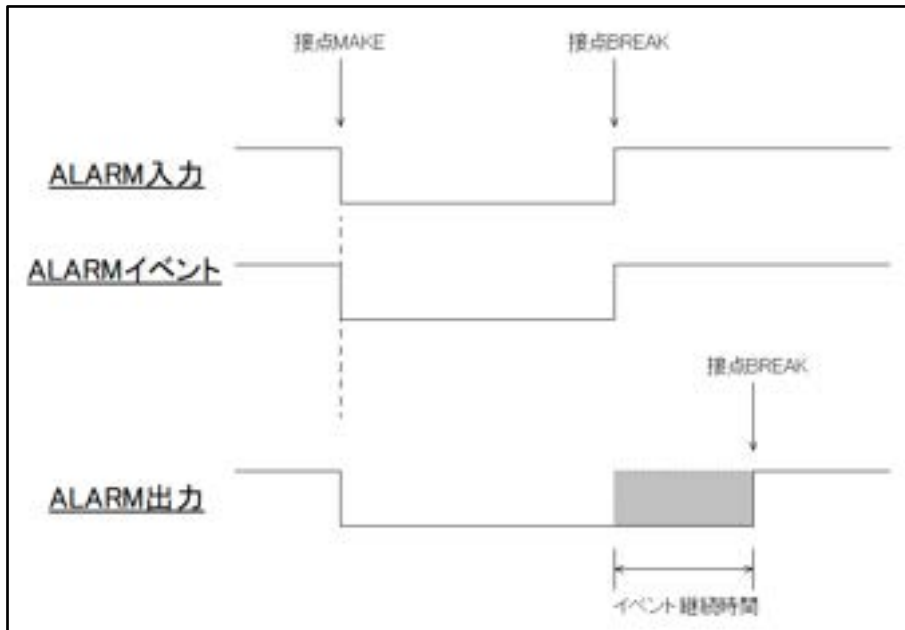
イベントの検出（モーション検出、アラーム入力、ラインクロスなど）に連動して、アラームを出力します。アラーム出力を行う場合、各イベントの設定で[アラーム接点出力]を有効にする必要があります。

設定ホーム ▶ アラーム設定 ▶ アラーム接点出力

アラーム出力モード	アラーム連動 ▼
アラーム出力名	alarmOut1
アラーム持続期間	20秒 ▼
接点形式	N.C. ▼

表示	説明
アラーム出力モード	[アラーム連動]を選択します。
アラーム出力名	アラーム名称を設定します。メール通知、FTP転送などに反映されます。 例：alarmOut1
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 イベントのアラーム持続時間が終了した後の、アラーム出力によるアラーム持続時間を設定します。（次ページのタイムチャート参照） 1秒、2秒、3秒、5秒、10秒、20秒、30秒、35秒、40秒、45秒、50秒、55秒、60秒、2分、常時から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O.：A接点。通常＝OFF N.C.：B接点。通常＝ON
保存	設定を保存します。

アラーム入力→アラーム設定出力のタイムチャートは次の通りです。



➤ 手動操作

手動でアラーム接点出力の ON/OFF を操作します。



表示	説明
アラーム出力モード	[手動操作]を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O. : A 接点。通常 = OFF N.C. : B 接点。通常 = ON
手動操作	ON または OFF をクリックしてアラーム接点出力を切り替えます。 ※カメラ内部でリレーの動作音が確認できます。
保存	設定を保存します。

➤ 昼/夜の切替えとの連動

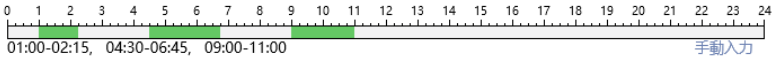
カメラが昼間モード⇔夜モードに切り替ると連動して、アラーム接点出力を制御します。

表示	説明
アラーム出力モード	[昼/夜の切り替えとの連動]を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O. : A 接点。通常 = OFF N.C. : B 接点。通常 = ON
昼	昼モードの時に、アラームを ON または OFF にするのか選択します。
夜	夜モードの時に、アラームを ON または OFF にするのか選択します。
保存	設定を保存します。

➤ 設定された時間で実行

指定した時間にアラームを ON にします。

表示	説明
アラーム出力モード	[設定された時間で実行]を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O. : A 接点。通常 = OFF N.C. : B 接点。通常 = ON
時間範囲	緑ラインのときに、アラームが ON になります。

	<p>削除(OFF)/追加(ON)を選択してから、手動入力をクリックして時間を指定するか、マウスをドラッグして時間を設定します。</p>  <p>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 01:00-02:15, 04:30-06:45, 09:00-11:00 手動入力</p>
保存	設定を保存します。


4.3.5 アラームサーバ

サードパーティのアラームサーバにアラーム情報を送信する場合に、アラームサーバを設定します。アラームが発生すると、アラームイベントをアラームサーバに転送します。

設定ホーム ▶ アラーム設定 ▶ アラームサーバ


有効

サーバアドレス	<input type="text" value="0.0.0.0"/>
ポート	<input type="text" value="8010"/>
ハートビート	<input type="text" value="無効にする"/>
ハートビート間隔	<input type="text" value="30"/> 秒



サーバアドレス、ポート、ハートビート、ハートビート間隔を設定します。アラームが発生すると、カメラはアラームイベントをアラームサーバに転送します。

アラームサーバが不要な場合は、この項を設定する必要はありません。

- ※ 設定するときは、[編集]ボタンを押します。
- ※ 設定されている場合  アイコンをクリックすると、非表示になっているサーバアドレスを表示して確認することができます。

4.3.6 音声アラーム

外部スピーカで警告音声を鳴らす設定を行います。

表示	説明
有効	音声警告機能を有効にします。
警告言語	言語を選択します。プルダウンから「カスタマイズ」を選択すると、ユーザが作成した音声を登録することができます。
音声	登録された警告音声を選択します。日本語の音声は事前に登録されていません。
警告回数	音声を繰り返し流す回数を設定します。1～50 回に設定できます。
音声レベル	音量を設定します。
OK	設定を保存します。

- ① 警告音でカスタマイズを選択すると、音声ファイルの登録と録音メニューが表示されます。

➤ 音声をアップロード

音声ファイルを登録します。音声ファイルの形式は要件 (WAV、8000Hz、モノラル、16ビット、200K 未満) を満たしていることを確認してください。要件を満たしていない場合はアップロードできません。

- (ア) [ファイルの選択]をクリックしてアップロードする音声ファイルを選択します。
- (イ) 音声名を入力します。
- (ウ) [アップロード]をクリックして音声ファイルをアップロードします。

➤ ボイスレコード

自分の声を録音してアップロードすることもできます。

- (ア) PC にマイクを接続します。
- (イ) "保存先変更" をクリックして、録音したい音声の保存パスを選択します。
- (ウ) 録音音量を設定し、「開始」をクリックして音声の録音を開始します。
- (エ) 「アップロード」をクリックし、録音した音声をアップロードします。

(オ) オーディオファイルをアップロードしたら、音声リストからオーディオ名を選択し、[聴く]をクリックして聴くことができます。[削除]をクリックしてオーディオを削除することができます。

- ② 音声を選択し、必要に応じて警告回数と音量を設定します。警告回数は 1～50 回まで設定できます。
- ③ 「OK」をクリックして設定を保存します。

➤ **スケジュール選択**

モーション検出、アラーム入力、イベントの各種検知機能のスケジュールと音声アラームのスケジュールが両方とも有効（緑色の帯）の状態でないとき音声アラームが動作しません。

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。

「4.3.1 モーション検出」の[スケジュール選択](#)を参照してください。



4.3.7 音声例外

カメラが検出した音声の急激な変化を検知します。（急に音が大きくなる。急に音が小さくなるなど。）

➤ 検出設定

音声例外による検出設定をします。



表示	説明
有効	音声例外を有効にするときは、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。 急激な音声の変化を検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
音声検出の急激な増加	感度と、しきい値を設定します。
音声強度検出の急激な減少	感度を設定します。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
保存	設定を保存します。

➤ **スケジュール選択**

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。

「4.3.1 モーション検出」の[スケジュール選択](#)を参照してください。

➤ **連動**

音声例外により連動させるアラームを設定します。

表示	説明
連携するアラーム出力	音声例外では、以下の5つのアラームを設定できます。 写真をSDカードに保存、SDカード録画、メールを送信、FTPファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の 連動 を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.3.8 アラーム解除

アラーム通知を解除します。

表示	説明
アラーム解除	アラーム連動で選択したアラーム通知の動作を常時解除します。 (アラーム通知しない)
計画的アラーム解除 (解除スケジュール)	アラーム解除のスケジュールが設定できます。 アラーム解除を OFF に設定したときのみ、スケジュールを有効にすることができます。
アラーム連動	解除するアラームを選択します。[全領域を選択]では全てのアラームを選択できます。 eメール、FTP、HTTP POST、アラームサーバ、アラーム接点出力、音声アラーム、Cloud Push が選択できます。
保存	設定を保存します。

➤ スケジュール選択

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。

「4.3.1 モーション検出」の[スケジュール選択](#)を参照してください。

4.4 イベント設定

ラインクロス、領域に入る、領域を出る、ターゲットカウント、エリア侵入検知、ヒートマップなどのサブメニューがあります。



「4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)」の設定によりイベント設定や検出対象が以下のようになります。

➤ イベント設定

	壁/垂直	机上/上向き	天井/下向き
Fisheye	×	×	○
パノラマビュー	○ (ヒートマップ無し)	○ (ヒートマップ無し)	×
Fisheye+パノラマ+3 画面 PTZ	○ (ヒートマップ無し)	○ (ヒートマップ無し)	○
Fisheye または 4 画面 PTZ	×	×	○
Fisheye4 画面フュージョン	×	×	○

● 「人間」「車両」「オートバイ/自転車」の検出対象

	壁/垂直	机上/上向き	天井/下向き
Fisheye	×	×	人間のみ
パノラマビュー	○	○	×
Fisheye+パノラマ+3 画面 PTZ	○	○	人間のみ
Fisheye または 4 画面 PTZ	×	×	人間のみ
Fisheye4 画面フュージョン	×	×	人間のみ



4.4.1 ラインクロス (ライン越え検知)

設定したラインを検出対象が指定方向に通過したことを検知します。

➤ 検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示	説明
チャンネル	チャンネルごとに「ラインクロス」の検出ラインを設定することができます。 設定できるチャンネルは、「4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)」の設定により変化します。
有効	ラインクロスを有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。 ラインクロスを検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
元の画像をSDカードに保存	ラインクロス検出時に全景 (第1ストリーム) をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像をSDカードに保存	ラインクロスで検出した全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。

		1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
検出領域	検出ライン	検出ラインを選択します。検出ラインは最大 4 パターン設定できます。
	検出方向	設定した検出ラインを通過する方向を設定します。 A → B、B → A、A ⇔ B
アラームラインパラメータ (検出対象)		<p>ラインクロスを検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。</p> <p>※検出ターゲット選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車 (二輪車) <p>※感度設定について</p> <p>ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。</p> <p>ライブ画面上では、以下のように表示されます。</p> <p><u>通常時</u></p> <p>人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線</p> <p><u>検出時</u></p> <p>ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線</p> <p>「4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)」で設置状態を「天井/下向き」に設定した場合、検出対象は「人間」のみになります。</p>
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		検出ラインを画面上に描画します。
クリア		設定した検出ラインを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 ローカル設定」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス > IP アドレス > PEA > 日付 》に保存されます。

« Program Files > NetAllIPCamera > test folder > 192.168.226.201 > PEA > 2026-04-17

ラインクロスのライン設定

- ① 検出ラインと検出方向を選択します。最大 4 つ設定できます。
- ② [エリアを描く] をクリックし、ディスプレイ上でドラッグし検出ラインを引きます。
- ③ [クリア] をクリックすると、検出ラインが削除されます。
- ④ [保存] をクリックし、検出ラインを保存します。



■ 対象サイズの設定 ■

対象ターゲットサイズを設定すると、設定した最小値から最大値の間にある大きさのターゲットだけが検出できるようになります。

例えば、背景の石や木が日差しや光源の角度によって人間と誤認識されることがある。或いは、車両としてベビーカーやキャスタバックなどを車両と認識しないようにしたい、などの場合に、ターゲットサイズを設定することで、より精度の高い認識が可能になります。

- ① [描画ターゲットのサイズ] をクリックして、選択したターゲット（人間、自動車、オートバイ/自転車）の最大サイズと最小サイズを画面に描画して設定します。
- ② ターゲットのプルダウンで、検出対象を「人間」、「自動車」、「オートバイ/自転車」から選択します。
- ③ 画面に表示された緑色のボックスは最大ターゲット検出サイズ、黄色のボックスは最小ターゲット検出サイズです。

緑色のボックスまたは黄色のボックスをクリックして選択し、四隅の赤のマーカーをドラッグして、ボックスのサイズを変更します。右側に表示された、最小/最大の幅、高さの数値も連動して変更されます。

最小/最大の幅、高さの数値を直接入力して変更することもできます。

緑または黄色のボックスをクリックしてドラッグするとボックスを移動させることができますので、画面に映っている検出ターゲットに重ねて、大きさを確認します。

- ④ 最後に「保存」をクリックして設定を保存します。



➤ **スケジュール選択**

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 モーション検出」の [スケジュール選択](#)を参照してください。

➤ **連動**

ラインクロスにより連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	ラインクロスでは、以下の6つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、写真をSDカードに保存、SDカード録画、メールを送信、FTPファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の 連動 を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.2 領域に入る（エリア侵入検知）



指定したエリアに侵入する人や車両を検出します。検出のタイミングは、検出エリアを囲む線を、エリアの内側方向に跨いだ時です。

※設定したエリアの枠を跨ぐとき検出します。設定したエリアに入ってしまった後は検出しません。

➤ 検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示	説明
チャンネル	チャンネルごとに「領域侵入」の検出エリアを設定することができます。設定できるチャンネルは、「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」の設定により変化します。
有効	領域侵入による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。領域侵入を検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	領域侵入を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。

ターゲット画像を SD カードに保存	領域侵入を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。	
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。	
アラームエリア (検出領域)	検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。	
アラームラインパラメータ (検出対象)	領域侵入を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車 (二輪車) ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 <u>通常時</u> 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 <u>検出時</u> ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線 「4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)」で設置状態を「天井/下向き」に設定した場合、検出対象は「人間」のみになります。	
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く	検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4 ~ 6 ポイントをクリックします。	
クリア	検出エリアを削除します。	
描画ターゲットのサイズ	検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。	
保存	設定を保存します。	

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 ローカル設定」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス > IP アドレス > AOI > 日付 》に保存されます。



領域に入る エリア設定

- ① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。
- ② [エリアを描く] をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4~6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。
- ③ [クリア] をクリックすると、検出エリアが削除されます
- ④ [保存] をクリックし、検出エリアを保存します。



■ 対象サイズの設定 ■

4.4.1 項 ラインクロスの、[対象サイズの設定](#)を参照してください。

➤ スケジュール選択

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 モーション検出」の [スケジュール選択](#)を参照してください。

➤ 連動

領域に入るに連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	<p>領域に入るでは、以下の6つのアラームを設定できます。</p> <p>音声アラームを鳴らす、写真をSDカードに保存、SDカード録画、メールを送信、FTPファイル転送、アラーム接点出力</p> <p>※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の連動を参照してください。</p>
保存	設定を保存します。



4.4.3 領域を出る（エリア退出検知）

指定したエリアから退出する人や車両を検出します。検出のタイミングは、検出エリアを囲む線を、エリアの外側方向に跨いだ時です。

※設定したエリアの枠を跨ぐとき検出します。設定したエリアから出てしまった後は検出しません。

➤ 検出設定

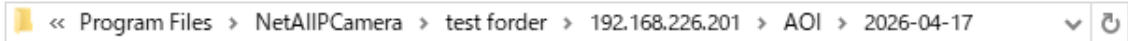
[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。

表示	説明
チャンネル	チャンネルごとに「領域退出」の検出エリアを設定することができます。設定できるチャンネルは、「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」の設定により変化します。
有効	領域退出による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。領域退出を検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	領域退出を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	領域退出を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。

		ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
アラーム持続期間		アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
アラームエリア（検出領域）		検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
検出対象		領域退出を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 <u>通常時</u> 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 <u>検出時</u> ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線 「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」で設置状態を「天井/下向き」に設定した場合、検出対象は「人間」のみになります。
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を設定します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4~6 ポイントをクリックします。
クリア		検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス > IP アドレス > AOI > 日付 》に保存されます。



領域を出る エリア設定

- ① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。
- ② [エリアを描く] をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4~6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。
- ③ [クリア] をクリックすると、検出エリアが削除されます
- ④ [保存] をクリックし、検出エリアを保存します。



■ 対象サイズの設定 ■

4.4.1 項 ラインクロスの、[対象サイズの設定](#)を参照してください。

➤ スケジュール選択

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の [スケジュール選択](#)を参照してください。

➤ 連動

領域に入るに連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	<p>領域を出るでは、以下の6つのアラームを設定できます。</p> <p>音声アラームを鳴らす、写真をSDカードに保存、SDカード録画、メールを送信、FTPファイル転送、アラーム接点出力</p> <p>※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の連動を参照してください。</p>
保存	設定を保存します。

4.4.4 ターゲットカウント（ライン通過カウント）

カウントラインを設定して、ラインを IN 方向（入）、OUT 方向（出）に通過する人、車両、オートバイ・自転車の数を、IN/OUT 別々にカウントします。

「IN（Entry）-OUT（Exit）= 滞在（Stay）」数を自動的に計算し、滞在数の閾値を設定し、閾値を超えると通知します。

また、チャート機能では、日、週、月、年のカウントレポートを表示することができます。

➤ 検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。

設定ホーム・イベント設定・ターゲットカウント

チャンネル

機能設定

有効

元の画像をSDカードに保存

ターゲット画像をSDカードに保存

検出対象

ターゲット 感度 滞在しきい値

人間

イベントのスナップショットを閉じる

カウントリセット

設定された時間で実行

マニュアル

時間間隔 秒

アラーム持続期間 秒



検出ライン

検出ライン

検出方向

対象サイズ

ターゲット

最小幅 % 高さ %

最大幅 % 高さ %

OSD

検計



スタート

終了

ステイ

< しきい値

> しきい値

表示	説明
チャンネル	チャンネルごとに「ターゲットカウント」の検出ラインを設定することができます。設定できるチャンネルは、「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」の設定により変化します。
有効	ラインの通過によるカウントを有効にする場合は、チェックを入れます。有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。ライン通過を検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	ラインの通過を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	ラインの通過を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
検出対象	<p>ラインの通過を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。滞在数（IN-OUT）の閾値を設定して、閾値を超えるとアラームを発報します。</p> <p>※検出ターゲット選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） <p>検出エリア内での滞在検出時間を滞在しきい値として設定します。</p> <p>※感度設定について</p> <p>ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。</p> <p>ライブ画面上では、以下のように表示されます。</p> <p><u>通常時</u></p> <p>人間：緑色枠</p> <p>車両：紫色枠</p> <p>オートバイ/自転車：水色枠</p> <p>設定したライン：青色線</p> <p><u>検出時</u></p> <p>ターゲット：黄色枠</p> <p>ライン：赤色線</p> <p>「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」で設置状態を「天井/下向き」に設定した場合、検出対象は「人間」のみになります。</p>

イベントのスナップショットを閉じる	有効に設定すると、ターゲットをカウント時にキャプチャされた画像は、SDカード、ローカル PC に保存されず、NVR、モバイルアプリ、CMS/VMS などにも送信されません。	
カウントリセット	[設定された時間で実行]で、カウントリセットの間隔を設定します。 毎日：時間を指定します。 毎週：曜日(日～土)と時間を指定します。 毎月：日にち(1～31)と時間を指定します。 オフ：カウントリセットはしません。 マニュアル：[リセット] をクリックして、手動でリセットを行います。	
時間閾値 (アラーム発報までの時間)	検出対象 (ターゲット) の滞在数 (Stay) が滞在しきい値を超えたとき、アラーム発報を遅延させる時間を設定します。0 秒に設定したときは、滞在しきい値を超えるとすぐにアラームを発報します。0 秒は選択肢に無いので 0 秒を設定するときは 0 を入力します。(設定範囲 0～999 秒)	
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。	
検出ライン	検出ライン	検出ラインを選択します。検出ラインは最大 1 パターン設定できます。
	検出方向	設定した検出ラインを通過する方向を設定します。 A→B、B→A
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を設定します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
OSD	統計	画面に統計情報を表示する場合はチェックします。
	スタート、他	OSD に表示する文字を変更できます。
エリアを描く	検出ラインを画面上に描画します。	
クリア	設定した検出ラインを削除します。	
描画ターゲットのサイズ	検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。	
保存	設定を保存します。	

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 ローカル設定」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス > IP アドレス > PLC > 日付 》に保存されます。

« Program Files > NetAllIPCamera > test folder > 192.168.226.201 > PLC > 2026-04-17

ターゲットカウントのライン設定

- ① 検出ラインは 1 つのみ設定できます。
 ラインに対する A エリアと B エリアの検出方向を設定します。
 A->B : A から B を Entrance (入る)、B から A を Exit (出る) でカウントします。
 A<-B : A から B を Exit (出る)、B から A を Entrance (入る) でカウントします。
- ② [エリアを描く] をクリックし、ディスプレイ上でドラッグし検出ラインを作成します。
- ③ [クリア] をクリックすると、検出ラインが削除されます、
- ④ Entrance (入る) と Exit (出る) のカウントを表示します。右上の赤枠をドラッグすると表示位置を変更できます。
- ⑤ [保存] をクリックし、検出ラインを保存します。



■ 対象サイズの設定 ■

4.4.1 項 ラインクロスの、[対象サイズの設定](#)を参照してください。

➤ スケジュール選択

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 モーション検出」の [スケジュール選択](#)を参照してください。

➤ 連動

ターゲットカウントに連動させるアラームを設定します。

設定ホーム ▶ イベント設定 ▶ ターゲットカウント

チャンネル

検出設定 スケジュール選択

音声アラームを鳴らす

写真をSDカードに保存

SDカード録画

メールを送信

FTPファイル転送

連携するアラーム出力

アラーム接点出力

表示	説明
連携するアラーム出力	<p>ターゲットカウントでは、以下の6つのアラームを設定できます。</p> <p>音声アラームを鳴らす、写真をSDカードに保存、SDカード録画、メールを送信、FTPファイル転送、アラーム接点出力</p> <p>※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の連動を参照してください。</p>
保存	設定を保存します。

4.4.5 エリア侵入検知（エリア内活動検知）



指定したエリア内で活動する人や車両を検知します。エリア内で静止している場合検知しません。

※設定したエリアの枠の中で検出対象が活動しているあいだ検出します。設定したエリアから出てしまった後は検知しません。

➤ 検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示	説明
チャンネル	チャンネルごとに「エリア侵入」の検出エリアを設定することができます。設定できるチャンネルは、「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」の設定により変化します。
有効	エリア侵入による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。エリア侵入を検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	エリア侵入による検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。

ターゲット画像を SD カードに保存	エリア侵入による検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。	
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。	
アラームエリア（検出領域）	検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。	
検出対象	<p>エリア侵入を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。</p> <p>※検出ターゲット選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） <p>※感度設定について</p> <p>ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。</p> <p>ライブ画面上では、以下のように表示されます。</p> <p><u>通常時</u></p> <p>人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線</p> <p><u>検出時</u></p> <p>ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線</p> <p>「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」で設置状態を「天井/下向き」に設定した場合、検出対象は「人間」のみになります。</p>	
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く	検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4~6 ポイントをクリックします。	
クリア	検出エリアを削除します。	
描画ターゲットのサイズ	検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。	
保存	設定を保存します。	

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス > IP アドレス > PEA > 日付 》に保存されます。



エリア侵入検出 エリア設定

- ① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。
- ② [エリアを描く] をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4~6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。
- ③ [クリア] をクリックすると、検出エリアが削除されます
- ④ [保存] をクリックし、検出エリアを保存します。



■ 対象サイズの設定 ■

4.4.1 項 ラインクロスの、[対象サイズの設定](#)を参照してください。

➤ スケジュール選択

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の [スケジュール選択](#)を参照してください。

➤ 連動

エリア侵入検知に連動させるアラームを設定します。

設定ホーム ▶ イベント設定 ▶ エリア侵入検知

チャンネル

検出設定 スケジュール選択

音声アラームを鳴らす

写真をSDカードに保存

SDカード録画

メールを送信

FTPファイル転送

連携するアラーム出力

アラーム接点出力

表示	説明
連携するアラーム出力	<p>エリア侵入検知では、以下の 6 つのアラームを設定できます。</p> <p>音声アラームを鳴らす、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力</p> <p>※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の連動を参照してください。</p>
保存	設定を保存します。


4.4.6 ヒートマップ

あらかじめ設定したエリア内の人の動線分布を色分けして表示します。

人の集まるエリアや動線などを色分け表示して可視化する機能です。※天井/下向きモードで動作する機能です。天井モードの切り換えは、「4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)」で設定します。

➤ 検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。

表示	説明
チャンネル	チャンネルごとに「ヒートマップ」の検出エリアを設定することができます。設定できるチャンネルは、「4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)」の設定により変化します。
有効	ヒートマップを有効にする場合は、チェックを入れます。有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。
アラームエリア (検出領域)	検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
検出対象	ヒートマップを検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。

		<p>ライブ画面上では、以下のように表示されます。</p> <p><u>通常時</u> 人間：緑色枠 設定したライン：青色線</p> <p><u>検出時</u> ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線</p> <p>「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」で設置状態を「天井/下向き」に設定した場合、検出対象は「人間」のみになります。</p>
対象サイズ	ターゲット	人間のみ
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		<p>検出エリアを画面上に描画します。</p> <p>マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように4～6ポイントをクリックします。</p>
クリア		検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

ヒートマップ エリア設定

- ① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。
- ② [エリアを描く] をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。
- ③ [クリア] をクリックすると、検出エリアが削除されます
- ④ [保存] をクリックし、検出エリアを保存します。



■ 対象サイズの設定 ■

4.4.1 項 ラインクロスの、[対象サイズの設定](#)を参照してください。

➤ スケジュール選択

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 モーション検出」の[スケジュール選択](#)を参照してください。

4.5 ネットワーク

TCP/IP、ポート、サーバ、ONVIF、DDNS、SNMP、802.1X、RTSP、RTMP、UPnP、Email、FTP、HTTP POST、HTTPS、NAT、QoS などのサブメニューがあります。

<ul style="list-style-type: none"> システム設定 <ul style="list-style-type: none"> 基本情報 IP付と特例 ローカル設定 ネットワーク リアルポート Webpageパスワード 画像設定 <ul style="list-style-type: none"> 監視画像 画像設定 圧縮 アラート画像マスク 設定確認 アラーム設定 <ul style="list-style-type: none"> メッセージ抽出 設定 アラーム入力 アラーム機能設定 アラームサーバ 監視アラーム 監視時間 アラーム記録 イベント設定 <ul style="list-style-type: none"> イベントログ 監視カメラ 監視カメラ ネットワーク イベント発生 ネットワーク イベント発生 ネットワーク ネットワーク設定 <ul style="list-style-type: none"> TCP/IP ポート 設定 セキュリティ設定 <ul style="list-style-type: none"> ユーザー オンラインユーザー パスワード ネットワーク 	<p>設定ホーム > ネットワーク設定</p> <h3>ネットワーク設定</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● TCP/IP ネットワークを設定します。(IPアドレス、DNSサーバ、DHCPなど) ● ポート HTTP、HTTPS、データ、RTSPなどのポート設定 ● サーバ 監視サーバを設定します。 ● ONVIF 統合プロトコルユーザーは、RTSPおよびONVIFプロトコルのログイン管理に適用されます。Onvifプロトコルの追加、変更、削除、およびエラーは、統合プロトコルのユーザーを操作しています。 ● DDNS DDNSサーバを設定します。 ● SNMP ネットワーク機器を監視してネットワークの障害を把握します。 ● 802.1X デバイスの認証モードを手動で選択できるようになります。 ● RTSP リモートビデオストリーミングを使用する場合はRTSPを設定します。 ● RTMP リモートビデオストリーミングのRTMP設定と構成。 ● UPnP ネットワークに接続する機器の自動検出を可能にします。 ● Email メール設定を行います。 ● FTP FTPサーバを設定します。 ● HTTP POST デバイスからの通知やアラームなどを送信するための使用できるHTTPPOSTサーバをセットアップします。 ● HTTPS httpsはSSLを利用したhttp通信です。SSLは通信を暗号化し、安全に情報を取り扱うことができます。 ● NAT NATを有効にすると、NATS のデバイス ID または広域ネットワークのモバイル アプリを通じてデバイスにアクセスできるようになります。アカウントをバインドすると、アラーム情報をモバイル アプリにプッシュできます。 ● QoS ネットワーク機器にQoSを有効することで、特定の通信を優先して伝送させたり、帯域幅を確保することができます。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4.5.1 TCP/IP

ネットワークの設定を行います。（IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、PPPoE、IP 変更通知など）

➤ IPv4 アドレス

IPv4 の設定方法

◆ 自動的に IP アドレスを取得する

DHCP より自動的に IP アドレスを取得します。

◆ 以下の IP アドレスを使う

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバを手動で設定・変更する必要があります。

[テスト]をクリックすると、IP アドレスが使えるのか(競合していないか)確認することができます。

[保存]をクリックして、設定を保存します。

➤ IPv6 アドレス

IPv6 の設定方法

◆ 自動的に IP アドレスを取得する

DHCP より自動的に IP アドレスを取得します。

◆ 以下の IP アドレスを使う

IP アドレス、サブネットプレフィックス長さ、ゲートウェイを手動で設定・変更する必要があります


➤ PPPoE 設定

[編集]をクリックしてから「有効」にチェックを入れ、PPPoE を有効にします。

ISP(プロバイダ)から提供された、ユーザ名とパスワードを入力します。

WAN IP を取得すると、インターネットに接続できます。

[保存]をクリックして、設定を保存します。

既に PPPoE が登録されている場合  アイコンをクリックすると、非表示になっているユーザ名を表示して確認することができます。

➤ IP 変更通知設定

デバイスの IP アドレスを変更すると、新しい IP アドレスが自動的にメールまたは FTP に送信されます。

[メールを送信]にチェックを入れると、eメールによる通知が有効になります。

通知メールの送信先をリストから選択します。

※eメール通知の送受信に関する設定は、「4.5.11 **Email**」で事前に行う必要があります。

[FTP ファイル転送]にチェックを入れると、FTP サーバへのファイル転送が有効になります。

FTP サーバをリストから選択します。

※FTP サーバに関する設定は、「4.5.12 **FTP**」で事前に行う必要があります。

[保存]をクリックして、設定を保存します。

4.5.2 ポート

HTTP、HTTPS、データ、RTSP のポート番号を設定します。

表示	説明
HTTP ポート	HTTP プロトコルで制御を行うポートです。(初期値 : 80)
HTTPS ポート	HTTPS プロトコルで制御を行うポートです。(初期値 : 443)
データポート	カメラ制御を行うポートです。(初期値 : 9008)
RTSP ポート	RTSP プロトコル制御を行うポートです。(初期値 : 554)
RTSP over TLS	RTSP プロトコル制御の TLS 暗号化通信ポートです。(初期値 : 332)
リスニングポート	Long Polling により HTTP でスマート検出データをプッシュ送信します。 (初期値 : 8080)
保存	設定を保存します。

[保存]をクリックして、設定を保存します。

4.5.3 サーバ

CMS/VMS の認証サーバにプッシュで接続する場合に設定します。



- NVR の追加手順

- ① [編集]をクリックして有効にチェックを入れ、サーバを有効にします。
- ② サーバアドレスに NVR の IP アドレスを入力します。また、デバイス ID を設定します。
デバイス ID は、同じ NVR に複数のカメラをプッシュ接続する場合に、NVR 側でカメラを判別するための ID 番号です。同じ NVR に登録するカメラは ID が重複しないように設定します。
- ③ NVR で「設定→カメラ→カメラ追加」と操作して、「自動レポート」タブを選択します。
カメラ側からプッシュされた登録情報が表示されていますので、を有効にして「追加」をクリックして登録します。



- CMS/VMS サーバの追加手順

- ① [編集]をクリックして有効にチェックを入れ、サーバを有効にします。
- ② CMS/VMS の映像転送サーバの IP アドレスとオートレポート番号を確認します。
デフォルトのオートレポート番号は 2009 です。




- ③ 上記で確認したサーバポート/IP アドレス/デバイス ID を入力して [保存]をクリックして設定を保存します。デバイス ID は任意の数字です。
- ④ CMS/VMS の「デバイス管理→デバイスの追加と編集→追加されていないオートリポートデバイス」を開きます。



- ⑤ CMS/VMS に未登録のデバイスが表示されていますので、左端の☑を有効にして、OK をクリックして CMS/VMS にデバイスを登録します。



既にサーバが登録されている場合  アイコンをクリックすると、非表示になっているサーバアドレスを表示して確認することができます。

4.5.4 ONVIF

ONVIF プロトコルでアクセスできるユーザを登録します。初期設定では Onvif ユーザは未登録ですので本機に Onvif プロトコルではアクセスできません。（この機能は、ONVIF プロトコルを装備したカメラのみ利用できます。）



[追加]ボタンをクリックしてユーザを追加します。ユーザ名、パスワード、ユーザ区分を入力して[OK]をクリックします。ヒントに従ってパスワードを設定してください。

ユーザーの追加 ×

ユーザー名

パスワード

レベル

パスワードは、数字、特殊文字、大文字または小文字で構成できます。

パスワード確認

ユーザー区分

パスワードを変更する場合は、該当ユーザを選択して[変更]ボタンをクリックします。

ユーザを削除したい場合は、該当ユーザを選択して[削除]ボタンをクリックします。

注意

ユーザ名：**最大 15 文字** 英数字のみ、記号**不可**
 パスワード：**最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

4.5.5 DDNS

DDNS 設定方法

複数の DDNS サービスが登録されていますので好みのサービスを選択してください。

サーバタイプのプルダウンから DDNS サービスを選択して、ユーザ名、パスワード、ドメイン名を入力します。これらの入力する情報は、各 DDNS サービスのウェブサイトですべてに登録しておく必要があります。

《例 1》 www.dvrdydns.com の場合

- ① ブラウザのアドレスバーに **www.dvrdydns.com** を入力し、DDNS ウェブサイトにアクセスしてください。

- ② [Registration (登録)] ボタンをクリックすると、以下のインターフェースに進みます。DDNS アカウント情報 (ユーザ名、パスワードなど) を設定し、[Submit (送信)] ボタンをクリックして、アカウントを保存します。

- ③ ドメイン名を作成し、[Request Domain (ドメインの要求)]をクリックします。



- ④ ドメイン名を要求すると、ドメイン名の情報がリストに表示されます。



- ⑤ DDNS 設定を開きます。[編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、DDNS を有効にします。DDNS タイプは www.dvrdydns.com を選択します。登録したユーザ名、パスワード、ドメイン名を入力し、[保存]をクリックして設定を保存します。



- ⑥ インターネットから本機にアクセスするには、ブラウザのアドレスバーに http://www.xxx.dvrdydns.com:81 のような登録済みのドメイン名と HTTP ポートを入力します。「2.2 WAN」を参照してください。

《例 2》 **www.autoddns.com** の場合

www.autoddns.com は無償提供の DDNS サービスです。以下の手順で設定します。

- ① サーバタイプ:www.autoddns.com を選択します。

ユーザ名は任意の文字列を入力します。入力した文字列がドメイン名になります。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF **DDNS** SNMP 802.1X RTSP RTMP UPnP

有効

サーバタイプ

ドメイン .autoddns.com

- ② インターネットから本機にアクセスするには、ブラウザのアドレスバーに <http://ドメイン名:81> ドメイン名と HTTP ポート（例 http://hytecinter_test100.autoddns.com:81）を入力します。

「2.2 WAN」を参照してください。


設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF **DDNS** SNMP 802.1X RTSP RTMP UPnP

有効

サーバタイプ


ドメイン .autoddns.com

 アイコンをクリックすると、非表示になっているドメインを表示して確認することができます

4.5.6 SNMP (未サポート)

[編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、SNMPを設定します。

SNMP機能は、カメラのステータスやパラメータ、アラーム情報を取得し、カメラをリモートで管理できます。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定	
ポート サーバー ONVIF DDNS SNMP 802.1X RTSP RTMP	
SNMP v1/v2	
<input type="checkbox"/> SNMPv1を有効にする	
<input type="checkbox"/> SNMPv2を有効にする	
読み込み専用コミュニティ名	<input type="text" value="public"/>
書き込み専用コミュニティ名	<input type="text" value="private"/>
トラップアドレス	<input type="text" value="192. ***. ***. 201"/>
トラップポート	<input type="text" value="162"/>
トラップグループ名	<input type="text" value="public"/>
SNMP v3	
<input type="checkbox"/> SNMPv3を有効にする	
ユーザー名のリード	<input type="text" value="public"/>
セキュリティレベル	<input type="text" value="auth, priv"/>
認証アルゴリズム	<input checked="" type="radio"/> MD5 <input type="radio"/> SHA
認証パスワード	<input type="text" value="*****"/>
秘密鍵アルゴリズム	<input checked="" type="radio"/> DES <input type="radio"/> AES
秘密鍵パスワード	<input type="text" value="*****"/>
ユーザー名を書く	<input type="text" value="private"/>
セキュリティレベル	<input type="text" value="auth, priv"/>
認証アルゴリズム	<input checked="" type="radio"/> MD5 <input type="radio"/> SHA
認証パスワード	<input type="text" value="*****"/>
秘密鍵アルゴリズム	<input checked="" type="radio"/> DES <input type="radio"/> AES
秘密鍵パスワード	<input type="text" value="*****"/>
SNMPその他の設定	
SNMPポート	<input type="text" value="161"/>
 編集	

➤ SNMP v1/v2

[編集]をクリックしてから[SNMPv1 を有効にする][SNMPv2 を有効にする]にチェックを入れ、SNMP v1/v2 を有効にします。

SNMP v1/v2	
<input checked="" type="checkbox"/>	SNMPv1を有効にする
<input checked="" type="checkbox"/>	SNMPv2を有効にする
読み込み専用コミュニティ名	<input type="text" value="public"/>
書き込み専用コミュニティ名	<input type="text" value="private"/>
トラップアドレス	<input type="text" value="192.168.226.201"/>
トラップポート	<input type="text" value="162"/>
トラップグループ名	<input type="text" value="public"/>

表示	説明
読み込み専用コミュニティ名	Read-only。SNMP による読み取り専用のコミュニティ名を入力します。
書き込み専用コミュニティ名	Read-write。SNMP による読み書き専用のコミュニティ名を入力します。
トラップアドレス	トラップ送信先 SNMP マネージャの IP アドレスを入力します。
トラップポート	トラップポートを入力します。
トラップグループ名	トラップのコミュニティ名を入力します。
保存	設定を保存します。

➤ SNMP v3

[編集]をクリックしてから[SNMPv3を有効にする]にチェックを入れ、SNMP v3を有効にします。

表示	説明
ユーザ名のリード	SNMPによる読み取り専用のユーザ名を入力します。
ユーザ名を書く	SNMPによる読み書き専用のユーザ名を入力します。
セキュリティレベル	ユーザ認証には3つのセキュリティレベルがあります。 <ul style="list-style-type: none"> auth, priv : 認証アルゴリズムで認証。暗号化あり。 auth, no priv : 認証アルゴリズムで認証。暗号化なし。 no auth, no priv : ユーザ名のみで認証。暗号化なし。
認証アルゴリズム	認証方式をMD5またはSHAから選択します。
認証パスワード	認証パスワードを設定します。
秘密鍵アルゴリズム	暗号化方式をDESまたはAESから選択します。
秘密鍵パスワード	暗号化パスワードを設定します。
保存	設定を保存します。

➤ SNMP その他の設定

SNMPポートを設定して、[保存]をクリックします。

4.5.7 802.1X

802.1X を設定します。

有効にすると、カメラのデータを保護できます。カメラが IEEE802.1x で保護されたネットワークに接続されている場合、ユーザ認証が必要です。

この機能を使用するためには、802.1x プロトコルをサポートするスイッチにカメラを接続する必要があります。スイッチはローカルネットワークでデバイスを識別するための認証システムとして利用できます。

スイッチのネットワーク・インターフェースに接続されたカメラが、スイッチの認証に合格すると、ローカルネットワーク経由でアクセスできます。


802.1X の設定方法

[編集]をクリックしてから「有効」にチェックを入れ、802.1X 認証を有効にします。

プロトコルタイプは必要に応じて「EAP_MD5」または「EAP_TLS」を選択します。

- EAP 方式として EAP-TLS を選択した場合
CA が発行した ID を入力し、関連する証明書をアップロードします。802.1x で保護されたネットワークにカメラを接続する前に、RADIUS サーバで検証可能な認証局（ネットワーク管理者など）からのデジタル証明書を適用してください。
- EAP 方式として EAP_MD5 を選択した場合
ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。
ユーザ名とパスワードは、認証サーバに登録されているユーザ名とパスワードを入力してください。

[保存]をクリックして設定を保存します。

 アイコンをクリックすると、非表示になっているドメインを表示して確認することができます。

4.5.8 RTSP

RTSP を設定します。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF DDNS SNMP 802.1X RTSP RTMP UPnP Email FTP

チャンネル チャンネル1 ▼

有効

ポート 554

アドレス rtsp://IP or domain name:port/profile1_1

rtsp://IP or domain name:port/profile1_2

rtsp://IP or domain name:port/profile1_3

マルチキャストアドレス

第1ストリーム	239. ***. ***.0	50554	<input type="checkbox"/> 自動スタート
第2ストリーム	239. ***. ***.1	51554	<input type="checkbox"/> 自動スタート
第3ストリーム	239. ***. ***.2	52554	<input type="checkbox"/> 自動スタート
音声	239. ***. ***.0	50554	<input type="checkbox"/> 自動スタート

匿名ログイン許可 (ユーザー名およびパスワード不要)

RTSP over TLS

有効

ポート 332

アドレス rtsp://IP or domain name:port/profile1_2

匿名ログイン許可 (ユーザー名およびパスワード不要)

編集

[編集]をクリックしてから「有効」にチェックを入れ、RTSP を有効にします。

- ポート : 「4.5.2 ポート」の RTSP ポートと連動しています。

- チャンネル：

表示	説明
チャンネル 1	フィッシュアイ画像のストリームを設定します。
チャンネル 2	PTZ 操作できる画像またはパノラマ画像のストリームを設定します。※ 1
チャンネル 3	PTZ 操作できる画像のストリームを設定します。
チャンネル 4	PTZ 操作できる画像のストリームを設定します。
チャンネル 5	PTZ 操作できる画像のストリームを設定します。

※1 ストリームモードに連動して変わります。ストリームモードは、「4.1.6 Fisheye パラメータ（魚眼パラメータ）」で設定します。

- アドレス：VLC プレーヤーなどで再生する時に使用する RTSP アドレスを表示します。

【例】 RTSP アドレス（ユニキャスト）。IP アドレスが 192.168.1.226 の場合。

第 1 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1_1

第 2 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1_2

第 3 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1_3

- マルチキャストアドレス：マルチキャストアドレス、ポート番号を設定します。

【例】 RTSP アドレス（マルチキャスト）。IP アドレスが 192.168.1.226 の場合。

第 1 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1?transportmode=mcast

第 2 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile2?transportmode=mcast

第 3 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile3?transportmode=mcast

カメラ起動時に、自動的に配信開始したい場合は、[自動スタート]をチェックします。

- [匿名ログインを許可する（ユーザ名またはパスワードは不要）] に、チェックを入れると RTSP 認証を省いて再生できます。

- RTSP over TLS を有効にします。

IP アドレスが 192.168.1.226 の場合、rtsp://192.168.1.226:332/profile2 です。

ポート番号は「4.5.2 ポート」で設定します。

4.5.9 RTMP

RTMP を設定します。YouTube 配信に使用します。

[編集]をクリックしてから「有効」にチェックを入れ、RTMP を有効にします。

表示		説明
チャンネル	チャンネル 1	フィッシュアイ画像のストリームを設定します。
	チャンネル 2	PTZ 操作できる画像またはパノラマ画像のストリームを設定します。※ 1
	チャンネル 3	PTZ 操作できる画像のストリームを設定します。
	チャンネル 4	PTZ 操作できる画像のストリームを設定します。
	チャンネル 5	PTZ 操作できる画像のストリームを設定します。
ストリーム形式		YouTube 配信で使用するストリームを選択します。※2、※3
タイムアウト後に再接続する		設定した時間以内なら再接続します。
サーバアドレス		YouTube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを貼付けます。 例：rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst
接続状態		接続完了の表示になれば YouTube との接続は完了しています。
保存		設定を保存します。
編集		編集モードにします。
		非表示になっている設定情報を表示します。

※1: ストリームモードに連動して変わります。ストリームモードは、「4.1.6 Fisheye パラメータ (魚眼パラメータ)」で設定します。

※2:ストリーム設定は「4.2.2 映像/音声」で設定します。通信回線の速度に応じて、最適な設定を行います。ビデオ圧縮は必ず、「H.264」を設定する必要があります。また、音声を有効に設定します。

※3:お使いのインターネット接続で安定して映像を転送できる品質に設定します。実際に配信する動きや音声でテストを行う必要があります。設定した解像度、フレームレート、ビットレートはYouTube が自動的に検出します。

映像周波数 60Hz 時	チャンネル 1				チャンネル 2			
	1st	2st	3st	fps	1st	2st	3st	fps
	RTSP1	RTSP2	RTSP3		RTSP4	RTSP5	RTSP6	
Fisheye(F)	3000x3000	1440x1440	960x960	30				
	2160x2160	720x720	640x640	30				
	1080x1080	480x480	360x360	30				
Panorama(P)	4000x3000	1920x1080	1280x720	20				
	3840x2160	960x540	640x360	20				
	3200x1800	640x480		20				
	2560x1440			20				
F+P+120 x 3PTZ	3000x3000	1440x1440	960x960	15	4000x3000	1920x1080	1280x720	15
	2160x2160	720x720	640x640	15	3840x2160	960x540	640x360	15
	1080x1080	480x480	360x360	15	3200x1800	640x480		15
					2560x1440			15
F+90 x 4PTZ	3000x3000	1440x1440	960x960	30	1280x720			15
	2160x2160	720x720	640x640	30	960x540			15
	1080x1080	480x480	360x360	30	640x360			15
F+90x4 分割	3000x3000	1440x1440	960x960	30	2560x1440	640x360	640x360	20
	2160x2160	720x720	640x640	30				
	1080x1080	480x480	360x360	30				

映像周波数 60Hz 時	チャンネル 3		チャンネル 4		チャンネル 5	
	1st	fps	1st	fps	1st	fps
	RTSP7		RTSP8		RTSP9	
Fisheye(F)						
Panorama(P)						
F+P+120 x 3PTZ	1280x720	15	1280x720	15	1280x720	15
	960x540	15	960x540	15	960x540	15
	640x360	15	640x360	15	640x360	15
F+90 x 4PTZ	1280x720	15	1280x720	15	1280x720	15
	960x540	15	960x540	15	960x540	15
	640x360	15	640x360	15	640x360	15
F+90x4 分割						

4.5.10 UPnP

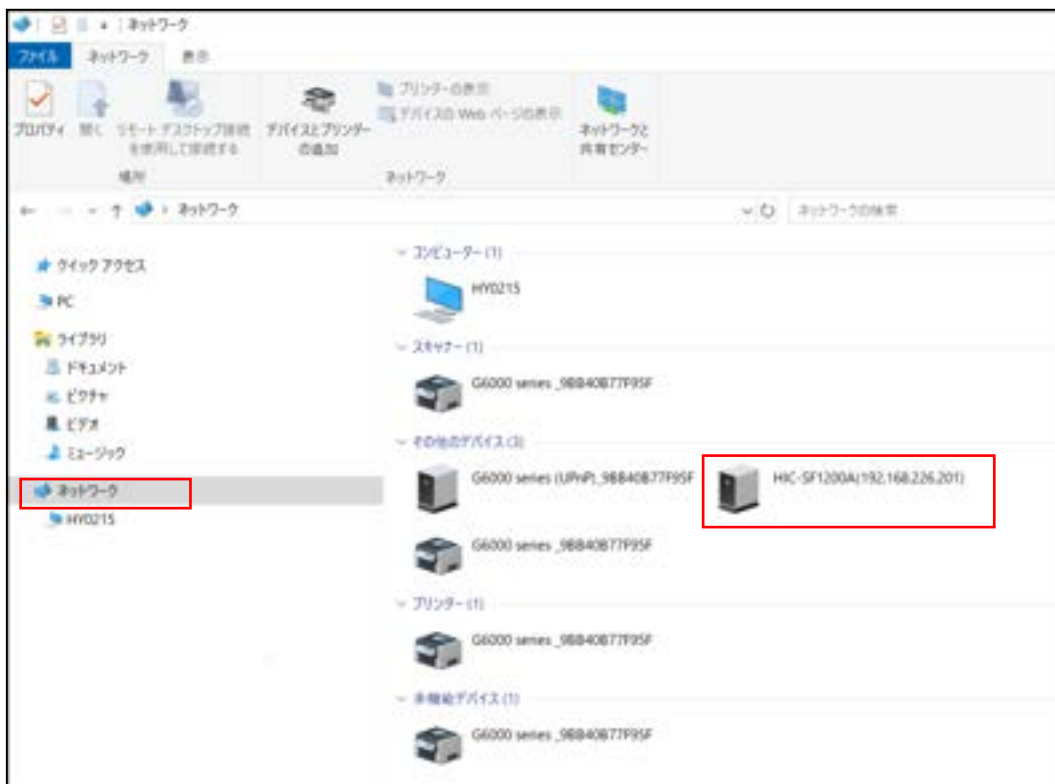
UPnP を使用すると LAN 経由で簡単にカメラにアクセスできます。



UPnP の設定方法

- ① 有効をチェックし、UPnP 名を入力し[保存]をクリックして設定を保存します。
- ② PC でエクスプローラを起動したあと、ネットワークをクリックすると、設定した UPnP 名のカメラが表示されます。

※事前に PC 側で「ネットワーク探索とファイル共有」を有効に設定しておく必要があります。



- ③ 表示されたカメラをダブルクリックするとブラウザが起動して、カメラに接続します。

4.5.11 Email

Email に関する設定を行います。

設定ホーム > ネットワーク設定 > 高度な設定

ポート サーバー ONVIF DDNS SNMP B2.TX RTSP RTMP UPnP **Email** FTP HTTP POST HTTPS NAT QoS

送信者

送信者アドレス

ユーザー名 匿名ログイン

パスワード

サーバアドレス

安全な接続 TLS

SMTPポート 25

送信間隔(S) 60 (10-3600)

受信者

 **編集とテスト**

➤ 送信者

[編集とテスト]をクリックしてから送信者の E メールアドレス、SMTP サーバなどを設定します。

送信者

送信者アドレス

ユーザー名 匿名ログイン

パスワード

サーバアドレス

安全な接続 SSL

SMTPポート 465 **デフォルト**

送信間隔(S) 60 (10-3600)

クリア **テスト**

送信者の設定方法

ISP から提供された E メールサービスの情報に従って入力します。

- ① [編集とテスト]をクリックしてから送信者の E メールアドレスを入力します。
- ② ユーザ名とパスワードを入力します。
- ③ サーバアドレスに SMTP サーバ情報を入力します。
- ④ 暗号化プロトコル SSL/TLS を選択します。
- ⑤ SMTP ポートを設定します。[デフォルト]で初期値に戻ります。
- ⑥ Eメールの送信間隔を設定します。

送信間隔にチェックを入れ 300 秒に設定した場合、300 秒に 1 通のメールが送信されます。300 秒の間に複数検出された場合、検出時間などをまとめて 1 通で通知します。添付ファイルの静止画は最初に検出した静止画のみを添付します。

- ⑦ [テスト]をクリックして、アカウントの接続テストを行います。

注 1 Yahoo や Gmail 等のフリーメールはご利用いただけません。ISP が提供するメールサービスをお使いください。

➤ 受信者

受信者	
佐藤	satou@yahoo.co.jp
鈴木	susuki@yahoo.co.jp
高橋	takahashi@yahoo.co.jp

受信者アドレス

受信メール名

[追加] [削除]

[保存]

[受信者アドレス]に e メールアドレス、受信メール名に名前（例：佐藤）を入力し、[追加]をクリックしてリストに追加します。削除する場合は、リストから削除するアドレスを選択し、[削除]をクリックしてリストから削除します。

👁️アイコンをクリックすると、非表示になっている、送信者アドレス、ユーザ名、受信者アドレスを表示して確認することができます

[保存]をクリックして設定を保存します。

4.5.12 FTP

FTP サーバの設定を行います。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF DDNS SNMP 802.1X RTSP RTMP UPnP Email **FTP** HTTP POST HTTPS NAT QoS

サーバ名	サーバアドレス	サーバタイプ	ポート	ユーザー名	パス
test	172.***.***.1	FTPS	21	a***n	/


編集とテスト

➤ FTP 追加/変更

FTP サーバを追加するには、[編集とテスト]をクリックしてから [追加]をクリックします。

登録済のFTPサーバを変更する場合は、[変更]をクリックします。

FTPを追加 ×

サーバ名

サーバアドレス

パス

ポート

ユーザー名

パスワード 

サーバタイプ

OK キャンセル

表示	説明
サーバ名	FTP サーバの名前を入力します。
サーバアドレス	FTP サーバの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
パス	FTP サーバのアップロードパス（フォルダ）を設定します。
ポート	FTP サーバのポート番号を入力します。
ユーザ名/パスワード	FTP サーバのユーザ名とパスワードを入力します。 匿名にチェックを入れると、ユーザ名とパスワードの入力を省きます。
サーバタイプ	FTPS、FTP を選択できます。
OK	ウィンドウを閉じます。（まだ保存されてません。）
保存	設定を保存します。

➤ テスト

[テスト]をクリックすると、選択している FTP サーバとの接続確認を行います。

➤ FTP 削除

[削除]をクリックすると、選択している FTP サーバを削除します。

FTP 保存パス: /device MAC address/event type/date/time/

モーション検出のパス例 : FTP file path ¥00-18-ae-a8-da-2a¥MOTION¥2021-01-09¥14¥

イベントによるファイル名の一覧

ファイル名	イベント	ファイル名	イベント
IP	IP アドレス	MOTION	モーション検出
SENSOR	アラーム入力	TRIPWIRE	ラインクロス(ライン超え)
AOIENTRY	領域に入る (エリア侵入)	AOILEVE	領域を出る (エリア退出)
PASSLINECOUNT	ターゲットカウント (ライン通過 カウント)	PERIMETER	エリア侵入(エリア内活動)
SDFULL	SD カードフル	SDERROR	SD カードエラー

テキストファイルの構成:

デバイス名/デバイス MAC アドレス/デバイス IP アドレス/イベントタイプ/イベント時刻

例: device name: IPC mac: 00-18-ae-a8-da-2a MOTION time: 2021-03-16 12:20:07

4.5.13 HTTP POST

HTTP POST を設定します。

HTTP POST では、各種イベントの情報や検出画像を HTTP POST サーバにプッシュできます。

表示	説明
Push Protocol Version	プッシュするプロトコルのバージョンを設定します。
Push Type	サブスクリプションによるプッシュ (Push by Subscription) アクティブプッシュ (Actively Push) を選択します。
サブスクリプションによるプッシュ	リスニングポートを設定します。
アクティブプッシュ	[追加]をクリックして HTTP POST サーバを追加します。変更する場合は、[変更]をクリックします。 [編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、HTTP POST を有効にします。

表示	説明
プロトコルタイプ	HTTP 固定
ドメイン/IP	HTTP POST サーバの IP アドレスを入力します。
サーバポート	HTTP POST サーバのポート番号を入力します。
パス	転送先のパスを設定します。
ユーザ名・パスワード	必要に応じて入力します。
接続タイプ	持続接続と非持続接続を選択します。
ハートビート間隔 (秒)	HTTP POST サーバの稼働状態を確認する間隔を設定します。 (初期値 90 秒 : 設定範囲 1 秒～120 秒)
スマートアラームデータ	アラームステータスデータ : アラームの内容をプッシュします。 スマートトラックデータ : 検出ターゲットの追跡データをプッシュします。 スマートイベントデータ : イベント画像を BASE64 形式でプッシュします。全景写真 (原画) と、ターゲット切り抜き写真 (対象画像) が選択できます。

スマートアラームの種類	POST するイベントを選択します。モーション検出、アラーム入力、領域に入る、領域を出る、音声例外、ターゲットカウント、エリア侵入検知、ラインクロスが選択できます。
保存	設定を保存します。

上記のパラメータを設定した後、[保存]をクリックして設定を保存します。

設定済の HTTP POST サーバを選択してから[テスト]をクリックするとカメラと HTTP POST サーバとの接続状態が確認できます。

HTTP ポストサーバとの接続が正常に確立されていれば、イベントが発生すると、カメラはアラーム情報を HTTP POST サーバに HTTP 形式で転送します。アラーム情報には、イベントの種類、ターゲットのトレース座標、ターゲットのメタデータ情報、イベントでキャプチャされた全体画像、ターゲット切り抜き画像などが含まれます。

4.5.14 HTTPS

HTTPS を設定します。HTTPS は Web サイトの認証を提供し、ユーザのプライバシーを保護します。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF DDNS SNMP 802.1X RTSP RTMP UPnP Email FTP HTTP POST **HTTPS** NAT QoS

有効

証明書のインストール C=US, ST=Some-State, O=embeddedsoftware 証明書の置き換え

属性

発行されました: C=US, ST=Some-State, O=embeddedsoftware, H=IPC,
発行者: C=US, ST=Some-State, O=embeddedsoftware, H=IPC,
有効期限: 2026/3/25 8:09:48 - 2036/3/22 8:09:48

保存

有効にチェックを入れて、HTTPS へのアクセスを有効にし、[保存]をクリックして設定を保存します。

Web ブラウザを使用して、「https://IP アドレス:HTTPS ポート」にアクセスします。

《 例 : https://192.168.226.201:443 》

デフォルトで証明書がインストールされています。

デフォルトの証明書を使用しない場合は、[証明書の置き換え]をクリックしてから、プライベート証明書を作成することもできます。3 種類のインストールタイプのどれかを選択して、各タイプで設定してください。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF DDNS SNMP 802.1X RTSP RTMP UPnP Email FTP HTTP POST **HTTPS** NAT QoS

有効

インストールタイプ

証明書に署名して直接インストールしてください。

プライベート証明書を作成する

証明書要求の作成

証明書をインストールする

ファイルの選択 文件が選択されていません インストール

保存

➤ 証明書に署名して、直接インストールしてください

インストールタイプ

- 証明書に署名して直接インストールしてください。
- プライベート証明書を作成する
- 証明書要求の作成

証明書をインストールする

ファイルの選択 ファイルが選択されていません インストール

保存

[ファイルの選択]ボタンをクリックして、インストールする証明書ファイルを選択してから、[インストール]ボタンをクリックして証明書をインストールします。
最後に[保存]ボタンをクリックします。

➤ プライベート証明書を作成する

インストールタイプ

- 証明書に署名して直接インストールしてください。
- プライベート証明書を作成する
- 証明書要求の作成

プライベート証明書を作成する

作成

保存

[作成]ボタンをクリックして、プライベート証明書を作成します。国(2文字のみ利用可能)、ドメイン(NVRのIPアドレス/ドメイン)、有効期限、パスワード、州(都道府県)、領域(地域)などを入力します。[*]は、必須項目です。次に、[OK]をクリックして設定を保存します。最後に[保存]ボタンをクリックします。

プライベート証明書を作成する

国 * BE:CN

ドメイン *

有効期限 * 0 日

パスワード

州/州

領域

組織

単位

Eメール

OK キャンセル

➤ 証明書要求の作成

[作成]をクリックして証明書要求を作成します。

国(2文字のみ利用可能)、ドメイン(NVRのIPアドレス/ドメイン)、パスワード、州(都道府県)、領域(地域)などを入力します。[*]は、必須項目です。次に、[OK]をクリックして設定を保存します。

そうすると、[ダウンロード]ボタンがアクティブになりますので、クリックして、証明書要求ファイルをダウンロードし、署名のために信頼された証明機関に送信します。署名された証明書を受け取った後、証明書をデバイスにインポートします。上述の[証明書に署名して、直接インストールしてください]項で証明書をインストールしてください。

また、[削除]をクリックして、作成した証明書要求ファイルを削除できます。

4.5.15 NAT

この機能を有効にすると、モバイル監視クライアントで QR コードをスキャンすることで、WAN 経由で IP カメラにアクセスできます。



IP カメラをインターネットに接続できるネットワークに接続して、有効にチェックを入れて[保存]をクリックします。

IP カメラが AUTONAT サーバに正常に接続されると、オンライン状態は「オンライン」と表示されます。オンライン状態を確認するには[更新]をクリックします。

モバイル端末にインストールしたクライアントアプリケーションで QR コードをスキャンして、IP カメラを登録します。

セキュリティコードは、クライアントアプリケーションでアカウントを作成してログインしている場合に有効な機能です。

※ログインした状態で、QR コードをスキャンしてデバイスを登録すると、そのデバイスはアカウントに紐づけられます。アカウントに紐づけられたデバイスを複数のモバイル端末で視聴したい場合、全ての端末のアプリケーションで、同じアカウントでログインする必要があります。

4.5.16 QoS

QoS（Quality of Service）機能は、ネットワークアプリケーションごとに異なるサービス品質を提供するための機能です。

帯域幅が不足している場合、ルータやスイッチがデータストリームをソートし、優先順位に従って転送することで、ネットワークの遅延やネットワークの輻輳を解決します。

表示	説明
ビデオ/オーディオ DSCP	0 ～63 の範囲でビデオ/オーディオの優先度を設定します。
アラーム DSCP	0 ～63 の範囲でアラームの優先度を設定します。
マネージャ DSCP	0 ～63 の範囲でマネージャの優先度を設定します。
保存	設定を保存します。

数値が大きいくほど、優先度は高くなります。

4.6 セキュリティ設定

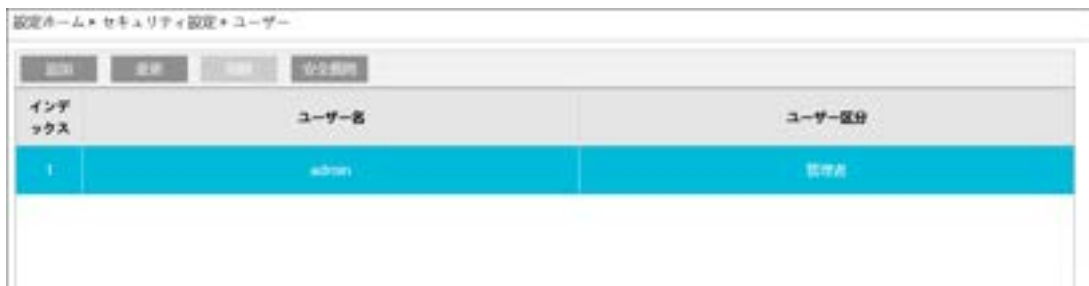
ユーザ、オンラインユーザ、ブロックと許可リスト、セキュリティ管理などのサブメニューがあります。



4.6.1 ユーザ

ユーザの追加、変更、削除の設定を行います。

管理者アカウントの admin は削除できません。また、ユーザ名は admin から変更できません。



➤ ユーザの追加方法

- ① [追加]をクリックすると、「ユーザの追加」がポップアップします。

- ② ユーザ名とパスワード(パスワード確認)は、1～15 文字の英数字で設定します。

注意

ユーザ名 : **最大 15 文字** 英数字のみ、記号**不可**
パスワード : **最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

レベルは、パスワードの強度を示します。「4.6.4 **セキュリティ管理**」にある[パスワードセキュリティ](#)で設定したレベル以上の組合せが必要です。

- ③ ユーザ区分を選択します。
- ・ 管理者 : すべての権限を持っています。(管理者を追加することはできません。)
 - ・ 上位ユーザ : 「ユーザ」、「ブロックと許可リスト」、「バックアップと復元」、「アップグレード」以外、管理者と同じ権限を持っています。
 - ・ ノーマルユーザ : 「ライブ」の表示と「検索」のみ可能です。設定の変更はできません。
- ④ リモートで操作できる項目をチェックします。
- ⑤ [OK]をクリックして、追加します。

上位ユーザとノーマルユーザの初期権限

システム設定	基本情報		○
	日付と時刻		○
	ローカル設定		○
アラーム設定	モーション検出	検出設定	×
		エリアと感度	○
		スケジュール	○
	異常		○
	アラーム入力		○
	アラーム出力		○
ネットワーク設定			閲覧のみ
セキュリティ設定	ユーザ		○※
	オンラインユーザ		○

※ログイン中ユーザのパスワード変更

ユーザレベルと付与可能な権限

	上位ユーザ	ノーマルユーザ
ストレージ設定	○	×
画像設定 (全項目)	○	○
PTZ コントロール	○	○
アラームサーバ設定	○	○
イベント設定	○	○
ネットワーク設定	○	×
セキュリティ設定	○※	×
バックアップと復元	○	×
再起動とアップグレード	○	×
ログ閲覧	○	○
音声インターホン (双方向音声通話)	○	○
プレビュー (ライブ)	○	○
再生 (検索)	○	○
ユーザ管理	×	×

※ユーザ編集を除く、セキュリティメニュー

➤ パスワードの変更方法

- ① [変更]をクリックすると、「ユーザの編集」がポップアップします。

- ② [新しいパスワード]にチェックを入れ、旧パスワードと新しいパスワードを入力し、OK をクリックします。

注意
パスワード：**最大 16 文字** 英数字 と 記号可

レベルは、パスワードの強度を示します。「4.6.4 **セキュリティ管理**」にある[パスワードセキュリティ](#)で設定したレベル以上の組み合わせが必要です。

- ③ [Onvif ユーザを変更する]のチェックを外すと、Onvif 接続するときのパスワードは変更されません。「4.5.4 **ONVIF**」で設定するパスワードと設定内容は同じです。**チェックを入れた場合、カメラメニューにログインするときのパスワードと Onvif 接続パスワードの両方が同時に変更されます。**
- ④ リモートで操作できる項目を変更します。
- ⑤ [OK]をクリックして保存します。

➤ ユーザの削除方法

- ① 削除するユーザを選択します。選択されているユーザは青くなります。
- ② [削除]をクリックすると、削除の確認がポップアップするので OK をクリックして削除します。

➤ 安全質問（秘密の質問）

Admin ユーザに対して、秘密の質問、を設定することができます。

秘密の質問を設定しておく、パスワード忘れの際に初期化することなくパスワードを再設定できます。

安全質問

セキュリティの質問その1: あなたの中学校名は? (dropdown)

答え: (input field)

セキュリティの質問その2: あなたの小学校の名前は? (dropdown)

答え: (input field)

セキュリティの質問その3: 出生地 (dropdown)

答え: (input field)

OK キャンセル

4.6.2 オンラインユーザ

本機にアクセスしているオンラインユーザを表示（IP アドレス）します。

管理者ユーザは、他のすべてのユーザを追い出す(キックアウト)ことができます。

設定ホーム * セキュリティ設定 * オンラインユーザ

インデックス	クライアントアドレス	ポート	ユーザー名	ユーザー区分	ビデオストリーム	
1	192.168.226.45	51430	admin	管理者	1	キックアウト

4.6.3 ブロックと許可リスト

特定の IP アドレスからのアクセスを許可またはブロックします。

[アドレスフィルタリングを有効にする]にチェックを入れ、許可/ブロックの設定を行います。



IP アドレスフィルタの追加方法

- ① [次のアドレスをブロックします]または[次のアドレスを許可します]のどちらかを選択します。
 - ・ ブロック : リスト内のみブロックし、その他のデバイスは許可されます。
 - ・ 許可 : リスト内のみ許可し、その他のデバイスはブロックされます。
- ② IPv4 または IPv6 を選択し、アドレスを入力します。
- ③ [追加]をクリックすると、リストに表示されます。
- ④ [保存]をクリックして保存します。

IP アドレスフィルタの削除方法

- ① リストからアドレスを選択します。
- ② [削除]をクリックすると、選択しているアドレスを削除します。
- ③ [保存]をクリックして保存します。

4.6.4 セキュリティ管理

不正ログインを検出した時の対応を設定します。

➤ セキュリティサービス

[セキュリティサービス]タブを開き、不正ログインによるロック解除を防ぐことができます。

設定ホーム ▶ セキュリティ設定 ▶ セキュリティ管理

セキュリティサービス パスワードセキュリティ 認証する

不正ログインによるロックを有効

メールを送信

ログアウト時間 秒

保存

[不正ログインによるロックを有効]にチェックを入れると、ログイン試行に 6 回失敗するとロックされます。

ロックから **30 分後**または**カメラの再起動**によって、カメラは再度ログインすることができます。

[メールを送信]にチェックを入れると、通知をメールで受け取れます。送信先をチェックして選択します。

メールの送信先の設定は、「4.5.11 **Email**」で登録します。

設定ホーム ▶ セキュリティ設定 ▶ セキュリティ管理

セキュリティサービス パスワードセキュリティ 認証する

不正ログインによるロックを有効

メールを送信

受信者名 メールの送信先

ログアウト時間 秒

保存

[ログアウト時間]で設定した時間（設定範囲：30～3600 秒（初期値 300 秒））が経過すると（Web ブラウザなどで設定時間操作されない場合）、自動的にログアウトされます。次に操作するまで画面はそのままですが、操作しようとする、タイムアウトメッセージをポップアウトで表示して、ログインウィンドウに移動しますので、再度ログインしてください。



➤ パスワードセキュリティ

[パスワードセキュリティ]タブを開き、パスワードのレベルと有効期限を設定します。



パスワードレベルは、パスワード変更で利用できる文字の種類と長さを設定します。

- 弱い : 「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」から 1 文字以上
- 中 : 「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」から 2 種類以上を組合わせて 9 文字以上
- 強い : 「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」の全種類を組合わせて 9 文字以上

有効期限：30 日、60 日、180 日、365 日、永久から選択します。

期限が切れるとパスワードの変更画面がポップアップします。

➤ 認証する

RTSP や API でアクセスする時の、認証方法を設定します。

認証方法は、“Basic”と“Digest”から選択します。

設定ホーム ▶ セキュリティ設定 ▶ セキュリティー管理

セキュリティサービス: パスワードセキュリティ **認証する**

RTSP

認証する: Basic

API サービス

有効

認証する: Basic

プッシュサービスに登録する

認証する: Basic

保存

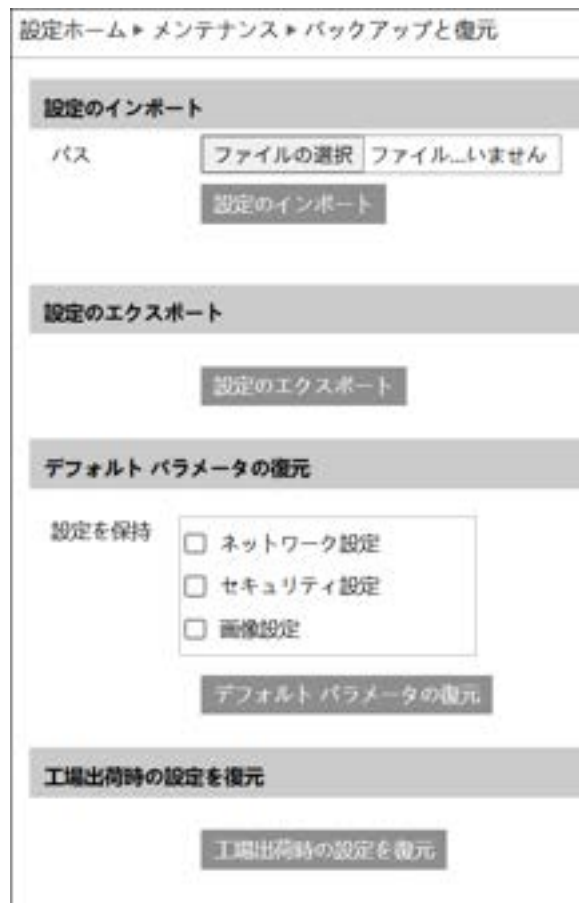
4.7 メンテナンス

バックアップと復元、再起動、アップグレード、操作ログ、シリアル出力、メンテナンス情報などのサブメニューがあります。



4.7.1 バックアップと復元

カメラの設定情報のインポート（復元）とエクスポート（バックアップ）、パラメータの復元、工場出荷時への復元を行います。



➤ 設定のインポート（復元）

「ファイルの選択」をクリックして、バックアップファイルを選択します。

「設定のインポート」をクリックして、設定を復元します。



注意：設定ファイルは同じバージョンのカメラからエクスポートしたファイルを使用します。

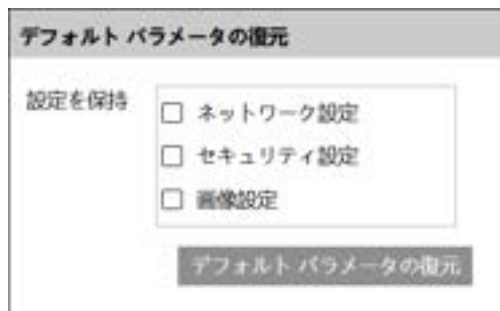
➤ 設定のエクスポート（バックアップ）

「設定のエクスポート」をクリックして、設定をバックアップします。（config.txt ファイルが生成されます。）



➤ デフォルトパラメータの復元

「設定を保持」で選択した項目は、復元されず、現在の設定を保持します。



➤ 工場出荷時の設定を復元

「工場出荷時の設定を復元」をクリックして、全ての設定を工場出荷時の初期設定に戻します。



4.7.2 再起動

カメラの再起動を行います。

設定ホーム ▶ メンテナンス ▶ 再起動

再起動

再起動

再起動には1-5分かかります。正常に起動するとブラウザは自動的に再接続します。

定刻自動再起動

時刻の設定

保存

➤ 再起動

[再起動]をクリックすると、パスワード入力画面がポップアップします。パスワードを入力するとカメラは再起動を行います。再起動には1～5分かかります。正常に完了すると、自動的に再接続、ログイン画面に戻ります。

再起動

再起動

再起動には1-5分かかります。正常に起動するとブラウザは自動的に再接続します。

➤ 定刻自動再起動

定期的に再起動を行います。

[時刻の設定]にチェックを入れると、自動的な再起動が有効になります。毎日または週に一度、決まった時間を指定します。

定刻自動再起動

時刻の設定

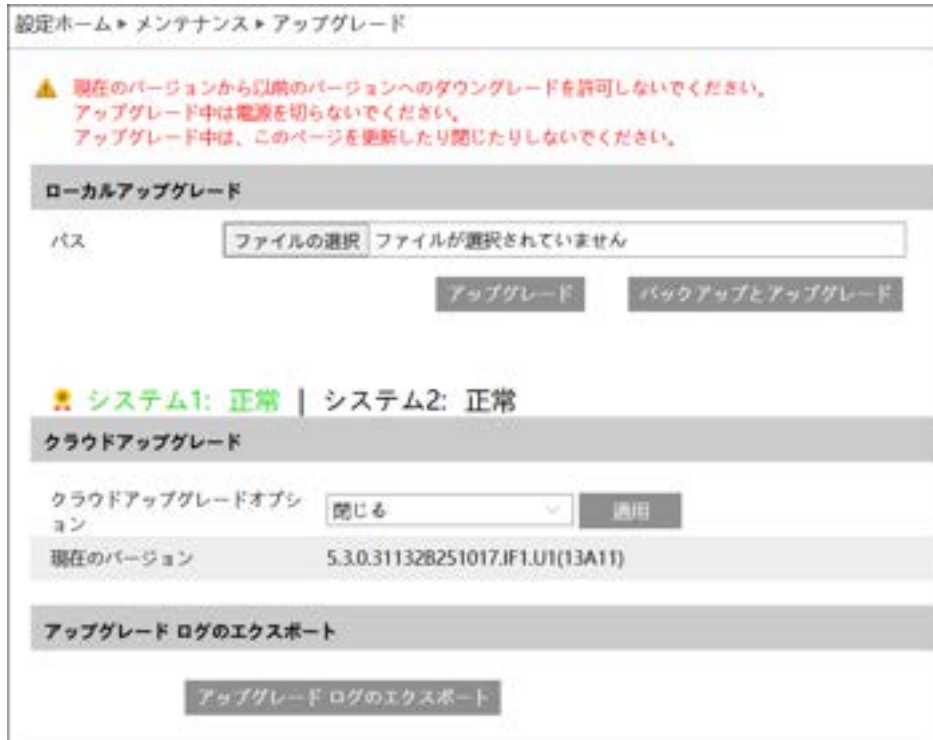
週

時間

保存

4.7.3 アップグレード

カメラのソフトウェアを更新します。



➤ ソフトウェアのアップグレード方法

- ① [ファイルの選択]をクリックして、アップグレードファイルを選択します。
- ② [アップグレード]または[バックアップとアップグレード]をクリックして、ソフトウェアのアップグレードを開始します。正しいパスワードを入力するとアップグレードを開始します。[バックアップとアップグレード]をクリックした場合、設定をエクスポートしてからアップグレードが開始します。
- ③ アップグレード終了後、カメラは自動的に再起動します。

※ 現在のバージョンから古いバージョンへ戻さないでください。

※ アップグレード中はブラウザを更新・閉じたり、カメラをネットワークから切断したりしないでください。システム障害の原因になります。アップグレード後、10分間は再度アップグレードしないでください。

※ アップグレード中はカメラの電源を切らないでください。

※ アップグレード中は監視などの機能は動作しません。

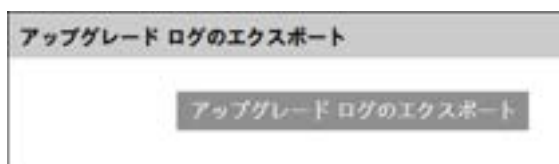
※ アップグレードのリスクを減らすため、本機では 2 つのシステムを採用しています。1 つのシステムが正常にアップグレードすると、もう 1 つのシステムが自動的に同期します。アップグレード中に停電や、そのほかの理由で 1 つのシステムに障害が発生した場合でも、もう 1 つのシステムには影響を受けず、カメラは正常に動作します。システムが同期するのに 15 分程度かかります。

➤ クラウドアップグレード

インターネットに接続されている場合は、クラウド経由で最新バージョンにアップグレードすることが可能です。本機能を利用する場合は、「クラウドアップグレードオプション」を「通知のみ」に設定します。

➤ アップグレード ログのエクスポート（工場メンテナンス用）

アップグレードでエラーが発生する場合は、メーカーでアップグレードログを解析することで改善を行います。



4.7.4 操作ログ

ログの種類を選択、開始時間と終了時間を指定、[検索]をクリックすると、ログが表示されます。

設定ホーム + メンテナンス + 操作ログ

第一区分: 第二区分:

開始時間: 終了時間:

インデックス	時刻	第一区分	第二区分	チャンネルID	ユーザー名	ログインIP	ホスト名
1	2026/4/9 13:36:19	操作	ログイン		admin	192.168.226.189	
2	2026/4/9 13:34:38	操作	ログアウト		admin	192.168.226.189	
3	2026/4/9 13:23:57	操作	ログアウト			192.168.226.189	
4	2026/4/9 12:33:57	操作	ログイン		admin	192.168.226.189	
5	2026/4/9 8:50:08	操作	ネットワーク変更				
6	2026/4/9 8:50:08	情報	DHCPの有効化成功				
7	2026/4/9 8:50:00	情報	システム起動				
8	2026/4/9 8:49:55	操作	システム設定				
9	2026/4/9 8:49:55	操作	システム設定				
10	2026/4/9 8:49:55	操作	システム設定				
11	2026/4/9 8:49:55	操作	システム設定				

1 / 20/page Go to 1 Total 17

ログの取得方法

- ① 第一区分、第二区分より、取得するログの種類を選択します。
- ② 開始時間と終了時間を設定し、検索するログの時間帯を指定します。
- ③ [検索]をクリックすると、指定時間内のログを表示します。
- ④ [エクスポート]をクリックして、ログをエクスポート・保存することができます。(eventLog.txt ファイルが生成されます。)

4.7.5 シリアル出力（工場メンテナンス用）

シリアル出力は、開発エンジニアが必要とするシステムデータを記録および収集するために使用されます。

※※ シリアル出力は有効にしないでください。 ※※



The screenshot shows a web interface for 'Serial Output' settings. At the top, the breadcrumb path is '設定ホーム > メンテナンス > シリアル出力'. Below this, there is a checkbox labeled '有効' (Enabled) which is currently unchecked. Underneath the checkbox is a label 'デバッグレベル' (Debug Level) followed by a dropdown menu showing 'RUN/WARN/ERROR'. At the bottom right of the form is a '保存' (Save) button.

4.7.6 メンテナンス情報

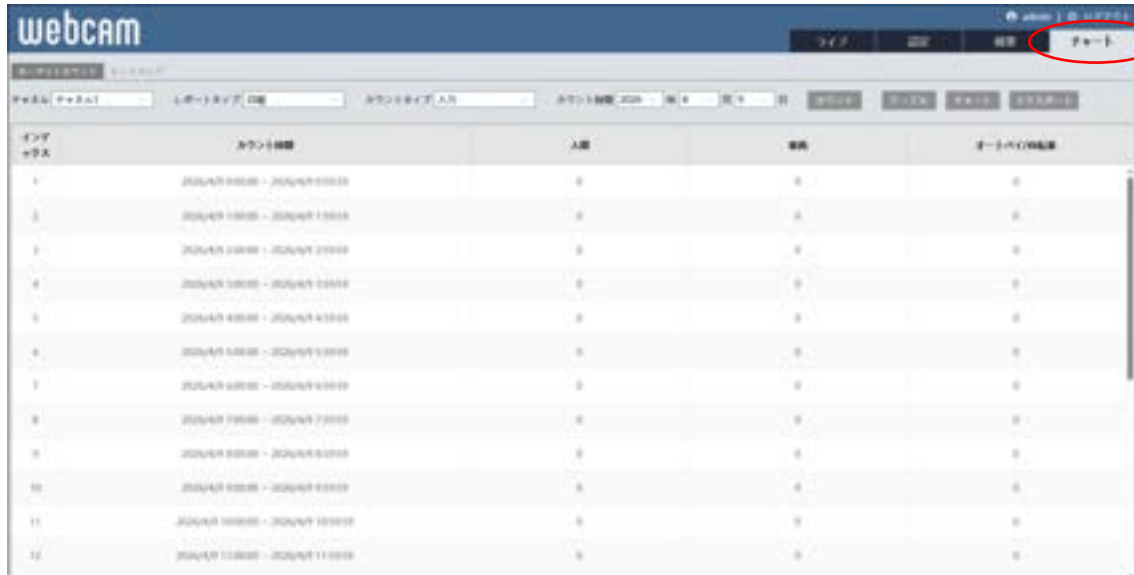
デバイスの障害原因を分析するための、基本的なシステム情報、ソフトウェアのバージョン情報、設定ファイル、操作ログ、実行ログ、およびアップグレードログ情報などをエクスポートします。



The screenshot shows a web interface for 'Maintenance Information'. At the top, the breadcrumb path is '設定ホーム > メンテナンス > メンテナンス情報'. Below this, there is a single 'エクスポート' (Export) button.

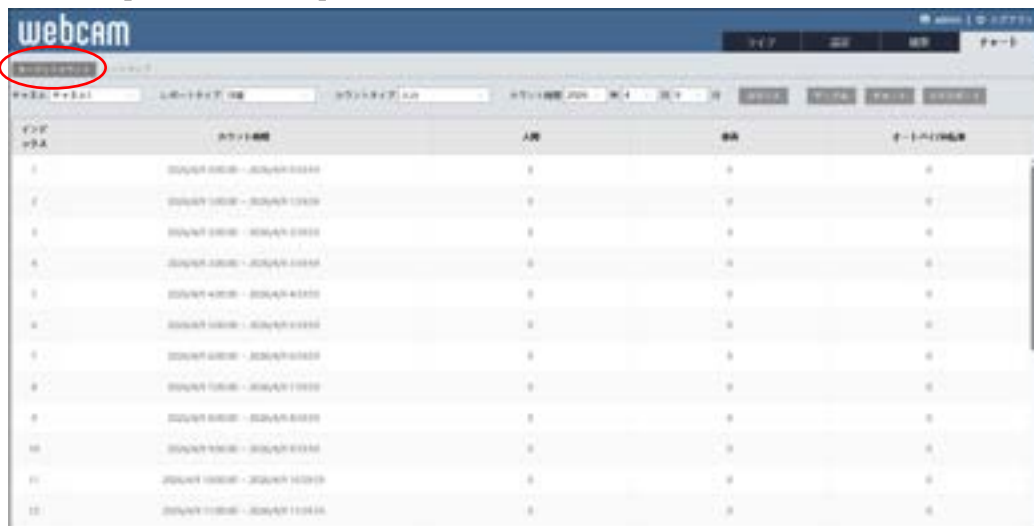
5. チャート

右上の[チャート]タブを開きます。



5.1 ターゲットカウント (ライン通過カウント)

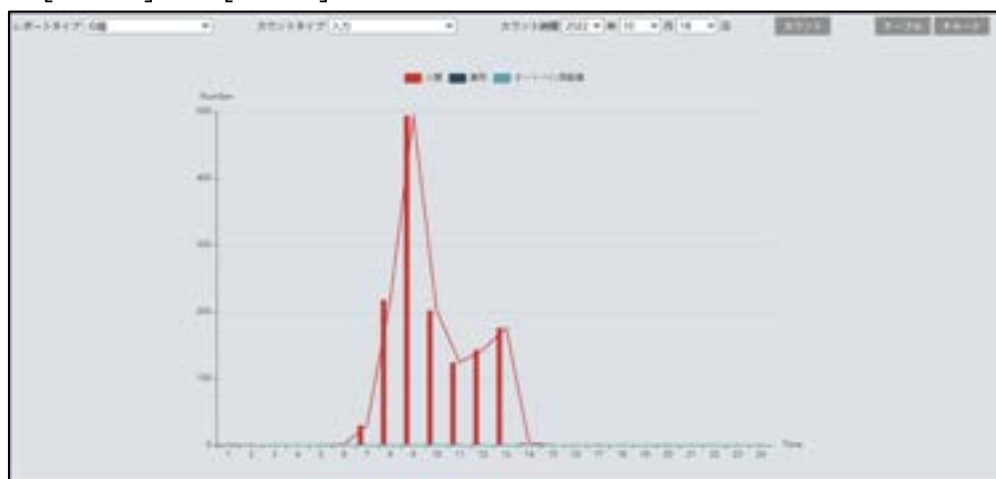
左上のタブから[ターゲットカウント]タブを選択します。



表示	説明
レポートタイプ	レポートする単位を設定します。 日報:1 日を時間単位で表示 週報:1 週間を曜日単位で表示 月報:1 月を日単位で表示 年報:1 年を月単位で表示
カウントタイプ	“入力（入る）”と“置き去り（出る）”を選択します。
カウント時間	ターゲットカウントの開始日時を設定します。
カウント <input type="button" value="カウント"/>	設定したレポートタイプやカウントタイプ、日時で再計算します。
テーブル <input type="button" value="テーブル"/>	表形式で表示します。
チャート <input type="button" value="チャート"/>	図形式で表示します。
エクスポート <input type="button" value="エクスポート"/>	カウントの結果を出力します。

図の表示方法

- ① [レポートタイプ]を選択します。
- ② [カウントタイプ]を選択します。
- ③ [カウント時間]で、カウントを開始する日時を設定します。
- ④ [カウント]ボタンをクリックして計算します。
- ⑤ [テーブル]または[チャート]をクリックすると表または図を表示します。

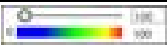


図の上部の[人間]、[車両]、[オートバイ/自転車]をクリックすることで表示・非表示を変更できます。

5.2 ヒートマップ

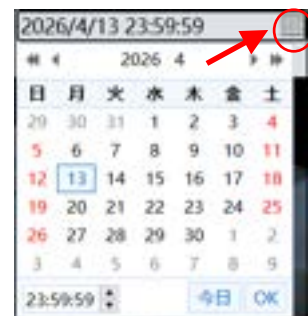
左上のタブから[ヒートマップ]タブを選択します。ターゲット（人間/車両/オートバイ・自転車）の分布が色付きで表示されます。分布数が高い場所は赤で、低い場所は青で表示されます。



表示	説明
開始時間	ヒートマップ表示の開始時間を設定します。
終了時間	ヒートマップ表示の終了時間を設定します。
カウント <input type="button" value="カウント"/>	クリックすると開始～終了時間のターゲットの分布を計算します。
種別	カウント終了後に、人間、車両、オートバイ・自転車を選択して表示を切り替えます。 ※本機は車両、オートバイ・自転車のヒートマップ表示は出来ません。
感度 	検出最大値（赤色）の設定を変更します。

操作方法

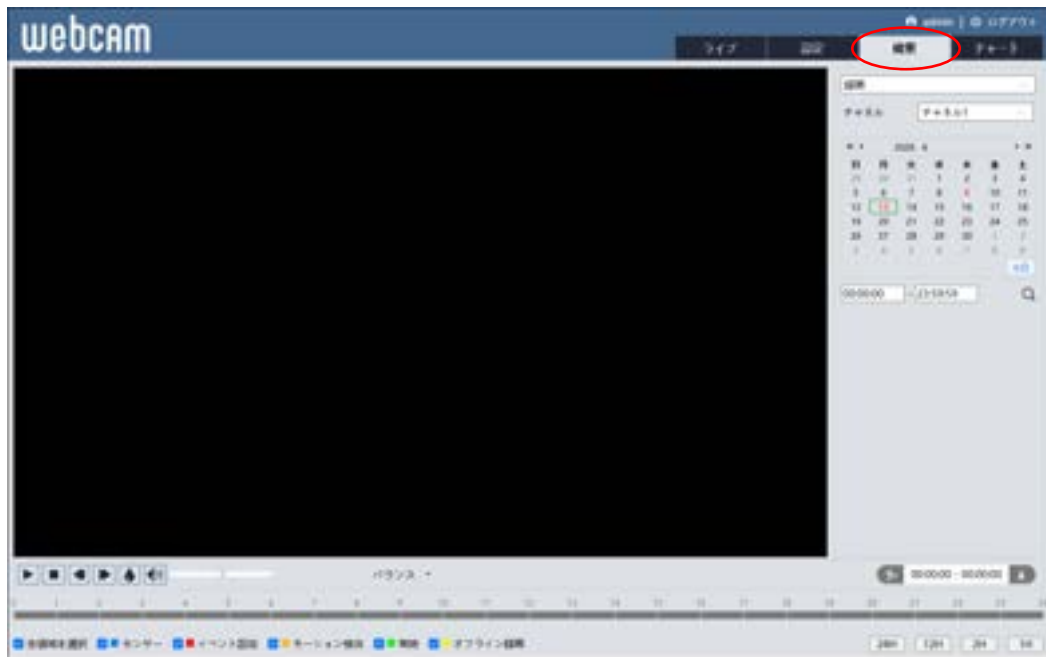
- ① [開始時間]を設定します。
- ② [終了時間]を設定します。
- ③ [カウント]をクリックして、再計算及び画面表示を変更します。
- ④ [人間]をクリックすると、ヒートマップを表示します。**※車両、オートバイ/自転車のヒートマップ表示はできません。**
- ⑤ 右下の[感度]のスライダを左右に動かす。または数値を手動で入力して赤色表示の数を調整します。



6. 検索

右上の[検索]タブを開きます。

ここでは、カメラ本体に取付けた SD カードに保存されている録画と写真を表示できます。

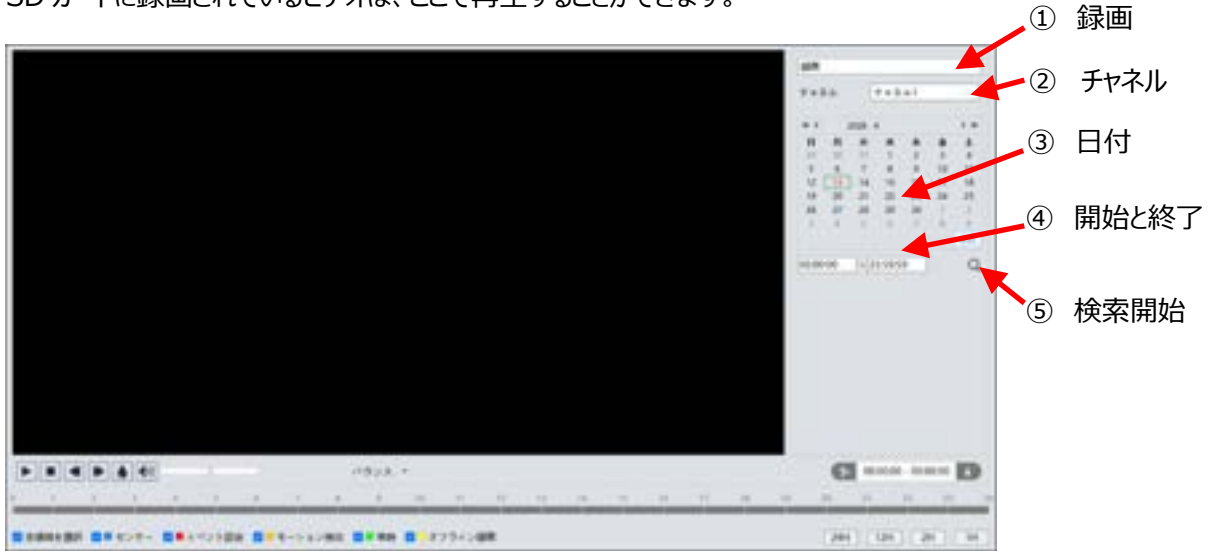


注意：SD カードの録画データを検索再生・ダウンロードするとき、Microsoft Edge を使用できます。

6.1 録画検索

6.1.1 SD カード録画 (動画)

SD カードに録画されているビデオは、ここで再生することができます。



録画検索画面のアイコンを説明します。

アイコン	説明	アイコン	説明
	再生/一時停止ボタン		停止ボタン
	スピードダウン		スピードアップ
	電子透かし表示		スピーカ ON/OFF

検索方法

- ① 右上のドロップダウンメニューから、“録画”を選択します。
- ② 再生したいチャンネルを選択します。
- ③ 検索したい日を選択します。
※録画データがある日はカレンダーの数字が赤色になっています。
- ④ 開始時間と終了時間を設定します。
- ⑤ をクリックして、録画ファイルを検索します。
- ⑥ 検索後に表示する録画ファイルリスト内のファイルをダブルクリックすると再生を開始します。
- ⑦ タイムテーブルは 24H / 12H / 2H / 1H 形式で表示できます。
センサー(青)、イベント設定(赤)、モーション検出(橙)、常時録画(緑)で色分けされて表示します。




ダブルクリックで再生開始




検索後に表示する録画
ファイルリスト



ビデオクリップとダウンロード

- ① タイムテーブル上をクリックして、開始時間を選択します。
- ②  をクリックすると青色  に変わり、開始時間が設定されます。
- ③ 終了時間も①②と同様に行います。
- ④  をクリックして、PC にビデオファイルをダウンロードします。
- ⑤ ダウンロード中は、以下のような画面が表示されます。
 設定：PC の保存ディレクトリを指定 / パス：保存フォルダを開く
 キャンセル：ダウンロードの中止 / ON：ビデオを再生
 リストクリア：ダウンロードリストの削除 / OFF：ダウンロード画面を閉じる

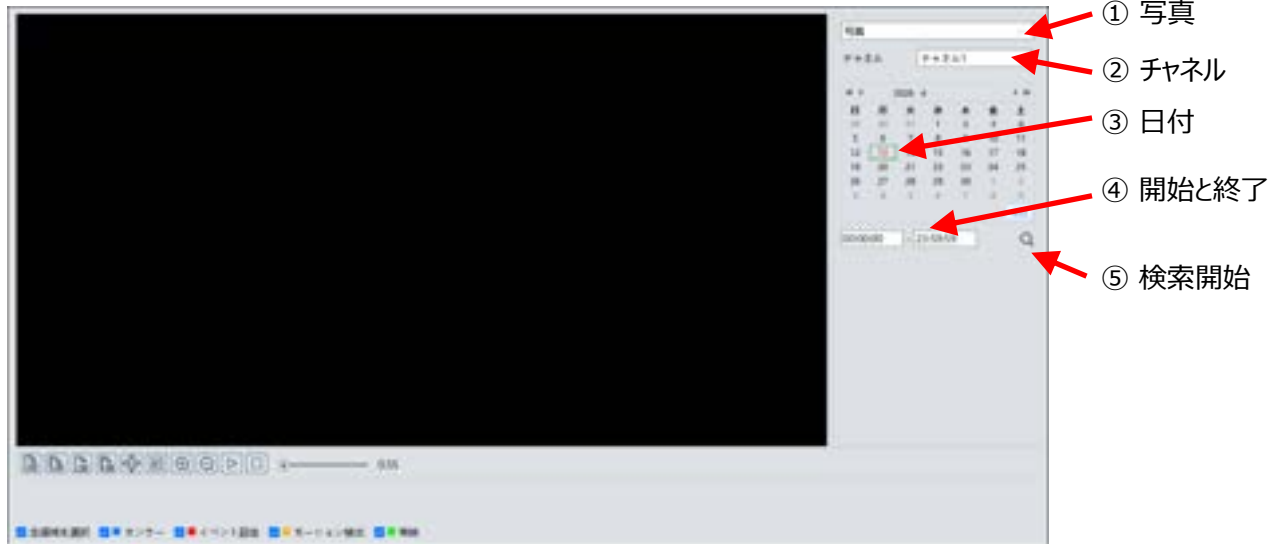


※ ファイル横の  で、イベントごとにダウンロードすることもできます。

6.2 画像検索

6.2.1 SD カード画像（静止画）

SD カードに保存されている画像（静止画）は、ここで見るすることができます。



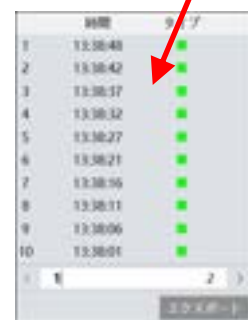
画像検索画面のアイコンを説明します。

アイコン	説明	アイコン	説明
	現在の画像を閉じる		すべての画像を閉じる
	現在の画像を保存		すべての画像を保存
	画面サイズに画像を調節する		実際の画像サイズ
	ズームイン/ズームアウト		スライドショー再生
	スライドショー停止		スライドショーの再生速度

検索方法

- ① 右上のドロップダウンメニューから、“写真”を選択します。
- ② 再生したいチャンネルを選択します。
- ③ 検索したい日を設定します。
※画像データがある日はカレンダーの数字が赤色になっています。
- ④ 開始時間と終了時間を設定します。
- ⑤ をクリックして、録画ファイルを検索します。
- ⑥ 検索後に表示する画像ファイルリスト内をダブルクリックして、保存された画像を表示します。

ダブルクリックで画像を表示



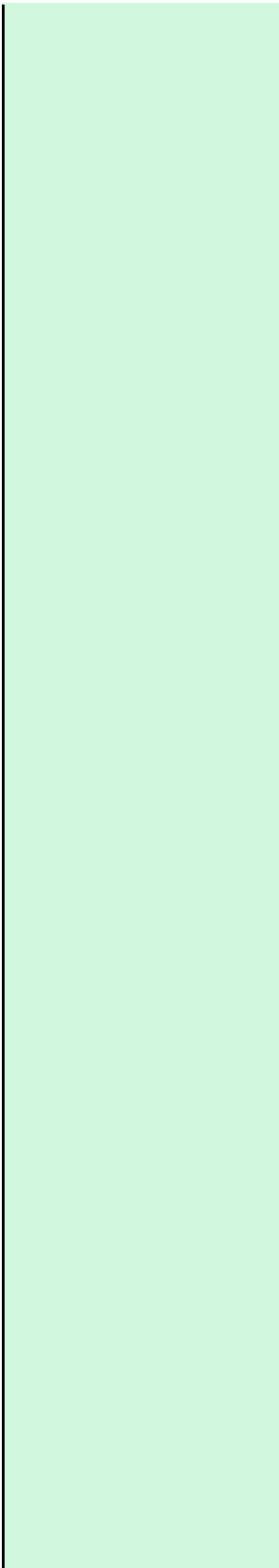
検索後に表示する画像
ファイルリスト

7. 製品仕様

●HIC-SF1200A

製品名	HIC-SF1200A	
形状	12MP FISHEYE 360度 全方位	
カメラ部		
撮像素子	1 / 1.7" 12MP CMOS SENSOR	
最低被写体照度	Color:0.01Lux@F2.0 AGC:ON / IR ON時:0Lux	
赤外線 LED	実装、照射距離 = 10~20m (スマート調光対応)	
S/N 比	50dB 以上 (AGC OFF 時)	
レンズ	1.65mm@F2.0 固定焦点レンズ (画角 水平 180度/垂直設置、360度/水平設置)	
DAY&NIGHT	自動 / 昼間 / 夜 / 時間設定	
露出調整	自動 (シャッター・ゲイン)	
シャッター速度	自動 (1 / 3~1 / 100,000) 及びフリッカレス	
ホワイトバランス	自動 / 屋内 / 屋外 / マニュアル	
DNR (ノイズ除去)	OFF / ON (LEVEL0~255)	
WDR 機能	OFF / ON (LEVEL0~255)	
逆光補正(BLC / HLC)	OFF / BLC (エリア: 上 / 下 / 左 / 右 / センター) / HLC	
画質調整	明度、コントラスト、色相、彩度、シャープネス	
画像鮮明化	OFF / ON (LEVEL0~255)	
設置モード選択	天井 (下向き)、壁面 (横向き)、机上 (上向き)	
画像表示モード (天井、机上)	Fisheye	魚眼 360度
	パノラマ	パノラマ (180度 x 2画面)
	F+P+3PTZ	魚眼 360度 パノラマ (180度 x 2画面) 魚眼 360度 + 3 PTZ (120度 x 3画面) パノラマ(180度 x 2画面)+ 3 PTZ(120度 x 3画面)
	Fisheye or 4PTZ	魚眼 360度 4PTZ(90度 x 4画面)
	Fisheye+4 分割	魚眼 360度 4 分割 (90度 x 4画面) ※表示のみ操作不可

画像表示モード (壁面)	Fisheye	魚眼 360 度		
	パノラマ	パノラマ (180 度 x 1 画面)		
	F+P+3PTZ	魚眼 360 度 パノラマ (180 度 x 1 画面) 魚眼 360 度 + 3 PTZ (120 度 x 3 画面) パノラマ(180 度 x1 画面)+ 3 PTZ(120 度 x 3 画面)		
	Fisheye or 4PTZ	魚眼 360 度 4PTZ(90 度 x4 画面)		
	Fisheye+4 分割	魚眼 360 度 4 分割 (90 度 x 4 画面) ※表示のみ操作不可		
その他の機能	ROI (8 エリア)、プライバシーマスク (4 エリア)、OSD (タイトル表示 / 時刻表示)、画像反転 (上下 / 左右)、SD カード録画			
スマート機能				
基本	モーション検知 異常検出 (ネットワーク接続、IP 競合、SD カードエラー)			
スマート検出	対象	人間、車両、バイク (※注 1)		
	機能	ライン越え、エリア侵入・退出、エリア内活動 ライン通過カウント、群衆密度、ヒートマップ		
アラーム連携	SD カード録画、SD カード静止画保存、アラーム接点出力 FTP アップロード、E メール通知、ローカル録画、ローカル静止画保存			
ネットワーク部				
画像圧縮方式	H.265+ / H.265 / H.264+ / H.264 / MJPEG			
音声圧縮方式	G.711A / μ			
インターフェース規格	ONVIF (PROFILE S)			
プロトコル	UDP、IPv4、IPv6、DHCP、NTP、RTSP、RTP、RTCP、RTMP、 ICMP、IGMP、FTP、PPPoE、DDNS、SMTP、SNMP、802.1x、 UPnP、HTTP、HTTPs、QoS、P2P			
ビットレート制御	CBR / VBR			
同時アクセス数	6			
フレームレート	1~30fps			
画像サイズ	チャンネル 1	第 1 ストリーム	Fisheye (最大 : 30fps)	3000x3000 2160x2160 1080x1080



	パノラマ (最大 : 20fps)	4000x3000 3840x2160 3200x1800 2560x1440
	F+P+120x3PTZ (最大 : 15fps)	3000x3000 2160x2160 1080x1080
	F+90x4PTZ (最大 : 30fps)	3000x3000 2160x2160 1080x1080
	F+90x4 分割 (最大 : 30fps)	3000x3000 2160x2160 1080x1080
第 2 ストリーム	Fisheye (最大 : 30fps)	1440x1440 720x720 480x480
	パノラマ (最大 : 20fps)	1920x1080 960x540 640x480
	F+P+120x3PTZ (最大 : 15fps)	1440x1440 720x720 480x480
	F+90x4PTZ (最大 : 30fps)	1440x1440 720x720 480x480
	F+90x4 分割 (最大 : 30fps)	1440x1440 720x720 480x480
第 3 ストリーム	Fisheye (最大 : 30fps)	960x960 640x640 360x360
	パノラマ (最大 : 20fps)	1280x720 640x360
	F+P+120x3PTZ (最大 : 15fps)	960x960 640x640 360x360

		F+90x4PTZ (最大 : 30fps)	960x960 640x640 360x360	
		F+90x4 分割 (最大 : 30fps)	960x960 640x640 360x360	
	チャンネル 2	第 1 ストリーム	Fisheye	無し
			パノラマ	無し
			F+P+120x3PTZ (最大 : 15fps)	4000x3000 3840x2160 3200x1800 2560x1440
			F+90x4PTZ (最大 : 15fps)	1280x720 960x540 640x360
			F+90x4 分割 (最大 : 20fps)	2560x1440
			Fisheye	無し
		第 2 ストリーム	パノラマ	無し
			F+P+120x3PTZ (最大 : 15fps)	1920x1080 960x540 640x480
			F+90x4PTZ	無し
			F+90x4 分割 (最大 : 20fps)	640x360
			Fisheye	無し
		第 3 ストリーム	パノラマ	無し
	F+P+120x3PTZ (最大 : 15fps)		1280x720 640x360	
F+90x4PTZ	無し			
F+90x4 分割 (最大 : 20fps)	640x360			
Fisheye	無し			
チャンネル 3	第 1 ストリームのみ	Fisheye	無し	
		パノラマ	無し	
		F+P+120x3PTZ	1280x720	

		(最大 : 15fps)	960x540 640x360	
		F+90x4PTZ (最大 : 15fps)	1280x720 960x540 640x360	
		F+90x4 分割	無し	
	チャンネル 4	第 1 ストリームのみ	Fisheye	無し
			パノラマ	無し
			F+P+120x3PTZ (最大 : 15fps)	1280x720 960x540 640x360
			F+90x4PTZ (最大 : 15fps)	1280x720 960x540 640x360
			F+90x4 分割	無し
	チャンネル 5	第 1 ストリームのみ	Fisheye	無し
			パノラマ	無し
			F+P+120x3PTZ (最大 : 15fps)	1280x720 960x540 640x360
			F+90x4PTZ (最大 : 15fps)	1280x720 960x540 640x360
F+90x4 分割			無し	
ビットレート設定範囲	4000x3000 3840x2160 3200x1800 3000x3000 2560x1440 2160x2160 1080x1080	64kbps ~ 16,384kbps : H.264 64kbps ~ 16,384kbps : H.265		
	1920x1080 1440x1440 720x720,480x480 960x540,640x480	64kbps ~ 8,192kbps : H.264 64kbps ~ 8,192kbps : H.265		

	1280x720 960x960,640x640 640x360,360x360	64kbps ~ 6,144kbps : H.264 64kbps ~ 6,144kbps : H.265
その他機能	オンラインユーザ表示、ユーザレベル（管理者 / ユーザ）、IP アドレス フィルタ、パスワード保護、不正ログインロック、Edge / Chrome / FireFox 接続、CMS / VMS 接続、モバイルアプリ接続	
外部インタフェース		
音声	入力 : 1 系統 (LINE) または内蔵マイク 出力 : 1 系統	
アナログ映像出力	BNC CVBS 1.0Vp-p (NTSC / PAL) (※注 2)	
アラーム IN/OUT	入力 : 1 系統 / 出力 : 1 系統 ※無電圧接点制御 接点容量 : AC125V 1A 以下、DC24V 1A 以下 最小電流 : 10mA 最小電圧 : DC5V	
SD カードスロット	Micro SD / SDHC / SDXC (最大 256GB サポート)	
イーサネット	RJ-45 (10 / 100BASE-T)	
シリアル制御	RS485 PELCO-D/P	
電源入力コネクタ	DC +12V (Φ2.1mm 標準 DC ジャック)	
一般		
電源	DC +12V (±10%) / PoE IEEE802.3af	
消費電力	IR LED OFF / AI OFF(ON)=4.1W (DC12V / 340mA) IR LED ON / AI OFF(ON)=7.9W (DC12V / 660mA)	
運用温度	-30℃~+60℃ (湿度 : 0%RH~95%RH)	
寸法	130 (φ) x 46.3 (H) mm (突起部含まず)	
認証	IP67、VCCI Class A	
耐衝撃構造	未対応	
重量	516g	
製品保証期間	1 年間	

※注 1 : 車両 / バイクの検出は、壁面取付けモード時のみ有効

※注 2 : CVBS 出力による全ての運用はサポートしていません。

8. 困ったときには

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときの対処方法について説明いたします。

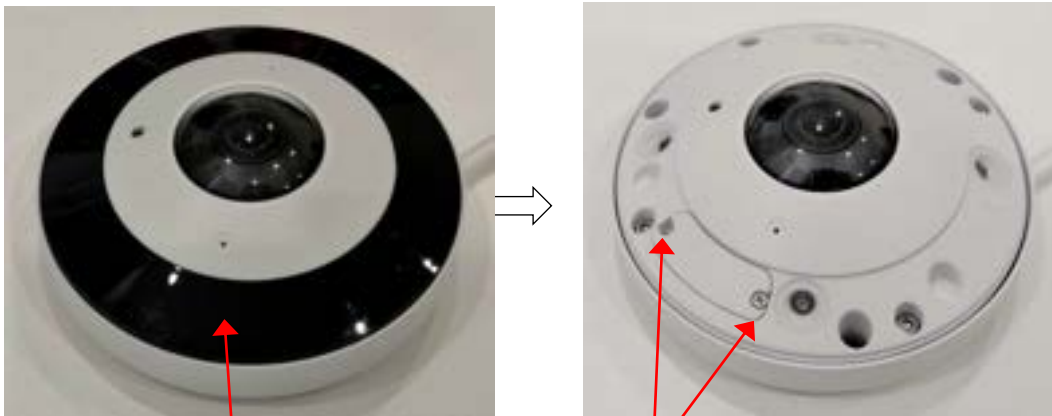
◆パスワードを忘れたときの対処方法

- リセットボタンを操作して初期化する。

※ デフォルト IP : 192.168.226.201 / ユーザ名 : admin / パスワード : 123456

★カメラのリセットボタンを押して工場出荷状態に戻す方法（HIC-SF1200A の場合）

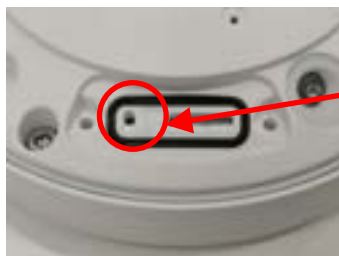
- ① 黒いカバー（プラスチック製）を外す。（磁石で固定されています。）
黒いカバーを外したら +ドライバーで白いカバーを外す。ネジは2か所あります。



黒いカバーを外す（磁石で固定）

白いカバーを外す（ネジ2か所）

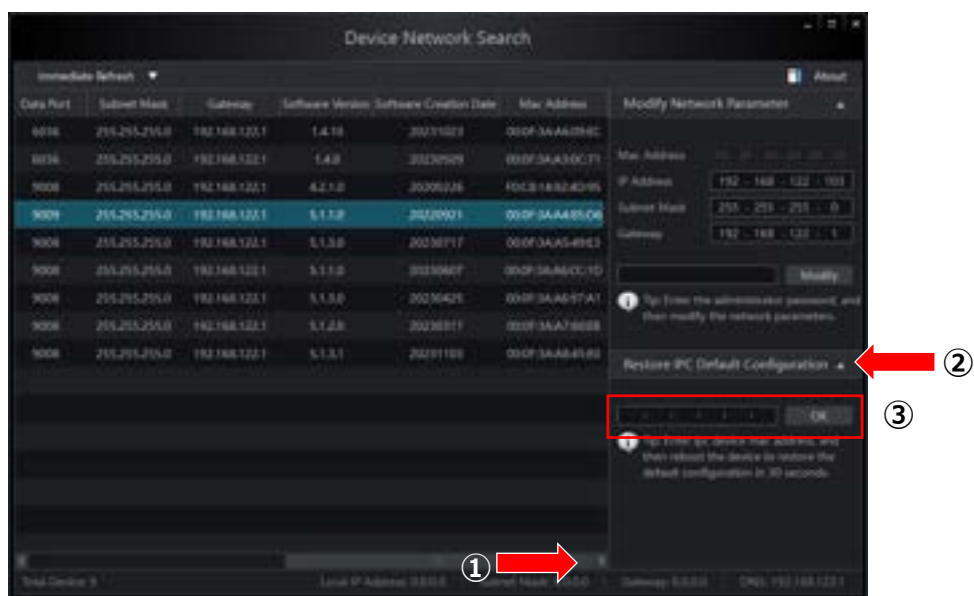
- ② リセットスイッチを10秒以上長押しする。



細い棒で10秒以上長押しする。
※強く押しすぎないように注意

- ③ カメラが再起動して初期値に戻ります。
- ④ 白いカバーと黒いカバー（プラスチック製）を元通りに取付けます。

- IP Tool で初期化する。
 - ① 下段のスクロールバーを右に操作して Mac アドレスを表示させます。
 - ② Restore IPC Default Configuration ▼をクリックして、Mac アドレス入力 BOX を表示します。
 - ③ Mac アドレスを入力して OK をクリックします。
 - ④ OK をクリックしたら、30 秒以内に電源を OFF→ON します



◆本機から YouTube Live 配信設定手順

(1) YouTube を開いて Google アカウントでログインします。



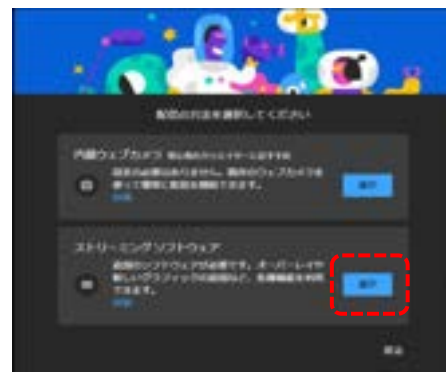
(2) 「+ 作成」をクリックして、「ライブ配信を開始」をクリックします。 ※チャンネルの確認をまだ行っていない場合は、画面の指示に沿ってチャンネルの確認を完了させます。ライブ配信が最初に有効になるまで、最大 24 時間かかることがあります。



(3) 「新しい YouTube ライブ管理画面へようこそ」が表示されたら、今すぐ「開始」をクリックします。



(4) 「配信方法を選択してください」が表示されたら、「ストリーミングソフトウェア」を選択します。



- (5) YouTube Studio の画面が開くので、「管理」をクリックした後、「ライブ配信をスケジュール設定」をクリックして、ライブ配信のスケジュールを設定します。新規作成をクリックします。



- (6) 詳細を設定します。配信のタイトルを入力します（必須）。下にスクロールして「視聴者」を設定します。その他の項目は必要に応じて設定し、「次へ」をクリックします。



- (7) カスタマイズを設定します。設定が完了したら「次へ」をクリックします。

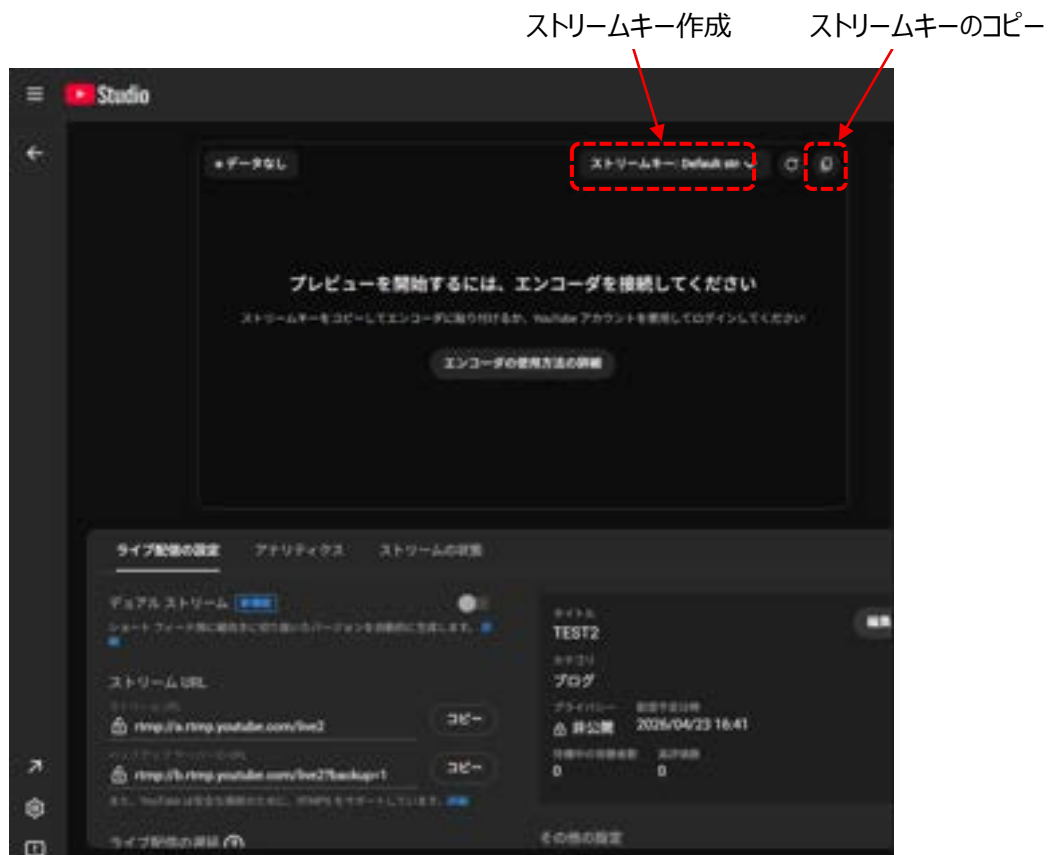


- (8) 公開設定を設定します。設定が完了したら「完了」をクリックします。

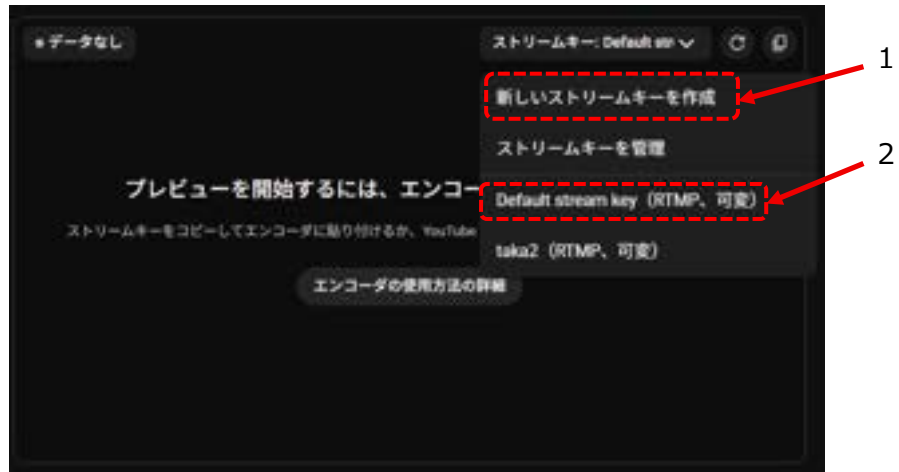


- (9) エンコーダ配信の画面にて、ストリーム URL とストリームキーをコピーします。

ストリームキーはデフォルトキーを使用するか、オリジナルのキーを新規に作成することができます。セキュリティ対策として、オリジナルキーを作成することを推奨します。



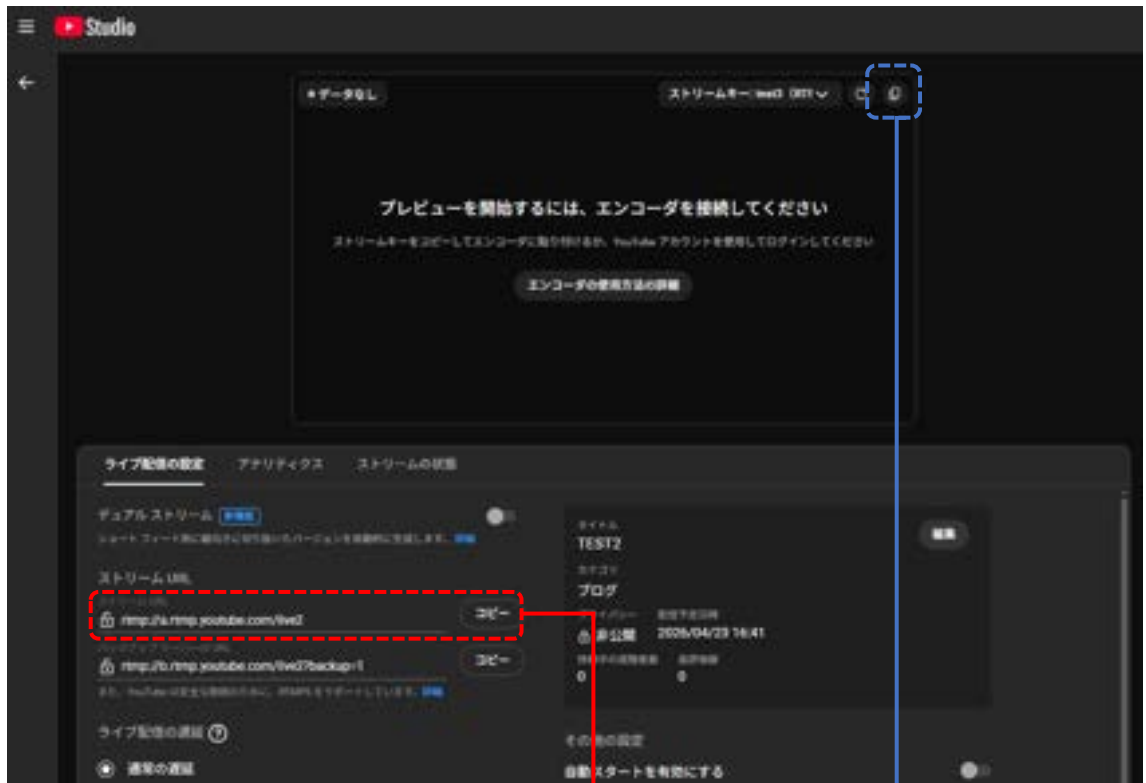
- (10) オリジナルキーを作成するときは「1」をクリックします。デフォルトキーのままが良いときは「2」をクリックします。



- (11) 「新しいストリームキーを作成」をクリックすると以下が表示されます。
「名前」を入力したら「作成」をクリックします。「作成」をクリックするとカスタムキーが作成されます。



- (12) ストリームキーとストリーム URL をコピーしてメモ帳などに記録します。



rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst
後ほど使用しますので、ストリーム URL とストリームキーは / で区切って、
メモ帳などに記録します。

(13) カメラに YouTube 配信に使用するストリームを設定します。

ストリーム設定は「4.2.2 映像/音声」で設定します。通信回線の速度に応じて、最適な設定を行います。ビデオ圧縮は必ず、「H.264」を設定する必要があります。

設定ホーム・画像設定・映像/音声

映像 音声

チャンネル: チャンネル1

インデックス	ストリーム名	解像度	フレームレート	ビットレートタイプ	ビットレート (Kbps)	ビデオ品質	フレーム間隔	ビデオ圧縮	プロファイル
1	第1ストリーム	3000x3000	15	CBR	6144	中	60	H.264	High Profile
2	第2ストリーム	1440x1440	15	CBR	4096	中	60	H.264	High Profile
3	第3ストリーム	960x960	15	CBR	2048	中	60	H.264	High Profile

(14) カメラのネットワーク設定 (RTMP) に YouTube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを設定して保存します。

[編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、各項目を設定します。

設定ホーム・ネットワーク設定・高度な設定

ポート サーバー ONVIF DNS SNMP B2.TX RSP RTMP UPnP Email FTP HTTP POST HTTPS NAT QoS

チャンネル: チャンネル1

有効 (注意: 一部の RTMP ストリーミング サービスでは、正常に動作するためにオーディオを有効にする必要があります)

ストリーム形式: 第1ストリーム 第2ストリーム 第3ストリーム

タイムアウト後に再接続する: 30 秒

サーバアドレス: example: rtmp://127.***.***.1:1935/live/

接続状態: 接続されていません

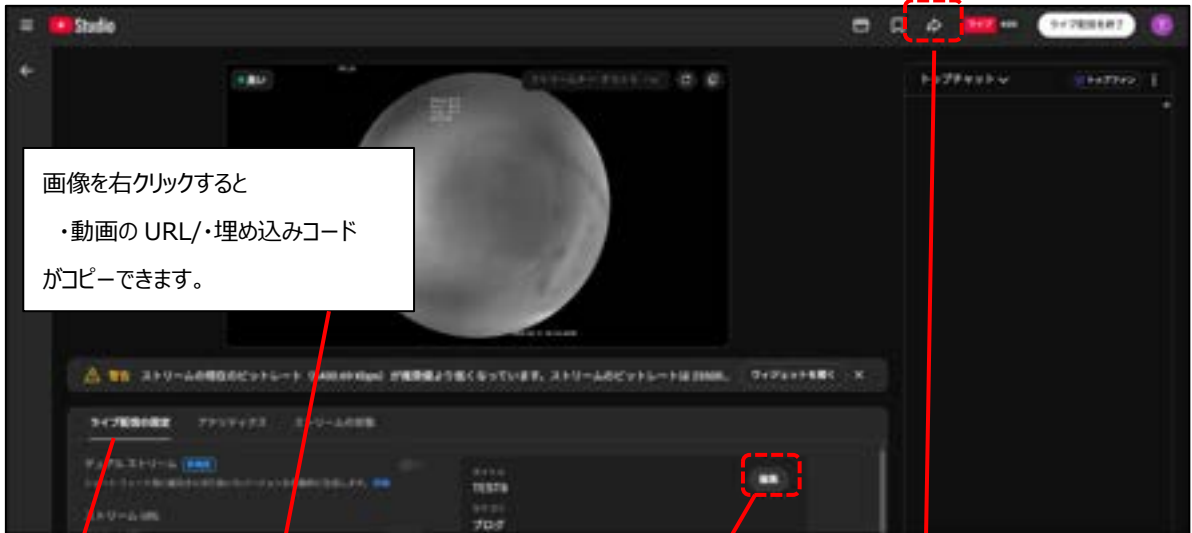
更新

編集

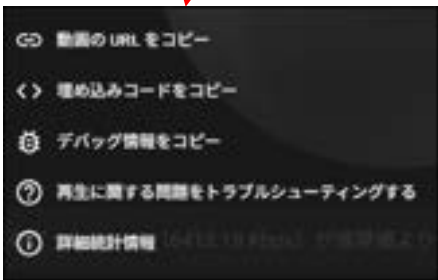
rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst
Youtube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを貼り付けます。

保存した後に「更新」をクリックします。「接続完了」の表示になれば YouTube との接続は完了です。

(15) カメラからの RTMP 接続が正常に行われている場合、ライブ配信が開始され、以下のような画面となります。ライブ配信を終了したい場合は、画面右上の“**ライブ配信を終了**” ボタンをクリックします。



画像を右クリックすると
・動画の URL/・埋め込みコード
がコピーできます。



ボタンをクリックすると、動画リンクを取得出来ます。



ライブ配信の設定にある編集ボタンをクリックすることで、動画のタイトル、概要欄の編集、また、公開範囲の設定等が行えます。



動画リンクをコピー

・限定公開 (リンクを知っている人だけが見れる)
・非公開
・公開 (誰でも見られる)
が選択出来ます。

◆本体の電源が入らない

以下の点を確認してください。

- 電源コンセントには、電源が供給されているか。
- 電源には、適切な電圧が供給されているか。
- 正しいポートに、電圧が供給されているか。

◆RJ-45 ポートでリンクが確立しない

以下の点を確認してください。

- 接続先の機器の電源は入っているか。
- 各コネクタとケーブルが正しく接続されているか。

◆ブラウザ経由でデバイスを接続できない

以下の点を確認してください。

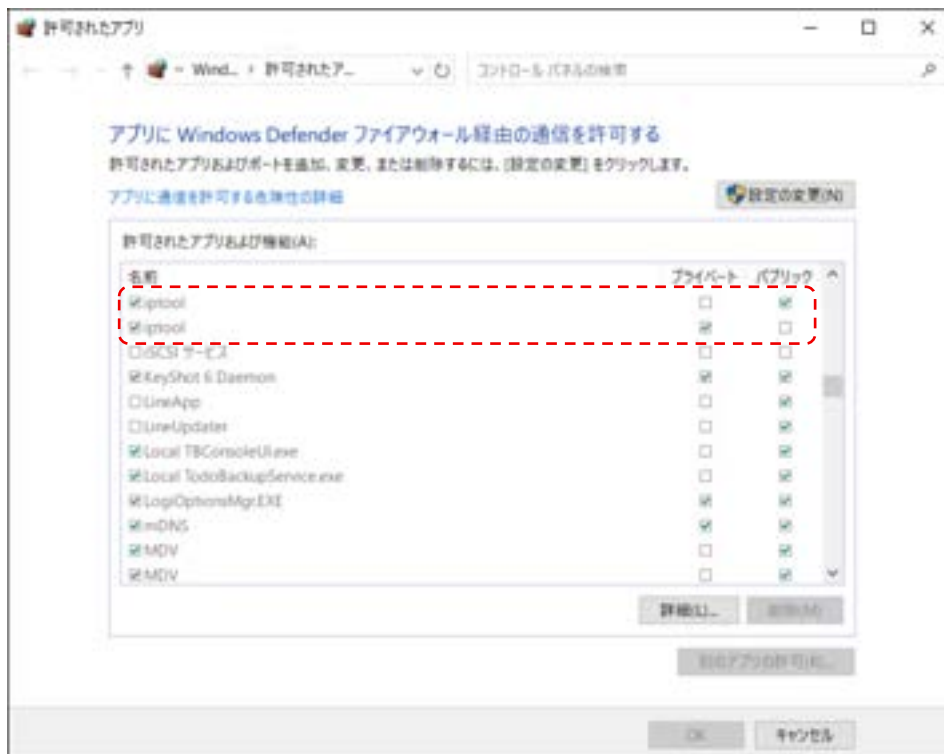
- ネットワークが正しく接続されていることを確認してください。
- IP が利用できない可能性(IP の競合など)があります。有効な IP にリセットしてください。
- Web ポート番号の設定を変更した、或いは変更された。管理者に連絡して、正しいポート番号を取得してください。

※ 上記の 3 つの理由以外の場合、IP-Tool でデフォルト設定に戻します。

デフォルト IP : 192.168.226.201 / サブネットマスク : 255.255.255.0

◆IP-Tool でデバイスが見つからない

- コンピュータのウイルス対策ソフトウェアが原因である可能性があります。終了して、デバイスを再度検索してください。
- スタート→設定→更新とセキュリティ→Windows セキュリティ→ファイアウォールとネットワーク保護→ファイアウォールによるアプリケーションの許可、に移動し IP-Tool がプライベート、パブリックの両方で許可されているか確認してください。
許可されていない場合は、「設定の変更」をクリックして許可してください。



◆プラグインをインストールしたが Edge の IE 互換モードで映像を表示できない。

- C++ (MSVC) ランタイム ライブラリがインストールされていない場合、プラグインが正常に動作しません。
IP Tool をインストールすると、必要な C++ (MSVC) ランタイム ライブラリがインストールされます。

◆プラグインをアンインストールしたい

- プラグインをアンインストールしたい、或いは、一度アンインストールして再インストールしたい場合は、スタート→設定→アプリ→アプリと機能、に移動してアンインストールします。
対象のアプリは、NetAPCamera、NetAIIPCamera、NetAIHotIPCamera、などです。

◆音が聞こえない

- マイクなどの音声出力デバイスが正しく接続されていることを確認してください。
- 音声出力デバイスの音声出力レベルを確認してください。
- 設定メニューの、画像設定→映像/音声で音声が無効になっているか確認してください。
- 設定メニューの、画像設定→映像/音声で、音声出力音量ボリュームを調整してください。

9. 製品保証

- ◆ 故障かなと思われた場合には、弊社カスタマサポートまでご連絡ください。
 - 1) 修理を依頼される前に今一度、この取扱説明書をご確認ください。
 - 2) 本製品の保証期間内の自然故障につきましては無償修理させていただきます
 - 3) 故障の内容により、修理ではなく同等品との交換にさせて頂く事があります。
 - 4) 弊社への送料はお客様の負担とさせていただきますのでご了承ください。

初期不良保証期間：

ご購入日より **3ヶ月間** (弊社での状態確認作業後、交換機器発送による対応)

製品保証期間：

《本体》ご購入日より **1年間**(お預かりによる修理、または交換対応)

- ◆ 保証期間内であっても、以下の場合は有償修理とさせていただきます。
(修理できない場合もあります)
 - 1) 使用上の誤り、お客様による修理や改造による故障、損傷
 - 2) 自然災害、公害、異常電圧その他外部に起因する故障、損傷
 - 3) 本製品に水漏れ・結露などによる腐食が発見された場合
- ◆ 保証期間を過ぎますと有償修理となりますのでご注意ください。
- ◆ 一部の機器は、設定を本体内に記録する機能を有しております。これらの機器は修理時に設定を初期化しますので、お客様が行った設定内容は失われます。恐れ入りますが、修理をご依頼頂く前に、設定内容をお客様にてお控えください。
- ◆ 本製品に起因する損害や機会の損失については補償致しません。
- ◆ 修理期間中における代替品の貸し出しは、基本的に行っておりません。別途、有償サポート契約にて対応させて頂いております。有償サポートにつきましてはお買い上げの販売店にご相談ください。
- ◆ 本製品の保証は日本国内での使用においてのみ有効です。

製品に関するご質問・お問い合わせ先

ハイテクインター株式会社 カスタマサポート

受付時間： 平日（土日祝日、年末年始、当社休業日を除く） 9:00～17:00

TEL： 0570-060030

問合せフォーム：

https://hytec.co.jp/contact/technical_support_form.html

